

令和 7 年度

児童教育学科 幼児教育学専攻

授 業 要 覧

SYLLABUS

YJC 山口短期大学
Yamaguchi Junior College

基礎教育科目

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
宗教学 Religion		全学科		25BAHU1001	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	島田 一道			
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	この講義の目標は宗教を知ることである。世界には数多くの宗教が存在し、その形態もさまざまである。日本においてもこれまでいくつもの宗教が誕生して、他国からも伝わってきている。まずはそれらを概観していく。そして、日本人はこれまで宗教とどのように関係してきたのか、それを歴史や文化の中からうかがっていく。 そして、現代に生きる我々がこれからどう宗教と向き合っていくのかを探っていきたい。					
到達目標	(1) 世界三大宗教（特に仏教）を知り、その内容を説明することができる。 (2) 日本における宗教の歴史を説明することができる。 (3) 浄土真宗や親鸞のことを説明することができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	宗教とは何か	宗教についてどんなイメージがあるか考えてくる。	2 時間	現代の日本人が感じている宗教観についてまとめる。	2 時間
	2	キリスト教	配布資料を読み込み、キリスト教について調べてくる。	2 時間	キリスト教の概要についてまとめる。	2 時間
	3	イスラム教	配布資料を読み込み、イスラム教について調べてくる。	2 時間	イスラム教の概要についてまとめる。	2 時間
	4	釈尊の生涯と仏教の誕生	教科書（講義時に指示）を読み込み、釈尊について調べてくる。	2 時間	釈尊の生涯についてまとめる。	2 時間
	5	仏教 その1	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	仏教の概要についてまとめる。	2 時間
	6	仏教 その2	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	仏教の概要についてまとめる。	2 時間
	7	仏教の伝播（インド→中国→日本）	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	仏教がどのようにして、日本に伝わってきたかをまとめる。	2 時間
	8	日本宗教史 その1（古代～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（古代～）について調べてくる。	2 時間	日本宗教史（古代～）についてまとめる。	2 時間
	9	日本宗教史 その2（中世～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（中世～）について調べてくる。	2 時間	日本宗教史（中世～）をまとめる。	2 時間
	10	日本宗教史 その3（近世～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（近世～）について調べてくる。	2 時間	日本宗教史（近世～）をまとめる。	2 時間
	11	親鸞の生涯と浄土真宗の誕生 その1	教科書（講義時に指示）を読み込み、親鸞の生涯（前半）について調べてくる。	2 時間	親鸞の生涯についてまとめる。	2 時間

	12	親鸞の生涯と浄土真宗の誕生 その2	教科書（講義時に指示） を読み込み、親鸞の生涯 （後半）について調べて くる。	2 時間	浄土真宗の誕生に ついてまとめる。	2 時間
	13	浄土真宗 その1	教科書（講義時に指示） を読み込み、浄土真宗に ついて調べてくる。	2 時間	浄土真宗の概要に ついてまとめる。	2 時間
	14	浄土真宗 その2	教科書（講義時に指示） を読み込み、浄土真宗に ついて調べてくる。	2 時間	浄土真宗の概要に ついてまとめる。	2 時間
	15	まとめ	過去 14 回の講義内容 を振り返ってくる。	2 時間	授業の振り返りを行 う。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（100%）				
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法		試験において、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび 参 考 文 献		『高校生からの仏教入門－釈尊から親鸞聖人へ－』小池秀章 著 本願寺出版社 2009 年				
メ ッ セ ー ジ な ど		皆さんにとって「宗教」とはどんなイメージですか。そして、生きていく中で「宗教」 を必要だと感じますか。 様々な宗教を知ることを通してこれらの問いを共に考えていきましょう。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 世界三大宗教 （特に仏教）を知 り、その内容を説明 することができる。	ほぼ完璧にで きる。	大きな間違い がなく、基本 を説明するこ とができる。	多少間違える が、最低限の 基本は説明で きる。	説明できない。	定期試験 （知識・理解）	35%
(2) 日本における宗 教の歴史を説明す ることができる。	ほぼ完璧にで きる。	大きな間違い がなく、基本 を説明するこ とができる。	多少間違える が、最低限の 基本は説明で きる。	説明できない。	定期試験 （知識・理解）	35%
(3) 浄土真宗や親鸞 のことを説明する ことができる。	ほぼ完璧にで きる。	大きな間違い がなく、基本 を説明するこ とができる。	多少間違える が、最低限の 基本は説明で きる。	説明できない。	定期試験 （知識・理解）	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
生活と芸術 Life and Art		全学科		25BAHU1002	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	木橋 奏子・椿 千栄子			
ディプロマ ポリシー との 関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	芸術は生活分野から切り離すことが出来ない。芸術とは特定の芸術家だけの特権ではないし、高尚な芸術作品を美術館で鑑賞することや、クラシカルな演奏会へ行くことだけでもない。「生活と芸術」とは、“生活に密着した芸術”であり、“生活に役立つ芸術”、“生活を豊かにする為の芸術”であるとも言える。ここでは、日本の伝統文化の一つである華道、様々なジャンルの音楽、五感に触れる造形作品、絵手紙、カード制作をする中で、生活の中に芸術を取り入れるセンスと方法、技術を身につける。世界でたった一つの自分の作品を制作する喜びと達成感を味わう。					
到達目標	(1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための感性を養うことができる。					
	(2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。					
	(3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」目的で作品を描き、制作する事ができる。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーションー生活と芸術とはー授業について	シラバスを読み、授業内容をイメージする	2 時間	「生活と芸術」の関係について、自分の考えをまとめる	2 時間
	2	花に触れる①	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2 時間	ワークシートに基づき振り返る	2 時間
	3	花に触れる②ーいけばなの基礎ー	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2 時間	ワークシートに基づき振り返る	2 時間
	4	花に触れる③ー伝統から自由花へー	事前に配布したプリント資料を読んでくる	2 時間	ワークシートに基づき振り返る	2 時間
	5	芸術鑑賞①ークラシック音楽(1)バロック・古典派	前時に配布したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2 時間
	6	芸術鑑賞②ークラシック音楽(2)ロマン派・近現代	クラシック音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2 時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2 時間
	7	芸術鑑賞③ー世界の音楽(1)様々なジャンルに触れるー	クラシック音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2 時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2 時間
	8	芸術鑑賞④ー世界の音楽(2)映画音楽とクラシック音楽の関係ー	映画音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2 時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2 時間

	9	プレゼンテーション ー「私」と音楽ー	好きな1曲についてプレゼンテーションの準備をしてくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	10	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでもくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	11	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでもくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	12	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでもくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	13	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでもくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	14	折り紙	事前に配布したプリント資料を読んでもくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
	15	調理実習	事前に配布したプリント資料を読んでもくる	2時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2時間
成績評価		作品（40%）、授業への取り組み（60%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法						
テキストおよび参考文献		テキスト：なし （プリントを随時配布）				
メッセージなど		木橋担当授業回：花材費として、1000円程度必要です。それ以上かかることはありません。詳しくは初回授業日に説明します。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための感性を養うことができる。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力が十分にある。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を概ね理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を理解できず、生活を豊かにするための感性を養うことができない。	作品 (知識・理解・技能・判断力・作品の完成度)	10%
	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力が十分にある。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を概ね理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を理解できず、生活を豊かにするための感性を養うことができない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%
(2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。	生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲が十分にある。	生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。	不十分ではあるが生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。	生活の中に「芸術」を取り入れることができる感性を磨く意欲がない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	50%
(3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」目的で作品を描き、制作する事ができる。	実際に使用したり、飾ったり、誰にでもプレゼントできるような作品を制作することができる。	実際に使用したり、飾ったり、知人であればプレゼントできるような作品を制作することができる。	人にプレゼントはできないかもしれないが、飾ったり、使用できる作品を制作することはできる。	実際に使用したり、飾ったり、人にプレゼントできるような作品を制作することができない。	作品 (知識・技能・創造性・表現力・作品の完成度)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
余暇生活論 Study on Leisure Life		全学科		25BAHU1003	1 年次	前期	
講義・演習・実技・ 実習・実験		単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家 教員	
講義		2	選択	正長 清志			
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○	
概 要	人間と社会のあり方を余暇生活というプラットフォームから見つめ、学習者一人ひとりが、これからの豊かなライフスタイルを創造していくことをねらいとして、余暇生活の概要、余暇生活のデザインを創造していく。						
到達目標	(1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。						
	(2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。						
	(3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見を述べることができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	授業ガイダンス自らのライフスタイルを振り返る		ライフスタイルをふり返る	2 時間	余暇時間の活動を考察する	2 時間
	2	少子高齢社会における余暇生活について		戦後日本の産業構造を確認する	2 時間	高齢者の余暇時間の活用を考察する	2 時間
	3	余暇生活とレクリエーション①		レクリエーション活動の種類を考察する	2 時間	余暇時間にできるレク活動を調べる	2 時間
	4	余暇生活とレクリエーション②		幼児に対応できる活動を報告する	2 時間	講義を離れて実践する	2 時間
	5	余暇生活とレクリエーション③		高齢者に対応できる活動を報告する	2 時間	講義を離れて実践する	2 時間
	6	余暇生活能力の向上に必要なこと①		ライフステージから余暇生活を考察する	2 時間	自分の一日の達成感を感じられたか	2 時間
	7	余暇生活能力の向上に必要なこと②		身体能力が向上できる運動を考察する	2 時間	誰もが参加できるかどうか考察する	2 時間
	8	余暇生活能力の向上に必要なこと③		机上で活動可能な余暇活動を報告する	2 時間	余暇時間に実践する	2 時間
	9	自らのライフスタイルを振り返る報告会		日々の生活に取り入れたことを報告する	2 時間	報告で生かせることを実践する	2 時間
	10	余暇生活を創造する①個人・グループ作業 テーマ「豊かな学生生活を送るために」		意見が表現できるように準備する	2 時間	これまでの学生生活をふり返る	2 時間
	11	余暇生活を創造する②個人・グループ作業 参考文献・先行研究の調査		先行研究を調べておく	2 時間	余暇生活が創造できるかふり返る	2 時間
	12	余暇生活を創造する③個人・グループ作業 これまでの情報・調査収集のまとめ		これまでの余暇生活の工夫を報告する	2 時間	ライフスタイルに変化が表れていることが認識できる	2 時間
	13	今後の創造的な余暇生活をめざして		これからも創造ができるこ	2 時間	みなさんの報告から取り入	2 時間

			とを確認する		れることを確認する	
	14	授業の感想・振り返りプレゼンテーション①	これまでの報告を参考に自分の発表の準備をしておく	2 時間	先行研究や参考文献が報告できるように準備しておく	2 時間
	15	授業の感想・振り返りプレゼンテーション② 総括	ライフスタイルに生かせる発表の準備をしておく	2 時間	生涯学習や地の関連科目との連携を理解する	2 時間
成績評価		課題・レポート（80%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		毎時間の、授業振り返りシートにコメントを記載し、次の授業時に返却します。定期レポート結果は、ルーブリック評価にあわせて結果を返却します。課題についての振り返りと、フィードバックについては課題レポート提出後に解説します。				
テキストおよび参考文献		参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付していく。配付した資料を各自のファイルに整理し課題を振り返り、提出に備えてください。 【持参物】 記録用ファイル ※オープン教材を使用することがあります。				
メッセージなど		入学してきた学生のみなさんと、豊かな余暇生活（学生生活）を送っていくためにさらに、充実した人生のプログラムを開発しながら、自らの創造的な余暇生活を創造していきましょう。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。	ほぼ完璧に説明できている。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できている。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	40%
(2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。	ほぼ完璧に説明できている。	大きな間違いがなく、説明できている。	間違いはいくつかあるが最低限の説明ができている。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	40%
(3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見をプレゼンテーションすることができる。	ほぼ完璧に自分の考えや意見を述べている。	大きな間違いがなく、自分の考えを述べている。	間違いはいくつかあるが最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力・プレゼンテーション）	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
比較文化概説 Introduction to Comparative Culture		全学科 (一般学生対象)		25BAHU1004	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	林 伸一			
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	日本の文化や風習を知り、外国の文化や習慣との違いを認識するとともに、異なる文化の存在への関心と理解を深める。どりらの文化が優れているかということではなく、違いを認め合うことが必要。					
到達目標	(1)自文化、他文化について、共通点と相違点を説明することができる。 (2)周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、価値観の違いを認め合うことができる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学において、大型ディスプレイまたは大型スクリーンによる視聴覚授業用の機器を準備し、パワーポイントによる映像と文字情報を活用した授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	Introduction、「異文化理解とは何か」「比較文化の視点」	Day 2 の資料を読む。	2 時間	Day 1 の振り返り。	2 時間
	2	「色の文化差とは」	Day 3 の資料を読む。	2 時間	Day 2 の振り返り。	2 時間
	3	「お風呂文化の違い」	Day 4 の資料を読む。	2 時間	Day 3 の振り返り。	2 時間
	4	「縦書き文化と横書き文化」	Day 5 の資料を読む。	2 時間	Day 4 の振り返り。	2 時間
	5	「省略する文化と明示する文化」行動様式	Day 6 の資料を読む。	2 時間	Day 5 の振り返り。	2 時間
	6	「違いに気づくー順勝手と逆勝手ー」	Day 7 の資料を読む。	2 時間	Day 6 の振り返り。	2 時間
	7	「異文化の認識ー非言語コミュニケーション」	Day 8 の資料を読む。	2 時間	Day 7 の振り返り。	2 時間
	8	「差別を考える」	Day 9 の資料を読む。	2 時間	Day 8 の振り返り。	2 時間
	9	「世界の価値観」	Day 10 の資料を読む。	2 時間	Day 9 の振り返り。	2 時間
	10	「異文化トレーニング」	Day 11 の資料を読む。	2 時間	Day 10 の振り返り。	2 時間
	11	「異文化受容」	Day 12 の資料を読む。	2 時間	Day 11 の振り返り。	2 時間
	12	「自分を知る」	Day 13 の資料を読む。	2 時間	Day 12 の振り返り。	2 時間
	13	「非言語コミュニケーション」	Day 14 の資料を読む。	2 時間	Day 13 の振り返り。	2 時間
	14	「アサーティブコミュニケーション」	Day 15 の資料を読む。	2 時間	Day 14 の振り返り。	2 時間
	15	「多文化共生社会の実現に向けて」	Day 1-15 の資料を読む。	2 時間	Day 1-15 の振り返り、最終レポートに備える。	2 時間
成 績 評 価	課題・レポート (50%)、ペアワーク・グループワーク・リレー朗読 (50%) 原則として 3 回以上の無断欠席は認めない。レポートのペナルティが発生する。					

課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	ポートフォリオと振り返りシート、レポートの下書きにはコメントを書いて返却
テキストおよび 参 考 文 献	資料は配布します。【参考文献】「縦書き文化と横書き文化―順勝手と逆勝手の方向性」 「絵本を見て考える間関係論―ヤングケアラーの問題」 「ウクライナ民話の紹介― 日本の昔話との比較」 「核のタブーとアーサー・ビナード作品」 ほか
メ ッ セ ー ジ な ど	クラスメートとの協同学習（ペアワーク）に積極的に取り組む態度を求めます。 内容・予定は変更する場合があります。楽しい授業を心がけたいと思いますので、 学生の皆さんのご協力をお願いします。

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 自文化、他文化つ いて説明することが できる。	ほぼ完璧に 説明できる。	大きな間違 いがなく、説 明できる。	間違いはい くつかある が、説明でき る。	説明できて いない。	課題・レポート (知識・理解)	50%
(2) 周りにいる人の異 なるバックグラウン ドを理解し、価値観の 違いを認め合うこと ができる。	周りにいる 人を理解し、 自身の価値 観を探究でき る。	ある程度、周 りにいる人 を理解し、自 身の価値観 を探究でき る。	ある程度周 りにいる人 を理解し、あ る程度自身 の価値観を 探究できる。	周りにいる 人を理解し ようとせず、 自身の価値 観も探究で きない。	ペアワーク・グル ープワーク・リレ ー朗読 (関心・意欲・態 度・技能・表現力)	50%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年次	期別
日本国憲法 The Constitution of Japan		全学科		25BASO1001	1 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			
講義	2	選択	古澤 裕二			
ディプロマ・ポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概要	日本国憲法の基本原理や具体的な条文の解釈だけではなく、憲法に関連するような法規や国内外の様々な社会問題等を取り上げ、現在の我が国における憲法はどうあるべきか、その望ましいあり方について考えを深めていきます。憲法に対する自分なりの見解をもつことによって、これまで以上に社会参画する力を身に付けることを目指します。					
到達目標	(1) 日本国憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できる。					
	(2) 日本国憲法はどうあるべきか、望ましいあり方について提案できる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	日本国憲法の概要	概要把握	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	2	第一章「天皇」	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	3	第二章「戦争の放棄」①	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	4	第二章「戦争の放棄」②	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	5	第三章「国民の権利と義務」①	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	6	第三章「国民の権利と義務」②	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	7	第三章「国民の権利と義務」③	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	8	第四章「国会」①	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	9	第四章「国会」②	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	10	第五章「内閣」	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	11	第六章「司法」	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	12	第七章「財政」①	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間

	13	第七章「財政」②	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	14	第八章「地方自治」	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
	15	前文、第九章「改正」、第十章「最高法規」、第十一章「補足」	最近の社会ニュースを収集	2 時間	本時の学習内容を復習	2 時間
成 績 評 価		定期試験（50%）、授業の取り組み（50%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		課題に対する模範解答や考え方を提示する。				
テキストおよび参考文献		テキスト：授業で参考資料を提示・配付 参考文献：第1回授業にて紹介 田尚樹の日本国憲法』百田尚樹著（祥伝社新書） 日本国憲法』池上彰著（新潮新書） 『百超訳				
メ ッ セ ー ジ な		日本国憲法の公布以来、これまで何度も憲法改正の議論があったものの、実際には一度も改正されないまま今日を迎えています。そこで、憲法に関連するような法規や国内外の様々な問題等を学ぶことを通じて、現在の我が国における憲法はどうあるべきか、自分なりの「憲法改正私案」を考えてみましょう。きっと、憲法解釈だけではわからない憲法の問題点や自分たちがおかれている社会情勢についても認識が深まることと思います。当然、「これが正解だ！」と言えるものはありません。正解ではなく自分なりの納得解を追究していきましょう。 幼稚園教諭二種、小学校教諭二種：「必修」				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 日本国憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できる。	授業で理解した内容を十分記述できる。	授業で理解した内容を概ね記述できる。	授業で理解した内容を最低限記述できる。	授業で理解した内容を記述できない。	授業の取り組み (知識・理解)	25%
	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、十分説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、概ね説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について、最低限説明できる。	憲法の構成や基本原理、具体的な条文の内容等について説明できない。	定期試験 (知識・理解)	25%
(2) 日本国憲法はどうあるべきか、望ましいあり方について提案できる。	授業で考えが深まったことを十分記述できる。	授業で考えが深まったことを概ね記述できる。	授業で考えが深まったことを最低限記述できる。	授業で考えが深まったことを記述できない。	授業の取り組み (思考・判断)	25%
	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき十分提案できる。	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき概ね提案できる。	憲法の望ましいあり方について、根拠に基づき最低限提案できる。	憲法の望ましいあり方について、提案できない。	定期試験 (思考・判断)	25%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
現代社会問題 Issues in Modern Society		全学科		25BASO1002	1 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
講義	2	選択	今川 晋平				
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○	
概 要	子どもや保護者はみな、それぞれの「時代性」を背負って生きている。現代の子どもたちは、どのような問題を抱えているのでしょうか？そして、それぞれの課題の子どもの姿を捉えながら、現代の子どもの問題について考える。						
到達目標	(1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。 (2) 子どもに関わる問題について具体的に述べることができる。 (3) マスコミ（新聞、テレビ等）のニュース報道に興味を湧き自分の意見を持って協議する。						
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション		配布資料を読んで おく	2 時間	課題を探す	2 時間
	2	子どもを育む現代社会文化		配布資料を読んで おく	2 時間	課題を探す	2 時間
	3	子どもの脳の発達とスマホの影響		配布資料を読んで おく	2 時間	課題を探す	2 時間
	4	人と人をつなぐコミュニケーション課題①		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	5	人と人をつなぐコミュニケーション課題②		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	6	他者との価値観の違い		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	7	子どもの依存症（スマホ）		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	8	子どもの依存症（人間関係）		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	9	児童虐待		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	10	学校に行けない子ども、行かない 子ども		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	11	特別な支援の必要な子どもと保護 者たち		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	12	特別養子縁組と赤ちゃんポスト		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	13	未成年の出産		配布資料を読んで おく	2 時間	発表準備	2 時間
	14	女性の社会進出と保育ニーズ		配布資料を読んで おく	2 時間	振り返りシート の記入	2 時間
	15	自己理解とは		配布資料を読んで おく	2 時間	課題レポート	2 時間
※授業内容を一部変更する場合があります。							

成 績 評 価	定期試験（40%）、課題・レポート（15%）、授業への取り組み（30%）、発表・グループワーク（15%）
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法	試験やレポートは、ルーブリック評価での結果を渡す。
テキストおよび 参 考 文 献	授業時にプリント配布
メ ッ セ ー ジ な ど	社会人に求められる教養、技能、品格を授業の中で身につける人生で最後の時間です。自覚して頑張りましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。	子どもの問題の変化を的確に説明できる。	子どもの問題の変化について大体のことを説明できる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変化を間違いはあるが説明できる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変化を説明できていない。	定期試験 (知識・思考力・表現力)	40%
(2) 子どもに関わる問題について具体的に述べることができる	子どもに関わる問題についての的確に認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について大体のことを認識し、自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について認識の間違いはあるが、最低限の自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について認識できておらず、自分の考えを述べていない。	課題・レポート (知識・思考力・判断力・表現力)	30%
(3) マスコミ（新聞、テレビ等）のニュース報道に興味を湧き自分の意見を持って協議する	的確な問題意識を持って協議している。	問題意識を持ち、協議している。	間違いはいくつかあるが、協議に参加している。	身近な問題に触れようとせず、協議していない。	授業への取り組み (関心・意欲・思考力・表現力)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
行動科学 Behavioral Science		全学科		25BASO1004	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	田原 浩章			
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとる ことができる社会人としてふさわしい人間性を有す。専門的職業人の資質と能力 を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学の学位を授与する					○
概 要	心理学がどのような学問であるかを紹介し、認知心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学といった各領域の基礎的な内容を概説する。授業は、パワーポイント資料や動画などを通して解説する。また、各授業中に講義内容について考えたことについて記入する授業課題を課す。					
到達目標	(1) 行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。 (2) 心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。 (3) 心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見いだし、取り組むことができる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション行動科学・心理学とは	—	—	心理学の中で学んでみたい内容をまとめる。	2 時間
	2	感覚・知覚	人間独自の感覚や知覚の機能ついて調べる。	2 時間	知覚と感覚の違いについてまとめる。	2 時間
	3	記憶	人間の記憶の機能について調べる。	2 時間	短期記憶・長期記憶の過程の違いについてまとめる。	2 時間
	4	学習	人間や動物の学習するメカニズムについて調べる。	2 時間	オペラント／レスポナント条件付けの違いについてまとめる。	2 時間
	5	感情	感情を構成する要素や付随する生理的反応について調べる。	2 時間	感情が社会生活にもたらす意味についてまとめる。	2 時間
	6	動機づけ	人の行動と動機づけの関係について調べる。	2 時間	動機づけの各理論と概要をまとめる。	2 時間
	7	知能	知能とは何かについて調べる。	2 時間	知能の定義の歴史の変遷や代表理論をまとめる。	2 時間
	8	パーソナリティ	パーソナリティや性格とは何かについて調べる。	2 時間	パーソナリティに関する代表理論や検査法についてまとめる。	2 時間
	9	発達	人の発達過程の中で興味のある時期について調べる。	2 時間	人の心身の発達の過程について概要をまとめる。	2 時間

	10	発達障害	発達障害とは何かについてまとめる。	2 時間	特に興味のある発達障害についてまとめる。	2 時間
	11	ストレス	ストレスとは何かについて自分の考えをまとめる。	2 時間	代表的なストレス理論とその概要についてまとめる。	2 時間
	12	社会・組織心理学	集団規範や集団心理についてイメージするものを書き出す。	2 時間	集団心理の理論に基づき身近な現象を考察する。	2 時間
	13	心理療法	心理療法や心理治療について調べる。	2 時間	各種心理療法の中から興味のある領域をまとめる。	2 時間
	14	心理カウンセリング	カウンセリングとは何かについて調べる。	2 時間	受容・共感・自己一致について、まとめる。	2 時間
	15	まとめ	これまでの配布資料を読み返し、復習する。	2 時間	心理学に関して特に興味を持ったテーマをまとめる。	2 時間
成 績 評 価		毎回の授業課題（関心・意欲・態度）30%、定期試験（知識・理解）35%、定期試験：記述問題（思考力・判断力・表現力）35%				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業課題への回答は必要に応じてフィードバックを行う。 定期試験と授業課題はルーブリック評価に基づき結果を示す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：資料を配布する 参考書：黒木俊秀 監修（2019）ひと目で分かるこころの仕組みとはたらき図鑑 有斐閣				
メッセージなど		各授業の終わりの課題は一部成績に反映します。また、定期試験では、授業課題に関連した記述問題についても出題する予定です。日頃から、心理学に関連する該当のテーマについてアンテナを立て、考えておくことをおすすめします。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。	心理学の各領域の基礎用語を十分に説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語を概ね説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語について最低限の内容を説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語を説明することができない。	定期試験 知識問題（知識・理解）	35%
(2) 心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連の見出し、説明した上で自分の考えを述べることができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連を見出し、説明することができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連の見出しが不十分である。	毎時の内容を通して、自分や他者の行動を説明できない。	定期試験 記述問題（思考力・判断力・表現力）	35%
(3) 心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見だし、取り組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現したうえで実際に取る組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現することができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができるが、表現が不十分である。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができない。	毎回の授業課題（関心・意欲・態度）	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
物理学 Physics		全学科		25BANA2002	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	吉村 洋輔			
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	物理学の基礎的・基本的事項を理解し、科学的なものの見方・考え方を養う。					
到達目標	(1) 力の表し方 合力、分力の求め方 2 力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。 (2) 重さ (N) と質量 (kg) の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。 (3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。 (4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。 (5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。 (6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。 (7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス℃と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。 (8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。 (9) 気体の熱的性質について 気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。 (10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。 (11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。 (12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	力の合成と分解	力の表し方、合力、分力の求め方。	2 時間	2 力のつりあいと作用反作用の違いが説明できる。	2 時間
	2	重さと質量	重さは測定する場所によって異なり質量は不変の量であるがわかる。	2 時間	重さと質量の関係が正しく理解できる。	2 時間
	3	いろいろな力	静止摩擦力、圧力、浮力が正しく図示できる。	2 時間	静止摩擦力、圧力、浮力が正しく理解できる。	2 時間
	4	剛体のつりあい	大きさのある物体について、力のモーメントが理解できる。	2 時間	力のモーメントのつりあいを使って大きさのある物体のつりあいを求めることができる。	2 時間
	5	速度と加速度	速度と加速度の概念が正しく理解できる。	2 時間	等速度運動、等加速度運動についてグラフに表し、グラフから速度、加速度、移動距離を求めることができる。	2 時間

	6	落体の運動	真上に投げた物体、水平に投げた物体の運動が正しく解説できる。	2 時間	等加速度直線運動の4つの公式を使って落体の運動を解説できる。	2 時間
	7	慣性力	電車内で天井からつるした物体にはたらく力を正しく図示でき、みかけの力慣性力を正しく説明できる。	2 時間	慣性力＝－質量×加速度を電車の運動、等速円運動において説明できる。	2 時間
	8	仕事と仕事率	仕事と仕事率を正しく理解できる。仕事の原理がわかる。	2 時間	ジュール、ワット単位次元についても理解する。	2 時間
	9	仕事量と力学的エネルギー	運動エネルギー、位置エネルギー。力学的エネルギーについて理解する。	2 時間	保存力だけがはたらく場合力学的エネルギーは保存されることを使って、真上に投げた物体の運動、水平に投げた物体の運動を解説できる。	2 時間
	10	熱とエネルギー	熱の本性について正しく理解し、様々な熱現象を原子、分子の概念を用いて説明できる。	2 時間	セルシウス度、絶対温度、熱の仕事当量について理解を深める。また熱量計算ができる。	2 時間
	11	気体の熱的性質	気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイルシャルルの法則を正しく理解する。	2 時間	気体の内部エネルギー、熱力学の第一法則断熱変化について理解する。	2 時間
	12	波の伝わり方	波の伝わり方を媒質の概念から説明できる。	2 時間	横波、縦波、ドップラー効果について理解を深める。	2 時間
	13	電気と電圧、電流と電子	電流回路、抵抗、電圧降下、抵抗率、オームの法則を理解する。	2 時間	抵抗を直列、並列接続した回路で抵抗を流れる電流を求める。	2 時間
	14	電気エネルギー	ジュールの法則、電力、電力量、電力の単位を理解する。	2 時間	電気器具を消費した時間から消費電力を求めることができる。	2 時間
	15	問題演習	問題演習課題プリント	2 時間	プリントの問題が確実に解けるようにする。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（80%）、課題・レポート（20%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		ループリック評価をフィードバックする。				
テキストおよび参考文献		作成プリントを使用				
メ ッ セ ー ジ な ど		日常生活でよく出会う物理事象を取り上げ、おもしろく興味ある授業にする。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 力の表し方 合力、分力の求め方 2力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。	ベクトル作図を使ってほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく基礎・基本的事項は理解できている	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(2) 重さ (N) と質量 (kg) の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いはなく基礎・基本的事項は理解できている	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	5%
(3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。	力のベクトル作図を使って説明でき、ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。応用力も身につけている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%
(5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	基礎・基本的事項が大きな間違いがなく、ほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	8%
(7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス度と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	5%
(8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	7%
(9) 気体の熱的性質について 気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%

(10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%
(11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	10%
(12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	課題・レポート	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
生物学 Biology		全学科		25BANA2003	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験		単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家 教員
講義		2	選択	安藤 稔朗		
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	生物学への興味と関心が遠ざかった学生や、高校で生物を履修してこなかった学生も考慮に入れながら、生物学の基礎的・基本的事項について学習し、生物学的思考力を養う。 生物学の基礎となる理論、現象について学習する。					
到達目標	(1) 生物分野において、科学的なものの見方、考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。 (2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。 (3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容 復習 時間
	1	オリエンテーション		テキスト 1～5 ページを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる 2 時間
	2	生物学のあゆみ		用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる 2 時間
	3	生命とは何か ー生命とその特徴ー		用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる 2 時間
	4	生命の基本単位 ー細胞ー		テキスト6～11 ページを調べておく	2 時間	単細胞生物と多細胞生物をまとめる 2 時間
	5	植物の構成と機能		用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる 2 時間
	6	植物の成長		テキスト 12～13Pを調べておく	2 時間	植物の成長について特色を整理する 2 時間
	7	環境と植物		用意したプリントを読んでおく	2 時間	環境と植物のかかわりをまとめる 2 時間
	8	動物の働き ー生理作用ー		用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる 2 時間
	9	動物の行動		テキスト 20～25Pを調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容を復習する 2 時間
	10	生殖と発生		テキスト 14～16Pを調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる 2 時間
	11	遺伝		用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる 2 時間
	12	生物の多様性と進化		用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる 2 時間
	13	生物の生活と生産		テキスト 26～30Pを調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる 2 時間
	14	生物界のつりあいと自然環境保全		テキスト 31～32Pを調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる 2 時間
	15	地球環境と生命		テキスト 33～34Pを調べておく	2 時間	授業を振り返り、要点をまとめる 2 時間
成 績 評 価		定期試験（30%）、課題・レポート（30%）、教材作成（40%）				

課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：安藤稔朗「生物学」山口短期大学 資料・プリント：その都度配布
メ ッ セ ー ジ な ど	講義で学び取る学習から、講義を契機に自分の頭で思考する学習への転換をはかることが肝要である。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 生物分野において、科学的なものの見方、考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、内容を説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	30%
(2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (関心・意欲)	30%
(3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。	ほぼ完璧に授業を工夫できる。	大きな間違いがなく、授業を工夫できる。	間違いはいくつかあるが、授業を工夫できる。	工夫できていない。	教材作成 (思考力・判断力・表現力)	40%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
データサイエンス入門 Introduction to Data Science		全学科		25BANA1001	1 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
講義	2	選択	横山 修				
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○	
概 要	数理・データサイエンス・AI は、私たちの日常生活や社会の諸問題を解決する有力なツールである。この講義では、数理・データサイエンス・AI がどのような領域でどのように利活用されているのかを現場での事例を挙げて説明する。また、数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり、留意すべき事項についても解説する。さらに、データを適切に処理・分析する力を養うため、実データを用いた演習を行う。						
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。 (2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AI の活用領域について説明することができる。 (3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。 (4) 数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり留意すべき事項（ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等）を説明できる。 (5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。						
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション ―数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化―		AI の定義について調べる	2 時間	AI により社会で起きている変化をまとめる	2 時間
	2	社会で利活用されているデータとその活用法および活用領域		調査データ、実験データ等、データの種類について調べる	2 時間	データの種類およびデータ処理の流れをまとめる	2 時間
	3	データ・AI の利活用のための技術		予測、グルーピング等、データ解析の方法について調べる	2 時間	データ解析における AI の活用方法をまとめる	2 時間
	4	現場におけるデータ・AI 活用の事例紹介		データ駆動型社会について調べる	2 時間	データ解析による意思決定方法をまとめる	2 時間
	5	データ・AI 活用の最新動向		デジタルトランスフォーメーション(DX)について調べる	2 時間	AI によるビジネスモデルの変革をまとめる	2 時間
	6	情報セキュリティ、データ・AI 利活用における法と倫理		仮名加工情報・匿名加工情報について調べる	2 時間	データを扱う際の留意事項をまとめる	2 時間
	7	データを読む① ―量的データと質的データ、データの分布と代表値―		代表値の種類について調べる	2 時間	代表値の長所・短所をまとめる	2 時間
	8	データを読む② ―データのばらつき―		データのばらつきを測る尺度について調べる	2 時間	分散・標準偏差を導出する方法をまとめる	2 時間

	9	データを読む③ —誤差、打ち切り、脱落を含むデータの取り扱い—	誤差の種類について調べる	2 時間	打ち切り誤差・脱落誤差の具体例をまとめる	2 時間
	10	データを読む④ —データの相関—	2 変数の関係を読み解く方法について調べる①	2 時間	相関係数を導出する方法をまとめる	2 時間
	11	データを読む⑤ —クロス集計—	2 変数の関係を読み解く方法について調べる②	2 時間	クロス集計表・散布図を作成する方法をまとめる	2 時間
	12	データを読む⑥ —母集団と標本—	母集団と標本の関係について調べる	2 時間	標本を抽出する方法をまとめる	2 時間
	13	データを説明する —データのグラフ・チャート化—	グラフの種類について調べる	2 時間	グラフの長所・短所をまとめる	2 時間
	14	データを扱う① —データ解析ツールの使用方法—	資料整理のための関数の種類について調べる	2 時間	実データを用いて資料を整理する	2 時間
	15	データを扱う② —データの可視化—	データの可視化について調べる	2 時間	実データを用いて資料を可視化する	2 時間
成 績 評 価		定期試験（50%）、課題（50%）				
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法		ループリック評価に基づき結果を示す。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：なし				
メ ッ セ ー ジ な ど		小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状：必修、情報メディア学科：卒業必修				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	20%
(2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AI の活用領域について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(4) 数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり留意すべき事項（ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等）を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%

(5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。	ほぼ完璧に、データ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	大きな間違いがなく、データ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限のデータ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	データの処理・分析ができない。	授業への取り組み (知識・理解・技能・思考力・判断力)	20%
					課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
学問と人間の探求 Study on Academics and Human Beings		全学科		25BAGE1001	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	柴田 道信・佐藤 嘉倫			
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	新入生が大学生活に円滑に適応し、学友とともに有意義な学生生活を送れることを目的とする。本学の理念と方針、学生生活の心得、大学での学びへの理解を深めるとともに、これからの人生を見据えた学生生活のあり方を学生自ら考える時間とする。					
到達目標	(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。 (2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。 (3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション	シラバスを読み、科目の内容を把握する	1 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間
	2	本学を知る ～建学の精神と 3 つのポリシー～	学生便覧の該当箇所を読む	2 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間
	3	学生生活について①学生生活の心得	学生便覧の該当箇所を読む	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
	4	学生生活について②安全・安心な生活	消費者問題について調査する	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
	5	大学での学びとキャリアデザイン	大学での学びの意義を考え、まとめる	2 時間	授業内容を振り返り、自己分析を行う	2 時間
	6	Google Classroom の利用①基本的な使用方法	Google Classroom について調べておく	2 時間	授業内容を振り返り、課題に取り組む	2 時間
	7	Google Classroom の利用②課題等の提出方法	どのような提出方法があるか調べておく	2 時間	授業内容を振り返り、課題に取り組む	2 時間
	8	レポートの書き方①レポートとは？	レポートとは何かを調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
	9	レポートの書き方②原稿用紙の使い方	原稿用紙の使い方を調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
	10	レポートの書き方③論理的な書き方	論理的な書き方とは何か考える	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
	11	レポートの書き方④引用のルール	引用のルールについて調べる	2 時間	課題レポートを作成する	2 時間
	12	グループ討議について	グループ討議の発散・収束手法を調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
13	グループ討議①選択型	選択型グループ討議について調べる	2 時間	授業内容を振り返り、グループ討議の意義を考える	2 時間	

	14	グループ討議②課題解決型	課題解決型グループ討議について調べる	2時間	授業内容を振り返り、グループ討議の意義を考える	2時間
	15	まとめ	授業全体を振り返る	2時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2時間
成績評価		課題・レポート (30%)、授業への取り組み (40%)、グループワーク・グループ討議 (30%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		授業において提示した課題については、授業内で個人あるいは全体に対してフィードバックする。				
テキストおよび参考文献		必要に応じてプリント配布				
メッセージなど						

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。	大学での学びと自らの将来を十分に関連付け、主体的に学ぶことができる。	大学での学びと自らの将来をある程度関連付け、主体的に学ぶことができる。	最低限ではあるが、主体的な学びの姿勢が見られる。	主体的な学びの姿勢が見られない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	40%
(2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。	ほぼ完璧にアカデミック・スキルが身に付いている。	大きな間違いもなく、アカデミック・スキルが身に付いている。	最低限のアカデミック・スキルは身に付いている。	アカデミック・スキルが身に付いていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	30%
(3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。	積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考えを大きく発展させることができる。	コミュニケーションを図り、自らの知識や考え方をある程度広げることができる。	最低限のコミュニケーションは図ることができる。	コミュニケーションを図ることができない。	グループワーク・グループ討議 (態度・思考力・表現力・協働性)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
国際交流 International Activities		全学科		25BAGE2002	2 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	中津 愛子・柴田 道信・木橋 奏子			
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	文化的背景の異なる人々との交流を通じて、様々な文化・風習・考え方に触れ、異文化への理解を深める。また、実際の体験に基づき異文化理解を深めることを目的とする。					
到達目標	(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。					
	(2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。					
	(3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション 私と国際交流 1（まとめる）	国際交流ときいて思い浮かぶことを調べる	2 時間	自分の人生における国際交流をまとめる	2 時間
	2	私と国際交流 2（共有する）	国際交流活動を広げる方法を考える	2 時間	グループ活動の結果をまとめる	2 時間
	3	私の国際交流体験記 1 （日常生活）	日常生活における常識と非常識を考える	2 時間	体験記を聴いた感想文	2 時間
	4	私の国際交流体験記 2 （食文化）	自国の食文化の特徴をまとめる	2 時間	海外の食文化を調べる	2 時間
	5	私の国際交流体験記 3 （コミュニケーション）	日常使うジェスチャーを考える	2 時間	様々な言語について調べる	2 時間
	6	私の国際交流体験記 4 （価値観）	自身の価値観を考える	2 時間	体験記を聴いた感想文	2 時間
	7	海外の生活文化や習慣を知る 1	国際交流員の出身国について調べる	2 時間	国際交流員の話の感想文	2 時間
	8	海外の生活文化や習慣を知る 2	国際交流員の出身国について調べる	2 時間	国際交流員の話の感想文	2 時間
	9	海外の生活文化や習慣を知る 3	国際交流員の出身国について調べる	2 時間	国際交流員の話の感想文	2 時間
	10	海外の生活文化や習慣を知る 4	国際交流員の出身国について調べる	2 時間	国際交流員の話の感想文	2 時間
	11	海外の生活文化や習慣を知る 5	国際交流員の出身国について調べる	2 時間	国際交流員の話の感想文	2 時間
	12	国際交流活動について調べよう 1	国際交流活動に関するテーマ設定	2 時間	各自のテーマで調べる内容を考える	2 時間
	13	国際交流活動について調べよう 2	設定したテーマに沿って調べる	2 時間	テーマに沿って調べる	2 時間

	14	海外で活躍する人々	海外で活躍する人々を調べる	2 時間	講義で聞いた話の感想文	2 時間
	15	まとめ	全授業内容を振り返る	2 時間	今後の展望をまとめる	2 時間
成績評価		課題・レポート (30%)、授業への取り組み (70%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		授業において提示した課題については、授業内で全体に対してフィードバックする。				
テキストおよび参考文献		適宜プリントを配布				
メッセージ		海外を訪れ、異文化を体験するということは、何事にも代え難い経験であり、その後の人生の大きな糧となります。これをきっかけに皆さんが海外の文化に関心を持ち、海外を視野に活躍する人材となることを期待しています。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。	外国文化へ高い興味・関心を示し、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。	外国文化へ興味・関心を持ち、学ぶ姿勢も十分見られる。	外国文化への興味・関心は低いが、最低限の学ぶ姿勢は見られる。	外国文化への興味・関心が低く、学ぶ姿勢が見られない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	50%
(2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。	完璧に身に付いている。	十分に身に付いている。	最低限であるが身に付いている。	身に付いていない。	授業への取り組み (態度・表現力・協働性)	20%
(3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察し、異文化経験を解釈できる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察することができる。	自分の世界観を中心に異文化を見ているが、異文化を理解しようとする姿勢は見受けられる。	自分の世界観のみを通して異文化を見ており、異文化への理解・も低い。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	30%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別	
言葉とコミュニケーション Language and Communication			全学科		25BAGE1004		1 年次		前期	
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担 当 教 員					実務家 教員	
講義		2	選択	小河原 香代子						
ディプロマポリシーとの関係		何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。							○	
概 要		英語でコミュニケーションを図る際に大切なことは何だろうか？英語と日本語の言語文化の違いをポライトネス（人間関係を円滑にするための表現）に焦点を当て、会話を円滑に続けられる能力を身につけるためのストラテジー（方略）について学ぶ。								
到達目標		(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。								
		(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。								
		(3) 言語文化の違いについての気づき、考え方を述べることができる。								
		回	授業内容		予習内容		予習時間	復習内容		復習時間
		1	イントロダクション Chapter 1 自己紹介・スモールトーク					Chapter 1：テキストの内容、英語表現を復習する。音読練習する。		2時間
		2	Chapter 2 オフィスの案内		Chapter 2: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。 Exercises をする。		2時間	Chapter 2: テキストの内容、英語表現を復習する。音読練習する。		2時間
		3	Chapter 1、2の復習 ポライトネスについて		Chapter 1、2：練習問題のやっていない箇所		2時間	Chapter 1、2: テキストにある表現を復習する。音読練習する。		2時間
		4	Chapter 3 電話表現 1 （基本表現・メモの取り方）		Chapter 3: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。 Exercises をする。		2時間	Chapter 3: テキストの内容、英語表現を復習する。音読練習する。		2時間
		5	Chapter 4 電話表現 2 （予定を決める・予定変更をする）		Chapter 4: 同上		2時間	Chapter 4: 同上		2時間
		6	Chapter 5 簡単なスピーチ・プレゼンテーション 1 スピーチの構成		Chapter 5: 同上		2時間	Chapter 5: 同上		2時間
		7	Chapter 6 ビジターの来日・旅程の確認		Chapter 6: 同上		2時間	Chapter 6: 同上		2時間
		8	Chapter 7 観光のアドバイス		Chapter 7: 同上		2時間	Chapter 7: 同上 プレゼンテーションの準備		2時間
		9	Chapter 7 プレゼンテーション		Chapter 7: プレゼンテーションの準備		2時間	Chapter 7: プレゼンテーションの振り返り		2時間

	10	Chapter 10 会議 1 (賛成の仕方・司会の表現)	Chapter 10: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。 Exercises をする。	2時間	Chapter 10: テキストの内容、英語表現を復習する。音読練習する。	2時間
	11	Chapter 11 会議 2 (反対の仕方・司会の表現)	Chapter 11: 同上	2時間	Chapter 11: 同上	2時間
	12	Chapter 12 苦情への対応	Chapter 12: 同上	2時間	Chapter 12: 同上	2時間
	13	Chapter 13 謝罪	Chapter 13: 同上	2時間	Chapter 13: 同上	2時間
	14	Chapter 14 様々な挨拶	Chapter 14: 同上	2時間	Chapter 14: 同上	2時間
	15	復習	今までの振り返り。質問などがないか復習する。	2時間	期末試験の学習	2時間
成績評価		定期試験 (50%)、小テスト (20%) 毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (30%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートを評価し、次の授業時に返却する。				
テキストおよび参考文献		<i>Politeness in Business Context</i> —ポライトネスを考えるビジネス英語				
メッセージなど		実際にペアワークやグループワークでコミュニケーションを取りながら行うアクティブラーニング型の授業です。互いに学び合う、積極的な授業参加を望みます。予習、復習が必要です。話し言葉と書き言葉の違いや、フォーマルな表現とカジュアルな表現の違いを理解し、状況に応じた発話様式を学びます。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、基本的概念を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本的概念を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	30%
(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に場面や状況に応じた表現を実践することができる。	課題に対する認識に誤りや大きな論理的問題もなく、場面や状況に応じた表現を実践することができる。	課題に対する認識に間違いがいくつかあるが、場面や状況に応じた表現を最低限実践することができる。	課題に対する認識に間違いがあり、場面や状況に応じた表現ができていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力) 小テスト (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	40%

(3) 言語文化の違いについての気づき、考え方を述べることができる。	言語文化の違いについて理解し、自分の気づき、考え方を明確に述べている。	言語文化の違いについて、認識に誤りや大きな論理的問題もなく、最低限の自分の気づき、考え方を述べている。	言語文化の違いについて、認識に間違いがいくつかあるが、最低限の自分の気づき、考え方を述べている。	言語文化の違いについて、認識に間違いがあり、自分の考えを述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	30%
------------------------------------	-------------------------------------	---	--	-------------------------------------	--	-----

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別	
英語会話 English Conversation		全学科		25BAFL1001		1 年次	通年	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員	
演習	2	必修	Inkster Ryan					
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。						○	
概 要	(概要)様々な状況における実用的な英語会話能力を養成する。正確な発音や文法よりも、コミュニケーション能力の養成を重視する。読む・書く作業も若干含む。 (目標) 自己紹介、人物や服装の描写ができる、事物の比較ができる、好みについて表現できる、能力について述べられる、自由時間の使い方・好き嫌いについて表現できる、道順を教えたり理解したりできる、過去の出来事について話せる、指示を与えたり、規則について話したり、助言を与えたりできる。							
到達目標	(1) 英会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ。 (2) 英語を聞く力を養う。 (3) さまざまなトピックで英会話を練習する。							
授業内容 と 進め方								
	回	授 業 内 容	予 習 内 容	予 習 時 間	復 習 内 容	復 習 時 間		
	1	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復習	2 時間	中高英語内容の復習	2 時間		
	2	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 5 読む	2 時間	Pg.6 読む	2 時間		
	3	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7 読む	2 時間	Pg8-9 読む	2 時間		
	4	Japanese Music (音楽)	Pg 11 読む	2 時間	Pg12 読む	2 時間		
	5	Japanese Music (音楽)	Pg. 13 読む	2 時間	Pg. 14-15 読む	2 時間		
	6	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17 読む	2 時間	Pg. 18 読む	2 時間		
	7	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19 読む	2 時間	Pg 20-21 読む	2 時間		
	8	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29 読む	2 時間	Pg. 30 読む	2 時間		
	9	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31 読む	2 時間	Pg. 32-33 読む	2 時間		
	10	Japanese Games	Pg. 35 読む	2 時間	Pg. 36 読む	2 時間		
	11	Japanese Games	Pg. 37 読む	2 時間	Pg. 38-39 読む	2 時間		
	12	Famous Cities (観光)	Pg. 41 読む	2 時間	Pg. 42 読む	2 時間		
	13	Famous Places (観光)	Pg. 43 読む	2 時間	Pg. 44-45 読む	2 時間		
	14	REVIEW (復習)	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間		
	15	REVIEW (復習)	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間		
	TEST(復習)							
	回	授 業 内 容	予 習 内 容	予 習 時 間	復 習 内 容	復 習 時 間		
16	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復習	2 時間	中高英語内容の復習	2 時間			

	17	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 5 読む	2 時間	Pg.6 読む	2 時間
	18	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7 読む	2 時間	Pg8-9 読む	2 時間
	19	Japanese Music (音楽)	Pg 11 読む	2 時間	Pg12 読む	2 時間
	20	Japanese Music (音楽)	Pg. 13 読む	2 時間	Pg. 14-15 読む	2 時間
	21	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17 読む	2 時間	Pg. 18 読む	2 時間
	22	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19 読む	2 時間	Pg 20-21 読む	2 時間
	23	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29 読む	2 時間	Pg. 30 読む	2 時間
	24	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31 読む	2 時間	Pg. 32-33 読む	2 時間
	25	Japanese Games	Pg. 35 読む	2 時間	Pg. 36 読む	2 時間
	26	Japanese Games	Pg. 37 読む	2 時間	Pg. 38-39 読む	2 時間
	27	Famous Cities (観光)	Pg. 41 読む	2 時間	Pg. 42 読む	2 時間
	28	Famous Places (観光)	Pg. 43 読む	2 時間	Pg. 44-45 読む	2 時間
	29	REVIEW (復習)	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間
	30	REVIEW (復習)	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間
	TEST(復習)					
成 績 評 価		その他 (100%)				
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法		マンツーマンインタビュー				
テキストおよび 参 考 文 献		Explain It: Talking about Japanese Culture in English. Robert Long. Perceptia Press, Nagoya. ISBN: 9784939130793				
メ ッ セ ー ジ な ど		ネイティブ講師による基礎的な日常会話 (コミュニケーション) 授業				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 英会話に役に立つ 語彙や文法を学ぶ	ほぼ完璧に学 ぶことができる。	あまり問題な くできる。	少しは問題が あるが、最低限 はできる。	語彙や文法を 学ぶことがで きない。	その他	34%
(2) 英語を聞く力を養う	ほぼ完璧に学 ぶことができる	あまり問題な くできる。	少しは問題が あるが、最低限 はできる。	聞く力を養う ことができない。	その他	33%
(3) さまざまなトピック で英会話を練習する	ほぼ完璧に学 ぶことができる	あまり問題な くできる。	少しは問題が あるが、最低限 はできる。	英会話ができ ない。	その他	33%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
ハングル Korean Language		全学科		25BAFL1002	1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	朴 賢珠			
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	ハングルの文字や基礎文法を学びながら日韓の文化について考えるようになる。また韓国語を通して異文化コミュニケーションを図る授業になる。					
到達目標	(1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。 (2) 韓国語を通して日韓の文化理解を深める。 (3) ハングルの基本的な文法を学び、応用できる。 (4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	ハングルの仕組み① 文字の組み合わせパターン	テキスト 2～3 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 2～3 ページを復習する。	2 時間
	2	ハングルの仕組み② 基本母音	テキスト 4～5 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 4～5 ページを復習する。	2 時間
	3	ハングルの仕組み③ 基本子音	テキスト 6～7 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 6～7 ページを復習する。	2 時間
	4	ハングルの仕組み④ 濃音	テキスト 8～10 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 8～10 ページを復習する。	2 時間
	5	ハングルの仕組み⑤ 複合母音	テキスト 13～14 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 13～14 ページを復習する。	2 時間
	6	ハングルの仕組み⑥ パッチム (1)	テキスト 15～17 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 15～17 ページを復習する。	2 時間
	7	ハングルの仕組み⑦ パッチム (2)	テキスト 15～17 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 15～17 ページを復習する。	2 時間
	8	日本語のハングル表記	テキスト 18～20 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 18～20 ページを復習する。	2 時間
	9	ハングルの仕組みのまとめ	テキスト 19～20 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 19～20 ページを復習する。	2 時間
	10	中間テスト	テスト範囲を勉強しておく。	2 時間	テスト範囲をまとめる。	2 時間

11	視聴覚教育・映画観賞① －前半－	テーマに沿って事前調査をしておく	2 時間	テーマに沿って事前調査をする。	2 時間
12	視聴覚教育・映画観賞② －後半－	テーマに沿って事前調査をしておく	2 時間	テーマに沿って事前調査をする。	2 時間
13	「名詞＋です」文の作り方	テキスト 36～37 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 36～37 ページを復習する。	2 時間
14	「名詞＋ですか」文の作り方	テキスト 38～39 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 38～39 ページを復習する。	2 時間
15	まとめ	テキスト 23～42 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 23～42 ページを復習する。	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	前期の復習① 1 回目	テキスト 4～21 ページを読んでおく。	2 時間	前期の復習① －1 回目－	2 時間
17	前期の復習② 2 回目	テキスト 23～42 ページを読んでおく。	2 時間	前期の復習② －2 回目－	2 時間
18	動詞・形容詞の丁寧形① 「です/ます形」	テキスト 46～47 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の丁寧形① －です/ます形－	2 時間
19	動詞・形容詞の丁寧形② 「ですか/ますか形」	テキスト 54～57 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の丁寧形② －ですか/ますか形－	2 時間
20	視聴覚教育	テーマに沿って事前調査をしておく。	2 時間	視聴覚教育	2 時間
21	助詞のまとめ	テキスト 48～49 ページを読んでおく。	2 時間	助詞のまとめ	2 時間
22	中間テスト	テスト範囲を勉強しておく	2 時間	中間テスト	2 時間
23	指示代名詞を使った表現	テキスト 58～59 ページを読んでおく。	2 時間	指示代名詞を使った表現	2 時間
24	人称代名詞を使った表現	テキスト 60～61 ページを読んでおく。	2 時間	人称代名詞を使った表現	2 時間
25	「イダ」否定形	テキスト 62～63 ページを読んでおく。	2 時間	「イダ」否定形	2 時間
26	動詞・形容詞の前置否定形	テキスト 66～69 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の前置否定形	2 時間
27	動詞・形容詞の後置否定形	テキスト 66～69 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の後置否定形	2 時間
28	否定形のまとめ	テキスト 70～71 ページを読んでおく。	2 時間	否定形のまとめ	2 時間
29	尊敬形	テキスト 72～77 ページを読んでおく。	2 時間	尊敬形	2 時間
30	まとめ	テキスト 46～77 ページを読んでおく。 2 時間	2 時間	まとめ	2 時間

成 績 評 価	定期試験 (25%)、課題・レポート (35%)、授業への取り組み (25%)、発表・プレゼンテーション (15%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	試験や課題及びレポートは、チェックして次の授業時に渡す。
テキストおよび参考文献	朴 賢珠 他「サランヘヨ！ハングルー初級から中級へー」白帝社、2015 年
メッセージなど	ハングルを学びながら日韓の文化理解をしましょう。

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、読み書きができる	最低限の読み書きができる	読み書きができない。	定期試験 (関心・意欲・知識)	10%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、読み書きができる	最低限の読み書きができる	読み書きができない。	課題・レポート (関心・意欲・知識)	10%
(2) 韓国語を通して日韓の文化理解を深める。	発表や発言など積極的に参加する	発表や発言などに積極的ではないが参加する	発表や発言など部分的に参加する	発表や発言などに参加しない	課題・レポート (意欲・理解・表現力)	10%
	発表や発言など積極的に参加する	発表や発言などに積極的ではないが参加する	発表や発言など部分的に参加する	発表や発言などに参加しない	授業への取り組み (意欲・理解・思考力)	10%
(3) ハングルの基本的な文法を学び、応用できる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、応用できる	最低限の文法の応用ができる	文法の応用ができない。	定期試験 (知識・理解・表現力)	15%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、応用できる	最低限の文法の応用ができる	文法の応用ができない。	課題・レポート 課題・レポート (意欲・理解・表現力)	15%
(4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、韓国語会話ができる	最低限の会話ができる	簡単な韓国語会話ができない。	授業への取り組み (意欲・理解・思考力)	15%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、韓国語会話ができる	最低限の会話ができる	簡単な韓国語会話ができない。	発表・プレゼンテーション(知識・理解・表現力)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
日本語（留学生対象） Japanese Language		全学科		25BAFL1003	1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	林 伸一			
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	基本的な日常会話力、コミュニケーション能力を身につける。 日本語の特色を理解する。 日本語能力試験等の資格を取得する。 日本の生活習慣・ものの考え方・風習・文化の違いを知ることによって、自国と日本の関係への理解を深め、国際社会を生きる力を培う。					
到達目標	(1) 基本文型を理解し、留学生活を支える基礎的な日常会話ができる。 (2) カタカナ・ひらがな・教育漢字をマスターし、平易な文章の読み書きができる。 (3) 敬語・オノマトペ・慣用句など、日本語の特色を知り、会話の中で使うことができる。 (4) 1 級または 2 級の日本語能力試験の資格取得を目標とする。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション、学習 のすすめ方			「テキスト日常会話 1 課の和訳暗誦」「自 己紹介文」	2 時間
	2	日常会話の基礎①－自己紹 介、挨拶、基本会話	「日常会話 1 課和 訳」「自己紹介」「目 的別の自己紹介文下 書」	2 時間	「会話 1 課暗誦」「自 己紹介文清書」「日常 生活基本語①を覚え る」	2 時間
	3	日常会話の基礎②－日常生 活の基本語彙	「会話 2 課」「基本語 ①のテスト」	2 時間	「会話 2 課」「基本語 ①誤答再学習」	2 時間
	4	日本語の文字－ひらかな、 カタカナ、漢字、	「50 音図」「会話 3 課」「基本語②」	2 時間	「50 音図再学習プリ ント」「会話 3 課」「基 本語②」	2 時間
	5	日本語の発音・イントネー ション	「会話 4 課」「基本語 ③」「漢字 1026 字へ の挑戦テスト①」	2 時間	「会話 4 課」「基本語 ③」「漢字再問題①」	2 時間
	6	日常会話の基本単語①－発 音練習－	「会話 5 課」「基本語 ④」「漢字②」	2 時間	「会話 5 課」「基本語 ④」「漢字②」	2 時間
	7	日本語能力試験への対応の 仕方①	「会話 6 課」「基本語 ⑤」「漢字③」「日本 語能力試験 2 級練習 問題」	2 時間	「会話 6 課」「基本語 ⑤」「漢字③」「日本 語能力試験 2 級復習 ①」	2 時間
	8	日常会話の基本文形①－ 5 W 1 H	「会話 7 課」「基本語 ⑥」「漢字④」「日本 語能力試験②」	2 時間	「会話 7 課」「基本語 ⑥」「漢字④」「日本 語能力試験②」	2 時間
	9	日常会話の基本文形②－動 詞の活用－	「会話 8 課」「基本語 ⑦」「漢字⑤」「日本 語能力試験③」	2 時間	「会話 8 課」「基本語 ⑦」「漢字⑤」「日本 語能力試験③」	2 時間
	10	日常会話の基本文形③－過 去、現在、未来－	「会話 9 課」「基本語 ⑧」「漢字⑥」「日本 語能力試験④」	2 時間	「会話 9 課」「基本語 ⑧」「漢字⑥」「日本 語能力試験④」	2 時間

11	日常会話の基本文形④－希望、意思・推量の言い方－	「会話 10 課」「基本語⑨」「漢字⑦」「日本語能力試験⑤」	2 時間	「会話 10 課」「基本語⑨」「漢字⑦」「日本語能力試験⑤」	2 時間
12	日常会話の基本文形⑤－否定、疑問	「会話 11 課」「基本語⑩」「漢字⑧」「日本語能力試験⑥」	2 時間	「会話 11 課」「基本語⑩」「漢字⑧」「日本語能力試験⑥」	2 時間
13	日常会話の基本文形⑥－使役・可能・受身・自発、経験	「会話 12 課」「基本語⑪」「漢字⑨」「日本語能力試験⑦」	2 時間	「会話 12 課」「基本語⑪」「漢字⑨」「日本語能力試験⑦」	2 時間
14	日本語の特色①－補助用語・複合語－	「会話 13 課」「基本語⑫」「漢字⑩」「日本語能力試験⑧」	2 時間	「会話 13 課」「基本語⑫」「漢字⑩」「日本語能力試験⑧」	2 時間
15	日本語の特色②－敬語－	「会話 14 課」「基本語⑬」「漢字⑪」「日本語能力試験⑨」	2 時間	「会話 14 課」「基本語⑬」「漢字⑪」「日本語能力試験⑨」	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	学習のすすめ方、前期の学習の復習	「会話 15 課」「基本語⑭」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」		「会話 15 課」「基本語⑭」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」	2 時間
17	日本語能力試験への対応②－語彙・文字－	「会話 16 課」「基本語⑮」「漢字⑬」「日本語能力試験⑪」	2 時間	「会話 16 課」「基本語⑮」「漢字⑬」「日本語能力試験⑪」	2 時間
18	日本語能力試験への対応③－聴解－	「会話 17 課」「基本語⑯」「漢字⑭」「日本語能力試験⑫」	2 時間	「会話 17 課」「基本語⑯」「漢字⑭」「日本語能力試験⑫」	2 時間
19	日本語能力試験への対応④－文法－	「会話 18 課」「基本語⑰」「漢字⑮」「日本語能力試験⑬」	2 時間	「会話 18 課」「基本語⑰」「漢字⑮」「日本語能力試験⑬」	2 時間
20	日本語能力試験への対応⑤－読解－	「会話 19 課」「基本語⑱」「漢字⑯」「日本語能力試験⑭」	2 時間	「会話 19 課」「基本語⑱」「漢字⑯」「日本語能力試験⑭」	2 時間
21	日本語の特色③－慣用語、ことわざ－	「会話 20 課」「基本語⑲」「漢字⑰」「日本語能力試験⑮」	2 時間	「会話 20 課」「基本語⑲」「漢字⑰」「日本語能力試験⑮」	2 時間
22	日本語の特色④－部首・同音異義語－	「会話 21 課」「基本語⑳」「漢字⑱」「日本語能力試験⑯」	2 時間	「会話 21 課」「基本語⑳」「漢字⑱」「日本語能力試験⑯」	2 時間
23	日本語の特色⑤－オノマトペ・ことわざ・慣用句－	「会話 22 課」「漢字⑲」「日本語能力試験⑰」	2 時間	「会話 22 課」「漢字⑲」「日本語能力試験⑰」	2 時間
24	日本語の特色⑥－方言と共通語－	「会話 23 課」「漢字⑳」「日本語能力試験⑱」	2 時間	「会話 23 課」「漢字⑳」「日本語能力試験⑱」	2 時間
25	日本の国語教科書①－教科書概観・音読－	「会話 24 課」「漢字㉑」「日本語能力試験⑲」	2 時間	「会話 24 課」「漢字㉑」「日本語能力試験⑲」	2 時間
26	日本の国語教科書②－教科書輪読－	「会話 25 課」「漢字㉒」「日本語能力試験⑳」	2 時間	「会話 25 課」「漢字㉒」「日本語能力試験⑳」	2 時間
27	日本の国語教科書③－教科書発表－	「漢字㉓」「教科書音読」「日本語能力試験㉑」	2 時間	「漢字㉓」「教科書音読」「日本語能力試験㉑」	2 時間
28	日本語によるスピーチ①－スピーチ原稿作成－	「漢字㉔」「教科書音読・練習」「日本語能力試験㉒」	2 時間	「漢字㉔」「教科書視写」「日本語能力試験㉒」	2 時間
29	日本語によるスピーチ②－発表－	「漢字㉕」「スピーチ原稿下書」「日本語能力試験㉓」	2 時間	「漢字㉕」「スピーチ原稿暗誦」「日本語能力試験㉓」	2 時間

	30	日本語によるスピーチ③－ 発表－	「スピーチ練習」 （「日本語能力試験 ②④」	2 時間	「スピーチ原稿清 書」「日本語能力試験 ②④」	2 時間
成 績 評 価	定期試験、発表・プレゼンテーション（70%）、小テスト（30%）					
課題（試験・レポート 等）に対する フィードバックの方法	毎回の授業の小テストを自己採点し、結果を記録表に記録。誤答を再試験する。 ルーブリック評価に基づいて、再指導・再テストを行う。					
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：テキスト・プリントをその都度配布					
メ ッ セ ー ジ な ど	日本での生活を充実したものにするためには、日本語の習得がなにより大事です。日常会話力を身につける中で、日本の文化や風習、日本人の国民性などへの理解を深め、国際交流を楽しんでほしいと願っています。					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 基本文型を理解し、留学生活を支える基礎的な日常会話ができる。	ほぼ完璧にできる。	聞き取ることが完璧にでき、話すこともほぼできる。	間違いはあるが、最低限の会話はできる。	日常会話ができない。	定期試験 （態度・創造性・判断力）	30%
	ほぼ完璧にできる。	聞き取ることが完璧にでき、話すこともほぼできる。	間違いはあるが、最低限の会話はできる。	日常会話ができない。	発表・プレゼンテーション （態度・創造性・判断力）	
(2) カタカナ・ひらがな・教育漢字をマスターし、平易な文章の読み書きができる。	ほぼ完璧にできる。	間違いはあるがほぼできる。	間違いは多いが、最低限の基本的なことはできる。	平易な文章の取の読み書きも難しい。	小テスト （知識・理解）	30%
(3) 敬語・オノマトペ・慣用句など、日本語の特色を知り、会話の中で使うことができる。	意味を理解し、積極的に会話の中で使うことができる。	基本的なことは理解しているが、使いこなすことはできない。	聞き取ることができるが使うことはできない。	会話の中で使うことはできない。	定期試験 （知識・理解）	20%
(4) 最低 2 級の日本語能力試験の資格を取得する。	能力試験 2 級に合格している。	校内 2 級試験に合格している。	3 級レベルには到達している。	3 級レベルにも到達していない。	定期試験 （知識・理解）	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
健康科学 Health Science		全学科		25BAHP1001	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	1	必修	佐伯 里英子			
ディプロマ ポリシー との 関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有すとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	身体の構造と諸機能について学び、運動、睡眠、食などの健康行動が発達や健康に及ぼす影響について理解を深める。また、いのちや生と性の健康について若者や若者を取り巻く現状を知り、自らの生き方を問いつつ生きていくことの大切さを知る。					
到達目標	(1) 身体の構造や諸機能について理解する。					
	(2) 運動、睡眠、食などの健康行動が、健康に及ぼす影響を説明できる。					
	(3) 生と性の健康について若者が置かれている現状や行動の実際を知り、自らの生き方を問うことができる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	健康科学を学ぶ意義 健康とは	健康に関する身近な 情報の収集	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	2	睡眠と健康	睡眠のセルフモニタ リング週間	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	3	食べ物と栄養 時間栄養学と体内時計	食事のセルフモニタ リング 1 週間	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	4	排便と生活習慣	排便のセルフモニタ リング 1 週間	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	5	悩みとストレス 交流分析	自分のストレス確認	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	6	多様な性	ジェンダーについて	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	7	生殖の性・性感染症	体の生殖機能につい て	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	8	からだの権利と同意・合意	性の権利について	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
成 績 評 価	課題・レポート 70% 授業態度 30%					
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	事前学習で行わせる課題については、授業中に実施状況を確認し、授業の中で活用する。毎時振り返りレポートを課す					
テキストおよび 参 考 文 献	テキストの購入は必要ない					
メ ッ セ ー ジ な	健康で幸せな人生を送るために何が重要か、深く考えてほしい。					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 身体の構造や諸機能について理解する。	ほぼ完璧に理解している。	ほぼ理解できている。	理解できていないところが多い。	理解できていない。	レポート (知識・理解)	30%
(2) 運動、睡眠、食などの健康行動が、健康に及ぼす影響を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	レポート (知識・理解)	30%
(3) 生と性の健康について若者が置かれている現状や行動の実際を知り、自らの生き方を問うことができる。	生と性の健康と自分の生き方を関連付けて、詳しく説明できる。	生と性の健康と自分の生き方を関連付けて、概ね説明できる。	生と性の健康と、自分の生き方について説明できる。	生と性の健康を自分の生き方と関連づけることができない。	レポート (知識・理解)	40%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別	
スポーツ教育 Sport Education			全学科		25BAHP1002		1 年次		前期	
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担 当 教 員						実務家 教員
実技		1	必修	三輪 治彦						
ディプロマポリシーとの関係		何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識をもち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力をもち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。								○
概 要		スポーツという、自分が何かの運動種目を行うイメージが中心だが、スポーツには「するスポーツ」だけでなく「みる」「つたえる」「つくる」と新たな視点が考えられ、生涯を通じてスポーツに参加できる幅が広がっている。そこで本授業では、仲間と協力してスポーツに取り組むことで、生涯に渡ってスポーツに参加できる意識を高め、誰もが楽しめるスポーツの基本的な知識や考え方等を修得する。								
到達目標		(1) 自ら積極的にスポーツを楽しむことができる。 (2) 誰もが生涯にわたりスポーツを楽しむことのできる知識や考え方を修得する。 (3) 誰もがスポーツを楽しむ方法（自分の想いやカタチ）が表現できる。								
授業内容 と 進め方		回	授業内容		予習内容		予習 時間	復習内容		復習 時間
		1	オリエンテーション		どんな授業かをイメージする。		1 時間	授業のスポーツについて調べる。		2 時間
		2	ボッチャ①（基本内容等を確認して、ゲームで体験）		ボッチャを調べる。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		3	ボッチャ②（試合で勝てる方法を考え、練習・体験）		チームで戦術を考える。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		4	ボッチャ③（誰もが出来る方法を考え、練習・体験）		誰もが楽しめる方法を考える。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		5	ボッチャ④（山口短期大学杯：オリジナルな大会を開催）		ボッチャの授業を振り返る。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		6	グラウンドゴルフ①（基本内容等を確認して、ゲームで体験）		グラウンドゴルフを調べる。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		7	グラウンドゴルフ②（試合で勝てる方法を考え、練習・体験）		チームで戦術を考える。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		8	グラウンドゴルフ③（誰もが出来る方法を考え、練習・体験）		誰もが楽しめる方法を考える。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		9	グラウンドゴルフ④（山口短期大学杯：オリジナルな大会を開催）		グラウンドゴルフを振り返る。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		10	ふうせんバレー①（基本内容等を確認して、ゲームで体験）		ふうせんバレーを調べる。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		11	ふうせんバレー②（試合で勝てる方法を考え、練習・体験）		チームで戦術を考える。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		12	ふうせんバレー③（誰もが出来る方法を考え、練習・体験）		誰もが楽しめる方法を考える。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間

	13	ふうせんバレー④（山口短期大学杯：オリジナルな大会を開催）	ふうせんバレーを振り返る。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	14	まとめ（これまでの学習の成果を実技で表現する）	前期の学習内容を整理する。。	2 時間	整理した内容を振り返る。	2 時間
	15	まとめ（これまでの学習の成果をレポートにまとめる）	前期の学習内容を整理する。	2 時間	整理した内容を振り返る。	2 時間
成 績 評 価		授業への取り組み(40%)、毎回の授業の振り返り(20%)、期末の実技・レポート(40%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		基本的には実技であるため、活動中（授業の終わりや種目の終わり毎）に振り返りの時間を設け、フィードバックする。				
テキストおよび参考文献		必要があれば、適宜プリントを配布する。				
メッセージな		まずは自らがスポーツを楽しみ、一手間加えることで、誰もが生涯にわたってスポーツを楽しめる方法等を考え・実感してほしい。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 自ら積極的にスポーツを楽しむことができる。	自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じてある程度スポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じて最低限スポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができない	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・創造性）	40%
(2) 誰もが生涯にわたってスポーツを楽しむことのできる知識や考え方を修得する。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	毎回の授業の振り返り（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(3) 誰もがスポーツを楽しむ方法（自分の思いやカタチ）が表現できる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	授業でのパフォーマンスや期末の実技やレポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	40%

專門教育科目

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児と言葉 Infant and Language		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC1001	1 年次	後期
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	中津 愛子			
実務家教員 の詳細						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関 係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					
概 要	領域「言葉」の指導の基礎となる専門的知識を身に付けるため、次の3つをテーマとした授業を行う。 ①乳幼児期の言葉の発達と言葉の意義や機能を学ぶ。 ②言葉に対する感覚を豊かにするための実践の基礎を学ぶ。 ③言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の意義を学ぶ。					
到達目標	(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。 (2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。 (3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 (4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 (5)言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 (6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける (7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	領域「言葉」のねらい・内容・内容の 取扱いについて学ぶ。	幼稚園教育要領 「言葉」の領域を 読んでおく	2 時間	伝え合う喜びが 感じられる遊び を考える	2 時間
	2	領域「言葉」のねらい・内容・内容の 取扱いについて学ぶ。	幼稚園教育要領 「言葉」の領域を 読んでおく	2 時間	言葉の感覚を豊 かにするための 活動を考える	2 時間
	3	言葉による伝え合いや言葉遊び、文 字への関心について学び、映像資料 をもとに具体的な子どもの姿を理解 する。	言葉の美しさ、楽 しさが感じられ る言葉の例を考 える	2 時間	言葉遊びの種 類と遊び方、楽 しさをまとめる	2 時間
	4	前言語期のコミュニケーションの発 達について、映像資料を通して具 体的な子どもの姿を理解する。	乳児の発達を調 べる	2 時間	新生児模倣、愛 着の形成、共同 注視をまとめる	2 時間

	5	幼児期の言葉の発達過程について、映像資料をもとに具体的に子どもの姿を通して学ぶ。	幼児期の発達を調べる	2時間	幼児の言語発達の過程をまとめる	2時間
	6	映像資料をもとに、保育者の適切な言葉がけについてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	言葉を育てるための保育者の関わり方を考える	2時間	子どもの発達の姿にあった言葉がけについてまとめる	2時間
	7	保育場面の映像から、言葉を生み出す環境と豊かな体験についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	お店屋さんごっこを例に、言葉でのやりとりを考える	2時間	言葉が育まれる遊びの環境とおとなの役割についてまとめる	2時間
	8	子どもの言語障害について学び、映像を通して実際の子どもの姿を理解する。	子どもの言語発達に影響を及ぼす要因を調べる	2時間	言語発達障害、構音障害、吃音をまとめる	2時間
	9	言葉の遅れがみられる子どもへの援助、保育場面での配慮についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	言葉の遅れがある子どもへの関わり方を考える	2時間	言語発達の段階に応じた関わり方の工夫をまとめる	2時間
	10	児童文化財としての絵本・紙芝居の実践を行い、言葉の豊かさや楽しさを子どもたちがどのように経験するかをグループ討議する。	絵本・紙芝居各1冊選び、読んでおく	2時間	各絵本・紙芝居のおもしろい点をまとめる	2時間
	11	ストーリーテリングの実践と、しりとりやなぞなぞなどの言葉遊びの実践を行い、言葉に関する感覚を高めることについてグループ討議を行う。	ストーリーテリングの練習を行う	2時間	ストーリーテリングの反省、改善点をまとめる	2時間
	12	ペープサートの作成とパネルシアターの実演を学ぶ。	ペープサートの作成を行う	2時間	ペープサートとパネルシアターの実演のポイントをまとめる	2時間
	13	言葉に対する感覚を豊かにするためのICTを用いた保育教材の作成を行う。	ICTを用いた保育教材を調べる	2時間	ICTを用いた保育教材を作成する	2時間
	14	幼児の児童文化財の意義を学ぶ。領域「言葉」と他領域との関わりについて理解する。	児童文化財について調べる	2時間	5つの領域の関連をまとめる	2時間
	15	領域「言葉」と小学校「国語科」との関係を理解したうえで、言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにするための幼児期の教育の重要性について、発表しあう。	「国語」のねらいと内容を調べる	2時間	言葉を豊かにするための幼児期の教育についてまとめる	2時間
成績評価	授業への取り組み（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）、プレゼンテーション（30%）、定期試験（40%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。					
テキストおよび参考文献	テキスト：事前配布資料、幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集』チャイルド本社					
メッセージなど	グループ討議や模擬保育を取り入れたアクティブラーニング型の授業です。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目 保育士証：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心、意欲、態度)	15%
(5)言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	プレゼンテーション (思考力・判断力、表現力)	30%
(7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いはなく、おおよそ理解している。	最低限、理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議 (関心、意欲、態度)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児と音楽表現 Infant and musical expression		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC1002	1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家教員
演習	1	必修	木橋 奏子			
実務家教員の詳細						
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概要	表現領域とは何か、幼児の音楽的な表現方法を、発達を理解しながら手あそび、わらべうた、リトミック等の知識を習得する。また具体的な例をあげながら、状況に適した表現方法を学ぶ。					
到達目標	(1) 幼児の音楽表現に関する知識・技能を習得する。					
	(2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることができる。					
	(3) 豊かな表現力、コミュニケーション能力を高め、自身の創造力や表現力を磨くことができる。					
授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	表現領域のねらい	領域「表現」について簡単に調べてくる	2 時間	課題レポート	2 時間
	2	イメージから表現へのプロセス	教科書の「イメージから表現へのプロセス」を読んでくる	2 時間	イメージから表現へのプロセスを振り返りレポートにまとめる	2 時間
	3	幼児期における表現活動の芽生え	教科書の「幼児期における表現活動の芽生え」を読んでくる	2 時間	幼児期における表現活動を振り返りレポートにまとめる	2 時間
	4	手あそびの必要性 (1)	手あそびを2つ調べてくる	2 時間	発表できるように練習しておく	2 時間
	5	手あそびの必要性 (2)	課題の手あそびを練習してくる	2 時間	手あそびの必要性を振り返りレポートにまとめる	2 時間
	6	幼児とわらべうた	わらべうたを1つ調べてくる	2 時間	幼児とわらべうたを振り返り自分の考えをまとめる	2 時間

	7	リズムあそびと表現活動の 関わり (1)	教科書の「リズム あそびと表現活 動の関わり」を読 んでくる	2 時間	リズムあそびを 振り返りレポー トにまとめる	2 時間
	8	リズムあそびと表現活動の 関わり (2)	教科書の「リズム あそびと表現活 動の関わり」を読 み自分の考えを まとめておく	2 時間	リズムあそびと 表現活動の関わ りを振り返りレ ポートにまとめ る	2 時間
	9	歌うことと聴き合うこと	輪唱の曲を一つ 持ってくる	2 時間	歌うことと聴き 合うことの楽し さと難しさをレ ポートにまとめ る	2 時間
	10	絵本と音楽	絵本を 1 つ持参 する	2 時間	絵本と音楽の授 業を振り返りレ ポートにまとめ る	2 時間
	11	音楽の基礎知識	音楽の基礎知識、 拍子や強弱・楽譜 記号について理 解しておく	2 時間	音楽の基礎知識 を振り返りレポ ートにまとめる	2 時間
	12	リズムアンサンブル	手作り簡易楽器 を作ってくる	2 時間	リズムアンサン ブルの楽しさと 難しさをレポート にまとめる	2 時間
	13	テーマから表現する	各グループで制 作テーマを決め てくる	2 時間	発表に向けて準 備をしておく	2 時間
	14	表現活動のグループ発表	発表の準備をし てくる	2 時間	発表を振り返り レポートにまと める	2 時間
	15	なぜ「表現」をするのか考える	教科書の「表現」 項目を読んで自 分の考えをまと めておく	2 時間	なぜ「表現」をす るのか、という ことを考え、ま とめる	2 時間
成 績 評 価		授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、 グループワーク・グループ討議（思考力・表現力・判断力）35% 課題・レポート（知識・理解）15%				
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法		授業計画表内のフィードバック欄に毎回記入をする。 レポートや配布資料を適切に管理し、予習復習に使用する。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：表現指導法 上野奈初美 編著 萌文書林 参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども 園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） 保育内容 領域「表現」 堂本真実子 編 わかば社 子どものための音楽表現技術 今泉明美他編著 望月たけ美他 萌文書林				
メ ッ セ ー ジ な		幼稚園教諭二種免許：必修科目、保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児の音楽表現に関する知識・技能を習得する。	ほぼ完璧に知識・技能を習得できる	大きな間違いなく、知識・技能を習得できる	最低限の知識・技能を習得できる	知識・技能を習得できない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	50%
(2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることができる。	ほぼ完璧に工夫や展開を考えることができる	大きな間違いなく、工夫や展開を考えることができる	最低限の工夫や展開を考えることができる	工夫や展開を考えることができない	グループワーク・グループ討議（思考力・表現力・判断力）	30%
(3) 豊かな表現力、コミュニケーション能力を高め、自身の創造力や表現力を磨くことができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いなくできる	最低限でできる	磨くことができない	課題・レポート（知識・理解）	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
音楽基礎と理論 Basic and Theory of Music		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC1003		1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業 認定	担 当 教 員				実務家 教員
演習	1	必修	安部 浩信・宮本 奈奈				
実務家教員 の詳細							
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○
概 要	音楽基礎・音楽理論を学習し、音楽的能力を磨く。 幼児音楽教育に必要な音楽演奏（歌・器楽合奏）を学習し、音楽的感性を磨く。						
到達目標	(1) 音楽基礎を理解し、楽譜を正しく読むことができる。 (2) 音楽理論の基礎（スケール・コードネーム）を理解できる。 (3) 簡易伴奏の基礎を演奏できる。 (4) 楽譜を正しく理解し、幼児教育に必要な音楽演奏（歌・器楽合奏）ができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間	
	1	音楽基礎演習①			授業の復習	2 時間	
	2	音楽基礎演習②	テキスト 182・ 185 を読む	2 時間	授業の復習	2 時間	
	3	音楽基礎演習③	テキスト 182・ 185 を読む	2 時間	授業の復習	2 時間	
	4	音楽理論①	テキスト 183 を読む	2 時間	授業の復習	2 時間	
	5	音楽理論②	テキスト 183 を読む	2 時間	授業の復習	2 時間	
	6	音楽理論③	テキスト 184 を読む	2 時間	授業の復習	2 時間	
	7	音楽理論④	テキスト 184 を読む	2 時間	授業の復習	2 時間	
	8	器楽合奏・手遊び	指定された楽 譜を読む	2 時間	授業の復習	2 時間	

	9	器楽合奏・手遊び	指定された楽譜を読む	2時間	授業の復習	2時間
	10	器楽合奏・手遊び	指定された楽譜を読む	2時間	授業の復習	2時間
	11	器楽合奏・コード奏法	指定された楽譜を読む	2時間	授業の復習	2時間
	12	器楽合奏・コード奏法	指定された楽譜を読む	2時間	授業の復習	2時間
	13	器楽合奏・コード奏法	指定された楽譜を読む	2時間	授業の復習	2時間
	14	器楽合奏・歌唱	指定された楽譜を読む	2時間	授業の復習	2時間
	15	器楽合奏・歌唱	指定された楽譜を読む	2時間	授業の復習	2時間
成績評価		定期試験（60%） 小テスト（30%） 授業への取り組み（10%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		毎回の授業の予習・復習をする				
テキストおよび参考文献		神原雅之 他「幼児のための音楽教育」教育芸術社 うたっておどっぺおもちゃ箱②巻 教育芸術社				
メッセージなど		保育士証：必修科目 幼稚園教諭二種免許状：必修科目 ※ 基礎理論と器楽演奏指導を同時に指導するにあたり、複数の教員が必要となるため、器楽指導（45分）と基礎理論（45分）を交互に入れ替えて行います。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 音楽基礎を理解し、楽譜を正しく読むことができる。	ほぼ完璧に楽譜の読み取りができる。	大きな間違いなく楽譜の読み取りができる。	最低限で読み取りができる。	基礎が理解できず読み取りができない。	小テスト（知識・理解）	20%
(2) 音楽理論の基礎を理解できる。	ほぼ完璧に理論を理解できる。	大きな間違いなく理論を理解できる。	最低限で理論を理解できる。	理論が理解できず習得できない。	小テスト（知識・理解）	10%
(3) 簡易伴奏の基礎を演奏できる。	ほぼ完璧に簡易伴奏の基礎を演奏できる。	大きな間違いなく簡易伴奏の基礎を演奏できる。	最低限で簡易伴奏の基礎を演奏できる。	簡易伴奏を理解できず演奏ができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(4) 楽譜を正しく理解し、幼児教育に必要な音楽演奏（歌・器楽合奏）ができる。	ほぼ完璧に楽譜を理解し音楽演奏ができる。	大きな間違いなく楽譜を理解し音楽演奏ができる。	最低限で楽譜を理解し音楽演奏ができる。	楽譜が理解できず音楽演奏ができない。	定期試験（技能・表現力・作品の完成度）	60%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
ピアノ I Piano I		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC1004	1 年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	宮本 奈奈・宮本 千穂			
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	それぞれのピアノ演奏技術の向上を目指す。また、保育現場で活用できる幼児の歌唱教材の伴奏法を学ぶ。個人レッスンの形態で演習する。					
到達目標	(1) 楽譜の読み方を詳しく学ぶことができる。					
	(2) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。					
	(3) 保育現場で必要な歌唱教材の伴奏法を習得できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	ピアノ曲演奏① ピアノの扱い方 楽譜の読みとり方	ピアノに触れておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	2	ピアノ曲演奏② ピアノ曲目説明	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	3	ピアノ曲演奏③ バイエル 15 番	バイエル 15 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	4	ピアノ曲演奏④ バイエル 28 番	バイエル 28 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	5	ピアノ曲演奏⑤ バイエル 48 番	バイエル 48 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	6	ピアノ曲演奏⑥ バイエル 51 番	バイエル 51 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	7	ピアノ曲演奏発表 伴奏曲演奏について	指定された曲を練習しておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間
	8	伴奏曲演奏① ハ長調音階 おおきなクリの木の下で	指定曲を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	2 時間

9	伴奏曲演奏② ハ長調音階 おおきなクリの木の下で むすんでひらいて	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
10	伴奏曲演奏③ ト長調音階 うみ	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
11	伴奏曲演奏④ ニ長調音階 チューリップ	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
12	伴奏曲演奏⑤ ニ長調音階 チューリップ ちょうちょう	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
13	伴奏曲演奏⑥ ニ長調音階 チューリップ ちょうちょう	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
14	伴奏曲演奏⑦ ヘ長調音階 きらきら星 たなばたさま	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
15	伴奏曲演奏⑧ ヘ長調音階 きらきら星 たなばたさま	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
16	伴奏曲演奏① 2拍子	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
17	伴奏曲演奏② 2拍子 シャボン玉 かたつむり	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
18	伴奏曲演奏③ 2拍子 とんぼのめがね	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
19	伴奏曲演奏④ 2拍子 とんぼのめがね	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
20	伴奏曲演奏⑤ 2拍子 うれしいひな祭り	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
21	伴奏曲演奏⑥ 3拍子 こいのぼり ありさんのおはなし	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
22	伴奏曲演奏⑦ 3拍子 こいのぼり ありさんのおはなし	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
23	伴奏曲演奏⑧ 4拍子 お正月	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
24	伴奏曲演奏発表 ピアノ曲演奏に ついて	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
25	ピアノ曲演奏① —1週目— 試験曲を練習 ブルグミュラー程度	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
26	ピアノ曲演奏② —2週目— 試験曲を練習 ブルグミュラー程度	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
27	ピアノ曲演奏③ —3週目— 試験曲を練習 ブルグミュラー程度	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
28	ピアノ曲演奏④ —4週目— 試験曲を練習 ブルグミュラー程度	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間

	29	ピアノ曲演奏⑤ —5週目— 試験曲を練習 ブルグミュラー程度	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
	30	ピアノ曲演奏⑥ —6週目— 試験曲を練習 ブルグミュラー程度	指定曲を譜 読みしておく	2 時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2 時間
成 績 評 価	定期試験（70%）、授業への取り組み（30%）					
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	日々の練習を復習練習によりフィードバックし、実技試験の場で発表できるようにする。					
テキストおよび 参 考 文 献	森田百合子 他「幼児の音楽教育」教育芸術社					
メ ッ セ ー ジ な	保育士証：必修科目 予習復習を欠かさず行ってください。					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 楽譜の読み方を詳しく学ぶことができる。	ほぼ完璧に学んでいる。	大きな間違いがなく、基本を学んでいる。	間違いはあるが、最低限の基本を学んでいる。	学んでいない。	定期試験 (関心・意欲・態度)	20%
	ほぼ完璧に学んでいる。	大きな間違いがなく、基本を学んでいる。	間違いはあるが、最低限の基本を学んでいる。	学んでいない。	授業への取り組み (技能・作品の完成度)	15%
(2) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基本を習得している。	間違いはあるが、最低限の基本を習得している。	習得できていない。	定期試験 (作品の完成度・技能)	20%
(3) 保育現場で必要な歌唱教材の伴奏法を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基本を習得している。	間違いはあるが、最低限の基本を習得している。	習得できていない。	定期試験 (作品の完成度)	30%
	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基本を習得している。	間違いはあるが、最低限の基本を習得している。	習得できていない。	授業への取り組み (理解・技能)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
ピアノⅡ Piano Ⅱ		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC2004	2 年次	前期	
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習	1	選択	宮本 奈奈・中島則子・宮本 千穂				
ディプロマ ポリシー との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要	ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、保育現場に必要な伴奏法・弾き歌いの方法を学ぶ。また、簡易伴奏法はハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調のⅠⅣⅤ（Ⅴ7）の和音を修得し伴奏に活用できる方法を学ぶ。各自のピアノ演奏技術にあわせ個人レッスンの形態で学ぶ。						
到達目標	(1) より高度なピアノ演奏技術を習得できる。						
	(2) ハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調のⅠⅣⅤ（Ⅴ7）の和音を修得し、伴奏に活用できる。						
	(3) 保育現場で必要なレパートリーが増え、弾き歌いできる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	弾き歌い① ハ長調伴奏 大きなくりの木の下で かたつむり 手をたたきましょう		テキスト 5P から 10P までを譜読 みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	2	弾き歌い② ハ長調伴奏 大きなくりの木の下で かたつむり 手をたたきましょう		テキスト 5P から 10P までを譜読 みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	3	弾き歌い③ ハ長調伴奏 とんぼのめがね やきいもグーチーパー		テキスト 11P か ら 14P を譜読 みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	4	弾き歌い④ ト長調伴奏 うみ 幸せなら手をたたこう ふしぎなポケット		テキスト 15P か ら 20P を譜読 みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	5	弾き歌い⑤ ト長調伴奏 うみ 幸せなら手をたたこう ふしぎなポケット		テキスト 15P か ら 20P を譜読 みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	6	弾き歌い⑥ ニ長調伴奏 チューリップ どんぐりころころ		テキスト 21P か ら 26P を譜読 みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間

	7	弾き歌い⑦ ニ長調伴奏 チューリップ どんぐりころころ	テキスト 21P から 26P を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	8	弾き歌い⑧ニ長調伴奏 チューリップ どんぐりころころ ブン ブン ブン	テキスト 21P から 26P を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	9	弾き歌い⑨へ長調伴奏 ブン ブン ブン たなばたさま きらきら星 やぎさんゆうびん	テキスト 27P から 34P を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	10	弾き歌い⑩ へ長調伴奏 ブン ブン ブン たなばたさま きらきら星 やぎさんゆうびん	テキスト 27P から 34P を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	11	弾き歌い⑪へ長調伴奏 たなばたさま きらきら星 やぎさんゆうびん	テキスト 27P から 34P を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	12	弾き歌い⑫ 自由曲（保育実習で必要と考える 曲）	指定された曲を 練習しておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	13	弾き歌い⑬ 自由曲（幼稚園実習で必要と考える 曲）	指定された曲を 練習しておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	14	弾き歌い⑭ 自由曲	指定された曲を 練習しておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
	15	弾き歌い⑮ 自由曲	指定された曲を 練習しておく	2 時間	授業を振り返り 楽譜を見て復習 する	2 時間
成 績 評 価		定期試験（50%）、授業への取り組み（50%）				
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法		日々の練習を復習練習によりフィードバックし、実技試験の場で発表できるようにする。				
テキストおよび 参 考 文 献		森田 百合子 他「幼児の音楽教育」教育芸芸術社				
メ ッ セ ー ジ な		保育現場で音楽指導ができるようになりましょう。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) より高度なピアノ演奏技術を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基本を習得している。	間違いはあるが、最低限の基本を習得している。	習得できていない。	定期試験 (理解・技能・表現力・作品の完成度)	20%
(1) より高度なピアノ演奏技術を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基本を習得している。	間違いはあるが、最低限の基本を習得している。	習得できていない。	授業への取り組み (意欲)	20%
(2) ハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調の□□□(□7)の和音を修得し、伴奏に活用できる。	ほぼ完璧に活用できる。	大きな間違いがなく、基本を活用できる。	間違いはあるが、最低限の基本を活用できる。	活用できていない。	定期試験 (理解)	10%
(2) ハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調の□□□(□7)の和音を修得し、伴奏に活用できる。	ほぼ完璧に活用できる。	大きな間違いがなく、基本を活用できる。	間違いはあるが、最低限の基本を活用できる。	活用できていない。	授業への取り組み (意欲・技能)	10%
(3) 保育現場に必要なレパートリーが増え、弾き歌いできる。	ほぼ完璧に弾き歌いができる。	大きな間違いがなく、基本を弾き歌いができる。	間違いはあるが、最低限の基本を弾き歌いができる。	弾き歌いができていない。	定期試験 (理解・技能・表現力・作品の完成度)	20%
(3) 保育現場に必要なレパートリーが増え、弾き歌いできる。	ほぼ完璧に弾き歌いができる。	大きな間違いがなく、基本を弾き歌いができる。	間違いはあるが、最低限の基本を弾き歌いができる。	弾き歌いができていない。	授業への取り組み (意欲)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
幼児と造形表現 Young Children and Plastic Arts Expressing		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC1006	1 年次	通年	
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家教員	
演習	2	必修	吉本 宏之			○	
実務家教員の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要	幼児の発達段階と造形表現の変化に関連づけながら、幼児期にふさわしい造形表現を援助するための方法を考える。また、幼児の造形表現の基本となる知識・技能、造形活動に関する基本的な素材の扱い方や環境構成等について、自ら作る喜びを味わう中で習得する。						
到達目標	(1) 領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。 (2) 造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 (3) 身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。						
授業内容と進め方	回	授業内容		予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	幼児の造形についての概要。当授業のねらい。		授業前に配付したプリントを読む	2 時間	授業の概要理解について考察し感想を書く	2 時間
	2	実際の絵を見ながら、幼児の発達と造形表現の特徴を理解する。		前時に配付した鑑賞資料を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	3	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること①		教科書(接着剤資料①)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	4	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること②		教科書(接着剤資料②)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	5	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること③		教科書(接着剤資料③)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	6	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。貼ること④		教科書(接着剤資料④)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

7	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。はさみ①	教科書(はさみ資料①)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
8	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。はさみ②	教科書(はさみ資料②)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
9	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料①	教科書(パス・ペン資料)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
10	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料②	教科書(絵の具資料)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
11	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料③	教科書(コンテ資料)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
12	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。描画材料④	教科書(墨汁資料)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
13	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法①	教科書(折り紙資料)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
14	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法②	教科書(紙を揉む資料)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
15	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと製作の基本について学ぶ。紙の技法③	教科書(紙を破る資料)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
16	これまで学んだ環境づくりと製作の基本や、幼児の造形活動を支えるものについて考察し、発表する。	前時まで学んだ教科書や振り返りシートを読んでおく。	2時間	今までの作品の自己評価を振り返りシートに書く。	2時間
17	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。①スタンピング、パチック	教科書(スタンピング、パチック)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
18	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。②染め紙、にじみ絵	教科書(染め紙、にじみ絵)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
19	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。③デカルコマニー、スクラッチ	教科書(デカルコマニー、スクラッチ)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
20	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。④ステンシル	教科書(ステンシル)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
21	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。⑤紙版画	教科書(紙版画)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
22	描画材料を用いたモダンテクニックの習得と表現を広げる活動。⑥フロッタージュ	教科書(フロッタージュ)を読んでおく。教材の準備	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間

	23	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	教科書(紙・小麦粉粘土)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	24	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	教科書(土粘土)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	25	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	教科書(自然物)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	26	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	教科書(自然物)を読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	27	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、2・3歳児にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	28	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、4歳児にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	29	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、5歳児にふさわしい壁面装飾を制作する	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	30	自分たちの制作物を見ながら、子どもの造形活動の評価と援助の方法について考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート(知識・理解・思考力) 30%、作品(意欲・態度・作品の完成度) 30%、教材作成(表現力・判断力・創造性) 20%、毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解) 20%				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		・試験は実施しない(ただし、授業内で小テストを行う) ・授業の振り返りシート提出と、作品ファイルの提出				
テキストおよび参考文献		テキスト:「2～5歳児 製作あそび 基本のき」 著者 内本久美 発行人 岡本功 発行所 ひかりのくに株式会社 参考文献:幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)				
メ ッ セ ー ジ な		子どもの立場、または保育者としての立場を想定して演習します。実習にも役立つスキルを身につけます。 幼稚園教諭二種免許状:必修科目 保育士証:必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。	幼児の造形表現の特徴をほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	いくつかの間違いはあるが、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	幼児の造形表現の特質を全く理解できず説明もできない。	課題・レポート(知識・理解・思考力)	30%
	ほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの間違いはあるが、意欲的な感想、振り返りができている。	全く理解できず、意欲的な感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	10%
(2)造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	ほぼ完璧に描画材料を使いこなせる。	大きな間違いがなく描画材料を使いこなせる。	いくつかの間違いはあるが、描画材料を使いこなせる。	全く描画材料を使いこなせない。	作品(意欲・態度・作品の完成度)	30%
	描画材に関してほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	描画材に関して大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの描画材に対しての間違いはあるが、感想、振り返りができている。	描画材に対して間違いが多く、感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	5%
(3)身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。	身近な素材をほぼ完璧かつ的確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	大きな間違いもなく、身近な素材をほぼ的確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材を用いて教材作成ができている。	全く身近な素材を用いた教材ができている。	教材作成(表現力・判断力・想像性)	20%
	ほぼ完璧に、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	大きな間違いもなく、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	全く身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解できず、自他ともに評価できない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児図画工作 Arts and Handicrafts for Infant		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC2007	2 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	椿 千栄子			
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	紙芝居の製作を通して幼児図画工作の基本的技術の習得を目的とする。各自一つオリジナルの紙芝居を製作する事により、描画材料の扱い、場面の構成力、文章力、読み聞かせの技術など保育士として必要な総合的な力をつけていく。また実習や就職試験にも役立てるようにする。					
到達目標	(1) 紙芝居の歴史や特徴を知り、その他の児童文化も理解し説明することができる (2) 表現したい内容についての積極的な調査をし、子どもに紙芝居を通して「何を伝えたいか」という問題意識を高め、発達や年齢に合った「内容」を決定できる。 (3) 絵の具やその他の描画材の扱いに熟達し、それぞれの場面の絵を描く事ができる。 (4) それぞれの絵の内容に合った場面の文章を考えて書くことができる。 (5) 演技者として子どもに分かりやすく紙芝居を演ずる事ができる。 (6) お互いの紙芝居を鑑賞して、良いところや改善するところを積極的に話し合い、自分の考えを述べる事ができる					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	授業演習の概要について。児童文化の中にある紙芝居の位置付け	授業前に配ったプリントを読んでおく	2 時間	児童文化への理解ができているか復習し、感想を書く	2 時間
	2	紙芝居の歴史、特質。制作についての説明、参考作品の鑑賞	前時に配った紙芝居の歴史についてプリントを読んでおく	2 時間	紙芝居の歴史、特質を理解できたかを復習し感想を書く	2 時間
	3	お話の設定 ストーリーを考える① 5 領域やファンタジーの世界から構想を練る	前時に配ったプリントを読んでおく	2 時間	紙芝居の様々な種類を知り、構想を練る事ができたかを振り返り感想を書く	2 時間
	4	お話の設定 ストーリーを考える② アイデアスケッチ（4 分の 1 サイズ上質紙で作成）	前時に配ったプリントを読んでおく	2 時間	ストーリー設定ができたかどうかを振り返り感想を書く	2 時間
	5	お話の設定 ストーリーを考える③ アイデアスケッチ、文章を考える	前時に配ったプリントを読んでおく	2 時間	内容に合った文章の考案ができているかを振り返り感想を書く	2 時間

	6	場面の絵を描く① 8つ切り画用紙に下描きをする	前時に配ったプリントを読んでおく	2 時間	計画通り下描きができているかを振り返り感想を書く	2 時間
	7	場面の絵を描く② －彩色 1 週目－	構図通り彩色計画を行い色鉛筆で縮小サイズの試作を作る	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかを振り返り感想を書く	2 時間
	8	場面の絵を描く③ －彩色 2 週目－	計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察する	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかを振り返り感想を書く	2 時間
	9	場面の絵を描く④ －彩色 3 週目－	計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察する	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかを振り返り感想を書く	2 時間
	10	場面の絵を描く⑤ －彩色 4 週目－	計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察してみる	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかどうか振り返り感想を書く	2 時間
	11	場面の絵を描く⑥ －彩色 5 週目－	計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察してみる	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかどうか振り返り感想を書く	2 時間
	12	場面の絵を描く⑦ －彩色 6 週目－	計画通りに彩色できているかを振り返って、改善点などを考察してみる	2 時間	絵の具を使いこなし、計画通りの彩色ができているかどうか振り返り感想を書く	2 時間
	13	場面に合った文章を考え入力する	内容に合う文章を考えしてみる	2 時間	場面に合った文章になっているか振り返り感想を書く	2 時間
	14	文章をもう一度校正し、プリントアウトして画用紙に貼り付ける	考えた文章を校正してみる	2 時間	場面に合った文章の最終校正を振り返り感想を書く	2 時間
	15	実技発表・講評	発表できるように練習する	2 時間	人前で紙芝居の演技ができたかどうか振り返り、考察感想を書く	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート (5%)、作品 (25%)、授業への取り組み (5%)、発表・プレゼンテーション (10%)、グループワーク・グループ討議 (5%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (50%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		・児童文化に関する文献、文章を読み、その内容に関するプリントに回答を記入して提出。お互いに完成した紙芝居を読みあい、評価しあい、感想を述べる。 ・15 コマ分の感想、考察を提出。・作品を返却する。				
テキストおよび参考文献		テキスト：子どもと言葉 岡田 明編 萌文書林				
メ ッ セ ー ジ		15 コマで1つの紙芝居を完成させるためには相当の集中力を必要とします。描画材(ポスターカラー等)の扱いを知り、構図力、文章力、演技力を身に付けたい人。 保育士証：選択科目、幼稚園教諭二種免許状：選択科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 紙芝居の歴史や特徴を知り、その他の児童文化も理解し説明することができる	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない	課題・レポート (知識・理解)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (知識・理解)	5%
(2) 表現したい内容についての積極的な調査をし、子どもに紙芝居を通して「何を伝えたいか」という問題意識を高め、発達や年齢に合った「内容」を決定できる。	ほぼ完璧に調査していて子どもの発達や年齢に合った内容を決定できる。	よく調査していて子どもの発達や年齢に合った内容を決定できる。	間違いはいくつかあるが、発達や年齢に合った内容を決定できる	発達や年齢に合った内容を決定できない	授業への取り組み (知識・理解)	5%
	ほぼ完璧に調査していて子どもの発達や年齢に合った内容を決定できる。	よく調査していて子どもの発達や年齢に合った内容を決定できる。	間違いはいくつかあるが、発達や年齢に合った内容を決定できる	発達や年齢に合った内容を決定できない	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (知識・理解)	5%
(3) 絵の具やその他の描画材の扱いに熟達し、それぞれの場面の絵を描く事ができる。	ほぼ完璧に描画材を使いこなし丁寧な仕上げで場面の絵を描くことができる	描画材をある程度使いこなし丁寧な仕上げで場面の絵を描くことができる	描画材は使いこなせていないが、自分なりの技法で場面の絵を描くことができる	描画材を全く使いこなせていない。制作する意欲がない	作品 (技能・表現力・創造性・作品の完成度)	15%
	ほぼ完璧に描画材を使いこなし丁寧な仕上げで場面の絵を描くことができる	描画材をある程度使いこなし丁寧な仕上げで場面の絵を描くことができる	描画材は使いこなせていないが、自分なりの技法で場面の絵を描くことができる	描画材を全く使いこなせていない。制作する意欲がない	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (技能・表現力・創造性・作品の完成度)	15%
(4) それぞれの絵の内容に合った場面の文章を考えて書くことができる。	ほぼ完璧に絵の内容に合った文章を書けている。	ほぼ絵の内容に合った文章を書けている。	絵の内容に合った文章が書けていない場面もあるが自分なりに表現している	全く絵の内容に合った文章を書く意欲がない	作品 (思考力・表現力)	10%
	ほぼ完璧に絵の内容に合った文章を書けている。	ほぼ絵の内容に合った文章を書けている。	絵の内容に合った文章が書けていない場面もあるが自分なりに表現している	全く絵の内容に合った文章を書く意欲がない	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (思考力・表現力)	10%
(5) 演技者として子どもに分かりやすく紙芝居を演ずる事ができる。	ほぼ完璧に演技ができている	大きな間違いがなく演技ができている	やや演技の技能に不足はあるが演ずることができている	全くできていない。また意欲もない	発表・プレゼンテーション (技能・表現力)	10%
	ほぼ完璧に演技ができている	大きな間違いがなく演技ができている	やや演技の技能に不足はあるが演ずることができている	全くできていない。また意欲もない	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (技能・表現力)	10%

(6) お互いの紙芝居を鑑賞して、良いところや改善するところを積極的に話し合い、自分の考えを述べる事ができる	ほぼ完璧に作品について意見を述べる事ができる	大きな間違いがなく、作品について意見を述べる事ができる	言葉の選択に間違いはいくつかあるが作品について意見を述べる事ができる	全く意見が いえない。意欲がない。	グループワーク・グループ討議 (判断力・協働性)	5%
	ほぼ完璧に作品について意見を述べる事ができる	大きな間違いがなく、作品について意見を述べる事ができる	言葉の選択に間違いはいくつかあるが作品について意見を述べる事ができる	全く意見が いえない。意欲がない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (判断力・協働性)	5%

授業科目			対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
幼児と健康 Young Children and Health			児童教育学科 幼児教育学専攻	25ECCC1008	1 年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	必修	佐伯 里英子			
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どものからだ、発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	幼児期における健康や発達について学び、仲間と協力して子どもの発達を促す工夫について話し合うことを通して、健康への理解を深める。また、児童期における健康や発達にも触れ、小学校との接続についても検討する。					
到達目標	(1) 幼児期のからだ・健康・発達について理解を深めることができる。					
	(2) 幼児期における健康や発達を促す実践力を養うことができる。					
	(3) 幼児が主体的に取り組めるような保育実践を提案することができる。					
授業内容 と 進め方 (前期)	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	前期オリエンテーション 健康領域で学ぶこととその意義	シラバスを読む。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	2	子どものからだと発達 (味覚・触覚)	味覚、触覚について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	3	子どものからだと発達 (食べるということ)	食について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	4	子どものからだと発達 (脚・土踏まず)	土踏まずについて調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	5	子どものからだと発達 (睡眠)	睡眠について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	6	子どものからだと発達 (子どもの体温)	体温について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	7	子どものからだと発達 (自律神経)	自律神経について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	8	子どものからだと発達 (歯と噛むこと)	子どもの歯について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間

	9	子どものからだと発達 (食のありかた)	子どもの食事について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	10	子どものからだと発達 (食物アレルギー)	食物アレルギーについて調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	11	子どものからだと発達 (食の歴史とその意味)	食の歴史、昔の知恵について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	12	子どものからだと発達 (食の安全)	食品添加物について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	13	子どものからだと発達 (排便)	子どもの排便について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	14	子どものからだと発達 (感覚統合)	感覚統合について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	15	前期まとめ (前期の学習の成果をレポートにまとめる)	前期の学習内容を整理する。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
授業内容 と 進め方 (後期)	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	16	後期オリエンテーション	前期の学習内容を見直しておく。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	17	子どもにとって遊びとは	子どもの遊びの意義について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	18	幼児期の運動遊び (新聞紙・紙袋を使って遊ぶ)	新聞紙での遊びを考える。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	19	幼児期の運動遊び (バスタオル・タオルであそぶ)	バスタオルでの遊びを考える。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	20	運動遊びの場づくり (ラダーをつくって遊ぶ)	ラダーでの遊び方を考える。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	21	生と性の健康について	人の性について疑問をまとめる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	22	「いのちの安全教育」について	文科省の資料を読む。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	23	人の性・いのちにかかわるからだのしくみ	生殖の性について調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	24	多様な性・多様な家族	ジェンダーについて調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間

	25	自分を守るために	性犯罪の現状を調べる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	26	子どもの性の疑問	子どもに伝えておく性の話を考える。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	27	健康紙芝居づくり	学んだことを整理し、紙芝居にまとめる。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	28	健康紙芝居づくり	発表の準備	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	29	健康紙芝居づくり（発表）	発表の準備	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	30	後期まとめ（後期の学習の成果をレポートにまとめる）	後期の学習内容を整理する。	2 時間	授業でポイントとなるところをまとめる。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（50%）、毎回の授業の振り返り（30%）、授業への取り組み（20%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		コメント（口頭、記述）によるフィードバックを行う。				
テキストおよび参考文献		必要があれば、適宜プリントを配布する。 幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月） 文部科学省 フレーベル館 2018 保育所保育指針（平成 29 年告示） 厚生労働省 フレーベル館 2017				
メッセージなど		保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目 領域「健康」のねらいや内容等を理解し、具体的な保育の方法を考えたり実践力を養ったりしてほしい。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児期のからだ・健康・発達について理解を深めることができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	毎回の授業の振り返り（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	50%
(2) 幼児期における健康や発達を促す実践力を養うことができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・創造性）	30%
(3) 幼児が主体的に取り組めるような保育実践を提案することができる。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	期末レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児体育 Young Children Physical Education		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC2009	2 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	佐伯 里英子			
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	「子どもの生活はあそびである」と言われるが、幼児期の子どものあそびは身体活動を伴うことが多い。そして、これらの身体活動を伴うあそびは、子どもの心身の発育・発達に大きく関与している。本授業では、幼児期の子どもにとっての運動あそびとは何か、また、運動あそびの指導はどのように進めていけばよいかなど、単に動きの指導やあそびを考える指導に留まらず、心身の発達を視野において保育活動の一環としての運動あそびの指導ができるように、必要な能力や知識を身につけることを目標とする。					
到達目標	(1) 子どもたちが楽しく運動できる雰囲気をつくることができる。					
	(2) 運動あそびにおける基礎的な知識を理解し考えを述べることができる。					
	(3) 子どもの発達段階に応じた基本的な運動あそびを実践できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	幼児期の運動あそびの意義ーオリエンテーションー	テキストを読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	2	なわあそびの考え方と指導の留意点	テキストを読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	3	短なわ技術の系統的指導	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	4	なわあそびにおける表現活動	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	5	リズムなわとびについて	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	6	リズムなわとびのグループづくりと練習	なわとびの練習	2 時間	リズムなわとびの立案と練習	2 時間
	7	リズムなわとびのグループ練習①	なわとびの練習	2 時間	リズムなわとびの立案と練習	2 時間
	8	リズムなわとびのグループ練習②	なわとびの練習	2 時間	リズムなわとびの立案と練習	2 時間
	9	リズムなわとびの発表	グループ練習	2 時間	発表の振り返りレポート	2 時間
	10	「おにごっこ」の考え方と指導の留意点	テキストを読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間

	11	「おにごっこ」の初期段階と指導の要点	テキストを読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	12	「おにごっこ」の意味と課題（グループ活動）	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	13	「おにごっこ」におけるルールの意味	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	14	現実の発達課題に応じた「おにごっこ」の内容の検討（発表）	グループでの発表内容の確認と練習	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	まとめ	授業資料のまとめ	2 時間	授業資料の確認とまとめ	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート (40%)、授業への取り組み (30%)、発表・プレゼンテーション (30%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		レポートはファイルにとじて提出してもらい、次の時間に返却し復習に使用します。				
テキストおよび参考文献		資料は随時配布				
メッセージなど		保育士証：選択科目 幼稚園教諭二種免許状：選択科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもたちが楽しく運動できる雰囲気をつくることができる。	ほぼ完璧に雰囲気をつくることができる	ある程度の雰囲気をつくることができる	最低限の雰囲気をつくることはできる	雰囲気をつくることできない	授業への取り組み（関心・意欲・態度・理解）	10%
	ほぼ完璧に雰囲気をつくることができる	ある程度の雰囲気をつくることができる	最低限の雰囲気をつくることはできる	雰囲気をつくることできない	発表・プレゼンテーション（関心・意欲・態度・理解）	10%
(2) 運動あそびにおける基礎的な知識を理解し考えを述べることができる。	ほぼ完璧に考えを述べることができる	大きな間違いがなく考えを述べるができる	最低限の考えを述べることができる	考えを述べることできない	授業への取り組み（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
	ほぼ完璧に考えを述べることができる	大きな間違いがなく考えを述べることができる	最低限の考えを述べることができる	考えを述べることできない	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	20%
(3) 子どもの発達段階に応じた基本的な運動あそびを実践できる。	ほぼ完璧に実践できる	大きな間違いがなく実践できる	最低限のことは実践できる	実践できない	課題・レポート（理解・技能・判断力・創造性・問題解決力）	20%
	ほぼ完璧に実践できる	大きな間違いがなく実践できる	最低限のことは実践できる	実践できない	発表・プレゼンテーション（理解・技能・判断力・創造性・問題解決力）	20%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
幼児と人間関係 Relationships with infants			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC1010	1 年次	前期	
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担当教員			実務家教員	
演習		1	必修	平田 睦美			○	
実務家教員の 詳細		公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
		(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
		(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○	
		(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
		(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○	
		(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要		幼児を取り巻く様々な社会的問題や実際の姿を考察することを通じて、人間関係の発達のために必要な事柄について理解を深める。領域「人間関係」の基本的事項を学習し、人とのかかわる筋道を理解し、子どもの姿を捉える視点について学ぶ。						
到達目標		(1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 (2) 乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 (3) 乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。 (4) 自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。 (5) 家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。						
授業内容 と 進め方		回	授業内容		予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
		1	幼稚園教育要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容・内容の取扱いについて学ぶ。		幼稚園教育要領解説第 2 章「人間関係」を読む。	2 時間	領域「人間関係」のねらいや内容についてまとめる。	2 時間
		2	幼児を取り巻く人間関係と現代的特徴とその社会的背景について理解する。		幼児の人間関係について考えをまとめる。	2 時間	「幼児を取り巻く人間関係」について授業で学んだことをまとめる。	2 時間
		3	自分や周りの人などとの関係性の中から、印象的な場面を取り上げ、グループで紹介し合い、様々な場面の人間関係について考えを深める。		自分の生活の中で印象的な人とかかわりについて考える。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
		4	0～2歳児における人とかかわりの姿の映像を通して、人間関係の発達の姿を考察する。		保育所保育指針解説 P101～109、「乳児の社会的発達に関する視点」 P135～144「人との関わりに関する領域」を	2 時間	授業で視聴した映像記録をまとめる。	2 時間

			読み、人間関係の発達の過程を考えておく。			
5	幼児期の遊びや生活の映像を通し、その中にみられる人とのかかわる力の育ちについてグループで話し合い、理解する。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読み、幼児の人と関わる姿について気付いたことをまとめておく。	2時間	授業で視聴した映像記録をまとめる。	2時間	
6	自我の芽生えから自立へ向かう過程について映像や事例を通して理解し、保育者の援助について学ぶ。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読み、幼児が自立へ向かう過程について考えをまとめる。	2時間	授業で視聴した映像や事例についてまとめる。	2時間	
7	子ども同士のトラブルやいざこざの実際の場面を映像や事例から考え、幼児の発達とどのように関係しているかをグループで話し合い探る。	子ども同士のトラブルやいざこざにはどのような場面があるかを考えておく。	2時間	「子ども同士のトラブルやいざこざ」についてグループで話し合ったことをまとめる。	2時間	
8	幼児の仲間意識の形成と協同する存在へと変容する過程をグループで話し合い理解し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読み、幼児の仲間関係の発達についてまとめる。	2時間	「幼児の協同性」の発達についてグループで話し合ったことをまとめる。	2時間	
9	個の育ちと集団の育ちについての関係性を映像や事例を通して考察し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読み、個と集団の育ちの関係について考えをまとめる。	2時間	授業で視聴した映像や事例についてまとめる。	2時間	
10	人とのかわりが難しい子どもに対して、様々な事例を通しその要因について理解し対応について考察する。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読み、かわりが難しい子どもとはどのような子どもかを考えておく。	2時間	授業で紹介した事例から考えたことをまとめる。	2時間	
11	幼児が葛藤体験を通し、きまりの重要性を理解したり、気持ちを調整し折り合いをつけたりする過程について理解し道徳性・規範意識の芽生えの関係性について考える。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読み、道徳性、規範意識の芽生えを培うために大切なことを考えておく。	2時間	「幼児の道徳性・規範意識の芽生え」について授業を振り返り、自分の考えをまとめる。	2時間	
12	小学校との連携や地域の様々な人々との交流の意義について考え、実際の事例を通してそのあり方や保育者の役割を学ぶ。	地域との交流はどのようなものがあるか調べる。	2時間	友達の発表を聞き、地域との交流活動についてまとめる。	2時間	
13	保護者との連携について事例を通してグループで話し合い子どもの育ちを支える上で大切であることを理解し、保護者との関係づくりについて学ぶ。	保護者との連携について自分の考えをまとめる。	2時間	「保護者との連携」についてグループで話し合ったことをまとめる。	2時間	
14	保育者同士が連携しながら保育にあたることや情報を共有することが子どもの生活に極めて重要であることを理解する。	保育者同士の連携について自分の考えをまとめる。	2時間	「保育者同士の連携」について授業を振り返り、要点をまと	2時間	

					める。	
	15	授業内容を振り返り学びを整理しながら、人とかかわる力を育てる保育者の役割や現代的課題について自分の考えをまとめる	15 回の資料を読み直す。	2 時間	15 回の授業を振り返り、学んだことをまとめる。	2 時間
成績評価	定期試験(50%)、レポート (30%)、授業への取組 (20%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。					
テキストおよび参考文献	テキスト：『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月 告示 文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月 告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月 告示 厚生労働省）、『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月 文部科学省）フレーベル館、『保育所保育指針解説』（平成 30 年 3 月 厚生労働省）フレーベル館 参考文献：『事例で学ぶ保育内容 領域 「人間関係」』無糖隆 監修 岩立京子 編集代表 萌文書林					
メッセージ	人が成長し生きていくためには、人間関係が極めて重要な要因です。人間関係の発達のために必要な事柄を映像や事例の幼児の姿から考え、学んでいきましょう。 保育士証・幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験 (知識・理解)	20%
(2) 乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(3) 乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(4) 自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基	間違いはいくつかある	説明できない。	授業への取組 (関心・意欲・	10%

		本を説明できる。	が、最低限の基本を説明できる。		態度)	
(5) 家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別	
幼児と環境 Toddlers and the environment			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC1011		1 年次		後期	
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担 当 教 員					実務家教員	
演習		1	必修	玉木 晃子					○	
実務家教員の詳細		保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。								
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。							○	
		(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。							○	
		(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。							○	
		(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。							○	
		(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。							○	
		(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。							○	
概 要		幼児を取り巻く様々な環境の教育的意義を理解し、幼児期の環境と関わる力の発達について、事例や映像を通して、幼児の実際の姿から学ぶ。								
到達目標		(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を理解する。								
		(2) 乳幼児の物理的、数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。								
		(3) 乳幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。								
		(4) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。								
		(5) 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。								
授業内容と進め方		回	授業内容		予習内容		予習時間	復習内容		復習時間
		1	日々の生活を基に環境の関係性についてグループで考え、環境の意味を理解する		幼児を取り巻く環境について自分のイメージしたことをまとめる		2 時間	生活と環境の関係性についてまとめる		2 時間
		2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらいや内容について具体的に学ぶ		幼稚園教育要領解説第 2 章「環境」を読む		2 時間	領域「環境」のねらいや内容を復習する		2 時間
		3	実際の保育現場での保育室の環境構成の映像を見て、グループで話し合い、環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する		子どもを取り巻く環境について考える		2 時間	映像記録をまとめる		2 時間
		4	乳幼児期の発達における環境との関わりについて映像を通して理解する		幼稚園教育要領解説第 2 章「環境」を読む。		2 時間	映像記録をまとめる		2 時間
		5	子どもの発達と環境とのかかわりについて理解する 誕生から満 3 歳まで		保育所保育指針解説第 2 章 1， 2 を読む		2 時間	子どもと人やものとのかかわりについて理解する		2 時間

	6	大学内を散策し、見たり感じたり触れたりしながら子どもの触れる環境について考える	今時期の自然の様子（草花・虫など）について調べておく	2 時間	見つけたことを図で表し、グループで話し合ったことをまとめる	2 時間
	7	季節の自然物を使った遊びを体験する 自然物を使って作品をつくる	秋の自然物を探して持ってくる	2 時間	体験した遊び、作ったものに対してまとめる	2 時間
	8	子どもと自然（砂・土・水など）との関わりについて映像や事例を通して学び、自然体験活動の大切さを理解する	自然に関わる遊びを考えておく	2 時間	小麦粉粘土で遊んだ感想や粘土の種類についてまとめる	2 時間
	9	実際に花や野菜の栽培をし、どのように成長していくのか、そのためにはどのようなことが必要かについて学ぶ	自分が育てたい花や野菜の育て方について調べ、まとめておく	2 時間	授業を振り返り、考えたことをまとめる	2 時間
	10	子どもの周りにある身近なものについて考え、それらを使った遊びをしたり、実際につくってみたりする	身近なものにはどんなものがあるか考えてくる	2 時間	身近なものを使って何がつくれるかどんな遊びができるかまとめる	2 時間
	11	「数・量・図形」について、子どもが遊びや生活を通して学んでいく方法を理解する	「数・量・図形」に関わる遊びについて考えておく	2 時間	子どもが「数・量・図形」について学んでいく方法をまとめる	2 時間
	12	乳幼児を取り巻く標識・文字と子どもの生活について考え、どのようなものがあるか、具体的な場面や活動を学ぶ	乳幼児を取り巻く標識にはどのようなものがあるか調べておく	2 時間	子どもが標識や文字について学んでいく方法をまとめる	2 時間
	13	乳幼児期の生活に関係の深い情報や施設などについて調べ、それらにかかわる具体的な活動について考える	乳幼児期の生活に関係する施設について調べておく	2 時間	身近な情報誌にはどんなものがあるかまた子どもに関する情報があるかどうか調べる	2 時間
	14	クラスの保育環境について、自分なりに考え、グループ内で発表する	保育環境を構成したい年齢や時期を決め、構想を考えてくる	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる	2 時間
	15	幼児と環境の関わりについて振り返り、環境の重要性と課題についてまとめる	15 回の資料を読み直す	2 時間	振り返りシートによりまとめる	2 時間
成 績 評 価		定期試験(50%)、レポート(30%)、授業への取組・グループワーク (20%)				
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法		振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ループリックによる成績評価を配布します。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）、『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月 文部科学省）フレーベル館 参考文献：田宮 縁 体験する 調べる 考える 領域「環境」 萌文書林				
メ ッ セ ー ジ な ど		子どもたちは周囲の様々な環境に主体的にかかわる中で、発達に必要な経験をします。周囲の様々な環境とはどのようなものなのでしょうか。環境に関わる幼児の姿や、実際の環境を見たり、触れたり、考えたりすることを通して幼児にとっての環境の重要性について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許：必修科目 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を理解する。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験 (知識・理解)	50%
(2) 乳幼児の物理的、数量・図形との関わり、事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
(3) 乳幼児の生物・自然との関わり、事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組・グループワーク (関心・意欲・態度、思考力・表現力)	10%
(4) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
(5) 乳幼児の生活に係る深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組グループワーク (関心・意欲・態度、思考力・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
社会福祉 Social Welfare		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECBE1001	1 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家 教員
講義	2	必修	正長 清志			
ディプロマ ポリシー との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	これまでの社会福祉のパターナリズムに基づくサービスの提供のあり方を検討し、利用者本位のサービスが自己責任と社会連帯による福祉社会の創造と、自助努力において自己責任にともなうリスクへのセーフティネットを、どのように構築していくことができるのか考えていきましょう。現在の社会において多様化している社会福祉ニーズとその課題を学びましょう。					
到達目標	(1) 社会福祉の概念と理念について説明することができる。 (2) 社会福祉の歴史的変遷について説明することができる。 (3) 社会福祉の法律、制度や機関・施設の役割について、自分の意見を述べることができる。 (4) 支援を必要とする対象者に行なうサービスについて理解することができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	社会福祉の概念と意義－慈善事業から今日へ受け継がれているものに気づく－	ボランティア活動の実際を示せるようにする	2 時間	慈善事業と社会福祉について整理する	2 時間
	2	生活基盤と社会福祉－ライフサイクルの変化と多様化－	生活基盤の変化に関心を持ち講義に臨む	2 時間	ライフサイクルの変化を整理する	2 時間
	3	日本の社会保障制度－所得保障・医療保障について公的扶助制度を中心に考察する－	医療保険制度について関心を持ち講義に臨む	2 時間	社会保障制度の疑問を整理する	2 時間
	4	高齢者の医療・保健・福祉を介護保険制度を中心に理解する	介護保険制度について関心を持ち講義に臨む	2 時間	介護保険制度で対応できない点を示す	2 時間
	5	児童福祉と父子・母子及び寡婦福祉の関連について、社会的養護を中心に考察する	近隣の社会的養護施設を調べておく	2 時間	社会的養護に関する制度を整理する	2 時間
	6	身体障害者福祉と知的障害者福祉－新たな施策の現状について理解する－	障害者福祉の 3 種類を調べて講義に臨む	2 時間	ICF の考え方を理解する	2 時間
	7	欧米の社会福祉の歴史的展開 ①イギリス・ドイツ・アメリカ合衆国を中心に	資本主義国家の成り立ちを調べて臨む	2 時間	福祉国家の成立を整理する	2 時間

	8	欧米の社会福祉の歴史的展開 ②スウェーデン・デンマーク・ フィンランドを中心に	北欧の国々の社会 保障の仕組み や特徴を調べる	2 時間	ネウボラを整理 する	2 時間
	9	日本の社会福祉の歴史的展開 ①古代から近世まで	律令制度の開始 に着目する	2 時間	近世の相互扶助 を整理する	2 時間
	10	日本の社会福祉の歴史的展開 ②明治以降から現代まで	社会事業に成立 を学んでおく	2 時間	厚生事業への確 認する	2 時間
	11	社会福祉施設の運営管理とそ の組織および自治体との連携 に注目する	社会福祉法人の 動向を調べる	2 時間	多様な福祉サー ビスを理解する	2 時間
	12	日本の社会福祉の動向①現在 の社会保障政策を中心に生活 課題を焦点に考察する	ソーシャルワー クとは何か読み 込む	2 時間	生活課題の整理 をする	2 時間
	13	日本の社会福祉の動向②子ど も・子育て支援新制度を中心に 幼児教育の無償化を考察する	ソーシャルワー クの展開を確認 して講義に臨む	2 時間	アフターケアに ついて考察する	2 時間
	14	アジア諸国の社会福祉の動向 と日本の社会的役割	アジアの社会福 祉を学ぶ	2 時間	介護福祉サービ スの理解	2 時間
	15	まとめ 課題レポートの作成 と、プレゼンテーション実施後 各自によるふり返り	少子化対策の動 向	2 時間	自らの考察して きた成果が発揮 できたか	2 時間
成 績 評 価	定期試験 (80%)、課題・レポート (10%)、授業への取り組み (10%)					
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返り、提出に備えてください。課題についてのフィードバックについては課題レポート提出後に解説を行います。質問は授業内で対応します。					
テキストおよび 参 考 文 献	【テキスト】 西村 昇・日開野 博・山下 正國編 (2022) 『七訂版 社会福祉概論ーその基礎学習のためにー』中央法規出版 2,600 円 その他参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。 【持参物】 記録ファイル					
メ ッ セ ー ジ な ど	私たちの生活が豊かで幸せであるために、どんな社会であることが望ましいのでしょうか。積極的に授業に参加し、積極的に自分の意見を発表しましょう。 保育士証：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 社会福祉の概念と理念について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	10%
(2) 社会福祉の歴史の変遷について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート(思考力・判断力・表現力)	10%
(3) 社会福祉の法律、制度や機関・施設の役割について、自分の意見を述べることができる。	正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	大きな誤りがなく、自分の考えを述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	定期試験(知識・理解)	40%
(4) 支援を必要とする対象者に行なうサービスについて理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いがなく、理解できている。	間違いはいくつかあるが、理解しようとしている。	理解できていない。	定期試験(知識・理解)	40%

授業科目			対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
子ども家庭福祉 Child and Family Welfare			児童教育学科 幼児教育学専攻	25ECBE1002	1 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家教員
講義	2	必修	正長 清志			
実務家教員の 詳細						
ディプロマ ポリシー との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	児童福祉に関係する、法令および、機関・施設などについて学習し、保護者を含めた社会の責任として実践される子どもの well-being に着目します。また、子どもの人権の尊重とともに自己実現への支援、専門職員として、子どもが生き生きと生活している状況を継続していくためには、支援者の継続した努力が必要であることを、家庭生活の変動から考察しましょう。					
到達目標	(1) 子ども家庭福祉の歴史、意義、理念について説明することができる。					
	(2) 子ども家庭福祉の法制度、行政組織、児童福祉施設とその従事者の役割について説明できる。					
	(3) 子ども家庭福祉の今日的課題に対して、自分の考えや意見を述べることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	子ども家庭福祉の理念と概念を俯瞰する	子ども家庭福祉とは何かを読む	2 時間	子どもと家庭を取り巻く社会の状況を整理する	2 時間
	2	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向	子どもが保護の対象となった歴史を学ぶ	2 時間	イギリスの子ども家庭福祉の歴史を理解する	2 時間
	3	子どもの人権擁護の歴史と現代社会における課題	子どもの権利条約を理解する	2 時間	子どもの権利を守る 4 つの項目を確認する	2 時間
	4	児童福祉に関する法制度－行政財政と実施機関の取り組み－	児童福祉法の制定を学ぶ	2 時間	子育てしやすい環境を考察する	2 時間
	5	児童福祉施設と専門職－保育士の役割を把握する－	児童福祉施設の種別を学ぶ	2 時間	子ども家庭ソーシャルワークについて理解する	2 時間

	6	少子化対策の動向と子ども・子育て支援制度の概要	少子化対策の動向を調べる	2時間	子ども誰でも通園制度を知る	2時間
	7	母子保健サービスの動向と児童健全育成の課題	母子保健サービスを知る	2時間	健全育成について理解する	2時間
	8	多様な保育ニーズに対応するためのしくみー障害児支援の現状と展望を試みるー	保護者の就労支援を調べる	2時間	保育施策の現状を理解する	2時間
	9	障害のある子どもへの対応ー障害児支援のチームアプローチを考察するー	障害の捉え方 ICDH から ICF へ	2時間	合理的配慮について理解する	2時間
	10	DV が子どもに与える影響を考察する	児童虐待防止法について調べる	2時間	子どもを守る地域の取り組み	2時間
	11	貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応	居場所が作られているか調べる	2時間	総合的な支援について考察する	2時間
	12	社会的養護を必要とする子どもへの施策	子どもの権利擁護について調べる	2時間	アフターケアについて考察する	2時間
	13	地域における連携・協働とネットワークを構築するために	ヤングケアラーについて調べる	2時間	子ども家庭センターについて	2時間
	14	仕事と子育ての両立支援ーグループディスカッション	主な発達障害の特徴について調べる	2時間	保育士の倫理観について	2時間
	15	プレゼンテーション実施後、ふり返しを中心にした課題レポートの作成	保育士の就労人材開発支援動向	2時間	自らの考察してきた成果が発揮できたか	2時間
成績評価		定期試験（80%）、課題・レポート（20%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		定期試験の内容に関して、講義の内容に沿い、理解を深め、講義の内容を再確認できるものとなっています。履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返し、提出に備えてください。課題についてのフィードバックについては、課題レポート提出後に解説を行います。				
テキストおよび参考文献		【テキスト】直島正樹・河野清志編著(2019)『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』萌文書林 2,310 円 その他参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。また、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。 【持参物】記録用ファイル				
メッセージなど		基本的には講義形式で行いますが、視聴覚機材を活用します。ディスカッションの場を随時設けますので、積極的に自分の意見を発表しお互いの学びを深めていきましょう。 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子ども家庭福祉の歴史、意義、理念について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	40%

(2) 子ども家庭福祉の法制度、行政組織、児童福祉施設とその従事者の役割について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	40%
(3) 子ども家庭福祉の今日的課題に対して、自分の考えや意見を述べることができる。	子ども家庭福祉の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子ども家庭福祉の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的問題もなく、自分の考えを述べている。	子ども家庭福祉の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
児童福祉法と子どもの権利 Child Welfare Act and Children's Right		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECBE2003	2 年次	後期
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	正長 清志			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関 係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	児童福祉法の法律と、児童の権利に関する条約の内容を理解し知識を深める。					
到達目標	(1) 児童福祉法の基本を具体的に説明できる。 (2) 児童の権利に関する条約の歴史的背景と内容を説明できる。 (3) 条文を解釈し、自分の言葉で説明できる。 (4) 法律を理解したうえで、子どもを取り巻く現状と課題について自分の意見を述べることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	児童の権利に関する条約	児童の権利に関する条約を読む	2 時間	発達する権利についてまとめる	2 時間
	2	子ども家庭福祉の理念と課題	子ども家庭福祉の理念と課題を読む	2 時間	理念をまとめる	2 時間
	3	子ども家庭福祉行政	子ども家庭の動向を読む	2 時間	行政施策をまとめる	2 時間
	4	子ども・子育て支援と仕事と家庭の調和	子ども・子育て支援制度を読む	2 時間	各自治体の施策を参考にまとめる	2 時間
	5	母子保健の施策	健やか親子 21 を読む	2 時間	諸外国との水準の推移をまとめる	2 時間
	6	保育の施策①子ども・子育て支援制度の施行状況	保育関連施策の動向を読む	2 時間	こどもまんなか実行計画をまとめる	2 時間
	7	保育の施策②今後の保育所・保育士等の在り方に関する検討	新子育て安心プランの概要を読む	2 時間	不適切保育の対応ガイドラインを見る	2 時間
	8	地域の子ども家庭のための施策	放課後児童対策パッケージを読む	2 時間	ヤングケアラーに対する支援をまとめる	2 時間
	9	児童虐待防止のための施策	児童虐待の定義を読む	2 時間	子ども家庭センターの機能をまとめる	2 時間
	10	社会的養護を必要とする子どもと家庭への施策①児童家庭支援センターについて	要保護児童対策地域協議会について調べる	2 時間	里親制度についての見解を示す	2 時間
	11	社会的養護を必要とする子どもと家庭への施策②社会的養護におけるこどものアドボケイト	条例を自分の言葉で表現する	2 時間	アドボケイトを自分の言葉で表現する	2 時間
	12	ひとり親家庭・女性への施策	条例を自分の言葉で表現する	2 時間	施策に対して自分の見解を示す	2 時間

	13	障害のある子どもと家庭への施策	条例を自分の言葉で表現する	2 時間	施策に対して自分の見解を示す	2 時間
	14	子どもの貧困に対する施策	相対的貧困率の推移に着目する	2 時間	施策に対して自分の見解を示す	2 時間
	15	切れ目のない保育のための対策	保育の質の確保を考察する	2 時間	配付資料で講義を振り返る	2 時間
成績評価		課題・レポート (40%)、授業への取り組み (20%)、発表・プレゼンテーション (10%)、グループワーク・グループ討議 (30%)				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		レポート課題は、授業内で返却します。質問は授業内で対応します。				
テキストおよび参考文献		テキスト 宮島清・山縣文治編集(2024)『ひと目でわかる保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2025』全国保育士養成協議会監修 中央法規出版。 参考文献 児童福祉六法 資料プリントはその都度配付します。				
メッセージなど		子どもに関連する法律や制度についての知識を深めることで、本来子どもが持っている力や、権利について一緒に学びましょう。 保育士証：選択科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 児童福祉法の基本を具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	10%
(2) 児童の権利に関する条約の歴史的背景と内容を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・態度）	10%
(3) 条文を解釈し、自分の言葉で説明できる。	ほぼ完璧に解釈し、自分の言葉で説明している。	大きな間違いがなく、自分の言葉で説明している。	間違いはいくつかあるが、自分の言葉で説明している。	説明できない。	グループワーク・グループ討議（意欲・態度・思考力・表現力）	10%
	ほぼ完璧に解釈し、自分の言葉で説明している。	大きな間違いがなく、自分の言葉で説明している。	間違いはいくつかあるが、自分の言葉で説明している。	説明できない。	発表・プレゼンテーション（意欲・態度・思考力・表現力）	10%
(4) 法律を理解したうえで、子どもを取り巻く現状と課題について自分の意見を述べるができる。	正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	大きな誤りがなく、自分の考えを述べている。	最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート（知識・思考力・表現力）	40%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
保育原理 Principle of Childcare and Education		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECBE1004	1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	中津 愛子			
ディプロマ ポリシー との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	保育の意義と目的、保育所保育指針の基本、保育の歴史を学び、現代社会における保育の現状と課題について認識を深める。					
到達目標	(1) 保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本を説明できる。 (2) 保育に関する法令と制度の基本を説明できる。 (3) 保育の思想と歴史的変遷を説明できる。 (4) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題を解決に向けた自分の意見を述べることができる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	保育の理念と概念	保育所保育指針 第 1 章 保育の役割と保育の目標を読む	2 時間	就学前の保育・教育の概念と役割をまとめる	2 時間
	2	子どもの最善の利益と保育、保育所の社会的責任	児童の権利に関する条約 子どもの最善の利益を読む	2 時間	保育所の役割と社会的責任をまとめる	2 時間
	3	子ども家庭福祉と保育、保育に関する法令	子ども・子育て支援法令を調べる	2 時間	保育に関する法令をまとめる	2 時間
	4	保育の制度的位置づけ	子ども未来戦略の方針を読む	2 時間	子ども・子育て支援の改正点をまとめる	2 時間
	5	保育所保育指針における保育所保育の基本原則 0 歳児の保育	乳児保育のねらいと内容をまとめる	2 時間	養護と教育が一体となった保育とは何かをまとめる	2 時間

	6	1歳以上3歳未満児の保育	1歳以上3歳未満の保育のねらいと内容を調べる	2時間	1歳以上3歳未満児の保育の基本をまとめる	2時間
	7	3歳以上児の保育	3歳以上の保育のねらいと内容を調べる	2時間	3歳以上児の保育の基本をまとめる	2時間
	8	保育所保育の目標と方法	保育所保育指針保育の目標と方法を読む	2時間	保育の目標と方法をまとめる	2時間
	9	保育の計画と実践	保育所保育指針保育の計画及び評価を読む	2時間	指導計画作成上の留意点をまとめる	2時間
	10	保育の過程（計画・実践・記録・評価・改善）とその循環	子ども理解に基づく保育の計画を読む	2時間	子ども理解と保育の計画、記録と評価・省察をまとめる	2時間
	11	諸外国の保育の思想と歴史 1回目	保育に関する歴史上の重要人物の記載を読む	2時間	次の人物のまとめ コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、オウエン	2時間
	12	諸外国の保育の思想と歴史 2回目	児童中心主義の広がりに関する記載を読む	2時間	次の人物のまとめ エレン・ケイ、デューイ、モンテッソーリ	2時間
	13	日本の保育の思想と歴史 1回目	日本における幼稚園の創設、保育の歴史を読む	2時間	明治時代の保育に関する歴史をまとめる	2時間
	14	日本の保育の思想と歴史 2回目	日本における保育内容の変遷の歴史を読む	2時間	大正～昭和の保育の歴史をまとめる	2時間
	15	保育の現状と課題	現代社会における保育の実情と課題を考える	2時間	保育の現状と課題をレポートにまとめる	2時間
成績評価		定期試験（60%）、課題・レポート（40%）				
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法		授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ループリックによる成績評価を配布する。				
テキストおよび 参考文献		テキスト：天野珠路・北野幸子編「保育原理」新基本保育シリーズ① 中央法規 参考文献：大沼良子・榎沢良彦編「三訂 保育原理」建帛社、ミネルヴァ書房編集部 監修「保育小六法」ミネルヴァ書房				
メッセージ な		保育現場の観察、行事への参加など、子どもと直接関わる機会を得る努力をして保育所の役割と現状について理解を深めるようにしてください。 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	30%
(2) 保育に関する法令と制度の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本的事項を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(3) 保育の思想と歴史的変遷を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(4) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題を解決に向けた自分の意見を述べるができる。	保育の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	保育の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	40%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
現代社会と保育行政 Childcare Administration in Modern Society		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECBE2005	2 年次	後期
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	平田 睦美			○
実務家教員 の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ ポリシー との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	子ども・子育て支援新制度を中心とした現代社会の保育制度について詳しく学ぶとともに、現代社会における子ども、子育て、保育の課題を認識し、その解決策について考えを深める。					
到達目標	(1) 子ども・子育て支援新制度の基本を説明できる。					
	(2) 現代社会における子ども、子育て、保育に関する様々な課題を見出し、説明できる。					
	(3) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題解決に向けた自分の意見を述べることができる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行う。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	保育制度の現状	現在の保育制度について関心のあることを考えておく。	2 時間	保育制度の現状や課題について、グループで話し合ったことから、自分の考えをまとめる。	2 時間
	2	少子化対策の変遷	少子化対策について自分が知っていることをまとめる。	2 時間	少子化対策の変遷について重要なポイントを整理する。	2 時間
	3	子育て支援施策の変遷	子育て支援施策について自分の考えをまとめる。	2 時間	子育て支援施策についてグループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	4	子ども・子育て支援新制度とその課題	子ども・子育て支援新制度について調べる。	2 時間	子ども・子育て支援新制度の課題についてまとめる。	2 時間

	5	子育て支援における世界の取り組みの現状	子育て支援の世界の取組を調べる。	2 時間	子育て支援の世界の取組についてまとめる。	2 時間
	6	世界の保育・幼児教育の現状	気になる国の保育・幼児教育について調べる。	2 時間	友達の調べた国の幼児教育の現状についてまとめる。	2 時間
	7	現代社会がもたらす子どもへの影響	現代の子どもの生活の問題点を考えまとめる。	2 時間	グループで話し合った意見をまとめる。	2 時間
	8	子どもの育ちと生活・遊びの変化	友達に紹介したい遊びを考え、遊ぶ準備をする。	2 時間	友達と経験した遊びについて復習する。	2 時間
	9	子育て中の人が抱えている問題とは	子育て支援施設を訪問するための質問事項についてまとめる。	2 時間	訪問先で聞いたことについてまとめる。	2 時間
	10	保育現場の抱える問題 施設型保育	施設型保育について調べる。	2 時間	授業で学んだことから問題点について考えをまとめる。	2 時間
	11	保育現場の抱える問題 地域型保育	地域型保育について調べる。	2 時間	授業で学んだことから問題点についてまとめる。	2 時間
	12	保育者を支える体制の問題点	保育者を支える体制について自分の考えをまとめる。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	13	課題報告会① 現代の子どもの問題	現代の子どもの問題について考えをまとめる。	2 時間	報告会での発表から、自分の意見をまとめる。	2 時間
	14	課題報告会② 現代の保育・子育ての問題	現代の保育・子育ての問題について考えをまとめる。	2 時間	報告会での発表から、自分の意見をまとめる。	2 時間
	15	まとめ	15回の授業の資料や振り返りシートを読み要点を整理する。	2 時間	15回の授業を振り返り、今後の子育て支援や保育についての思いをまとめる。	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート（40%）、発表・プレゼンテーション（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（30%）				
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法		授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：事前資料配布 参考文献：日本保育学会編著「保育学講座②保育を支えるしくみ 制度と行政」東京大学出版会、 天野珠路・北野幸子編「保育原理」第2版 中央法規				

メ ッ セ ー ジ な ど	現在の保育事情を理解し、保育現場で働くことを考えている人の受講をお勧めする。 保育士証：選択科目
------------------	---

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子ども・子育て支援新制度の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解）	30%
(2) 現代社会における子ども、子育て、保育に関する様々な課題を見出し、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本的事項を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	40%
(3) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題解決に向けた自分の意見を述べることができる。	保育の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	保育の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	発表・プレゼンテーション（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(3) 保育の現状と課題を認識したうえで、課題解決に向けた自分の意見を述べることができる。	保育の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	保育の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	グループワーク・グループ討議（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
社会的養護Ⅰ Social Care Ⅰ			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECBE1006		1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担 当 教 員				実務家教員
講義		2	必修	岩城 淳				○
実務家教員の詳細		児童養護施設の施設長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○
		(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						○
		(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○
		(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○
		(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○
		(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○
概 要		養護問題の史的展開や今日の特徴を踏まえ、社会的養護の基本原則や原則についての理解を深め、保育士として求められる資質や専門性について考察を深めることをねらいとして解説する。また、実習に向けた事前学習として「ペアレントトレーニング」「子どもの権利」「日本型社会的養育」を中心に構成していきたい。						
到達目標		(1) 社会的養護の歴史、枠組み、法体系について説明することができる。 (2) 社会的養護の基本原則や原則について説明することができる。 (3) 社会的養護の今日的課題について、自分の考えや意見を述べることができる。						
授業内容と進め方		回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
		1	オリエンテーション:この講義の進め方					
		2	ペアとれ:①わかりやすく伝えよう	1 回概要プリント	2 時間	配布プリント	2 時間	
		3	ペアとれ:②ABC 行動分析から見える行動の結果	2 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間	
		4	ペアとれ:③誉め方のコツ〜グッドサイクル〜	3 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間	
		5	ペアとれ:④望ましい行動の習慣づけ	4 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間	
		6	ペアとれ:⑤代替行動の強化	5 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間	
		7	ペアとれ:⑥場面切り替えとふり返り	6 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間	
		8	児童養護施設を知ろう「ETV 特集:つかさ 18 歳、人生を取り戻したい」	7 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間	
		9	保育士の専門性とは	8 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間	
		10	児童福祉施設とは	9 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間	

	11	児童福祉法と児童の権利	10 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間
	12	虐待の理解	11 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間
	13	障がいの理解	12 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間
	14	社会的養護の歴史	13 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間
	15	まとめと視聴覚資料	14 回配布プリント	2 時間	配布プリント	2 時間
成 績 評 価	定期試験（80%）、課題・レポート（20%）					
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法	定期試験の内容に関して、講義の内容に沿い、理解を深め、講義の内容を再確認できるものとなっています。					
テキストおよび 参 考 文 献	配布資料					
メ ッ セ ー ジ な ど	毎回、A4 サイズの資料を配布予定であるので、資料を保管するためのクリアファイル等を用意することが望ましいです。基本的には講義形式で行いますが、施設見学、視聴覚資料の活用、ディスカッションの場を随時設け、学びを深めていきたいと思います。 保育士証：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 社会的養護の歴史、枠組み、法体系について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	30%
(2) 社会的養護の基本原則や原則について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	30%
(3) 社会的養護の今日的課題について、自分の考えや意見を述べることができる。	社会的養護の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	社会的養護の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	社会的養護の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	定期試験 (知識・理解)	20%
	社会的養護の現状と課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	社会的養護の現状と課題への認識の誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	社会的養護の現状と課題に対する認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・態度)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
社会的養護Ⅱ Social Care Ⅱ		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM1001	1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家教員
演習	1	選択	正長 清志			
実務家教員の詳細						
ディプロマポリシーとの関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	社会的養護の実施体系の一つである施設養護の児童養護施設のしくみそして家庭養護について具体的に学ぶ。また、事例を紹介することで具体的な支援について学び、子どもの理解をする。専門職としての倫理、知識、技術について学ぶ。また、これからの社会的養護について考察する。					
到達目標	(1) 社会的養護とは何か。特に児童養護施設のしくみや家庭養護について説明することができる。					
	(2) 子どもたちの支援について保育士の専門性を踏まえた説明を具体的にすることができる。					
	(3) 子どもの最善の利益を考え、実際に計画を作成し期限内に提出する。					
	(4) 各回の講義や演習に関心をもって参加する。					
授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	社会的養護における子どもの理解ー子どもの家庭環境の背景と、実態の把握ー	児童の権利に関する条約を確認する	2 時間	被措置児童等の虐待防止を理解する	2 時間
	2	社会的養護の内容①日常生活支援ー子どもの課題をアセスメントして、支援方法を検討していくー	自己表出を支える手立てを調べる	2 時間	自己覚知を理解できアセスメントができること	2 時間
	3	社会的養護の内容②心理的支援ー多面的な情報収集によるケース理解の大切さー	ソーシャルワークの発展過程を終結まで確認する	2 時間	多面的な視点でとらえる気持ちを養う	2 時間
	4	社会的養護の内容③自立支援ーさまざまな「居場所」と切れ目のない支援ー	地域生活に移行していく選択肢を調べる	2 時間	ライフストーリーを正しく理解するための支援	2 時間
	5	家庭養護の生活特性および実際ー養育里親家庭などで育つ子どもとのかかわる保育者ー	家庭養護と一般家庭での養育の違いを確認する	2 時間	ファミリーホームの役割を理解する	2 時間
	6	社会的養護における保育の専門性ー虐待を受けた子どもに対しての保育士の理解と行動についてー	児童福祉施設の保育士の配置について調べる	2 時間	リフレクションからエピソード記述に進むこと	2 時間

	7	施設養護の生活特性および実際 ①乳児院・児童養護施設・母子生活 支援施設について	3つの種類の施設 養護の生活特性と 対象者を確認する	2時間	3つの種類の施 設養護から自立 支援を考察する	2時間
	8	施設養護の生活特性および実際 ②児童心理治療施設・児童自立支援 施設・障害児施設について	それぞれの施設を 利用する子どもの 特長を調べる	2時間	家庭的養護と 施設養護を比 較してみる	2時間
	9	家庭養護の生活特性および実際 ③養育里親家庭などで育つ子どもと かかわる保育者	児童福祉施設の保 育士の配置につ いて調べる	2時間	家庭養護の多 様性を保育者 として理解を 深める	2時間
	10	社会的養護にかかわる相談援助の知 識・技術とその実践 ーソーシャルワークの視点を学ぶー	ソーシャルワーク の定義とエンパワ メントを確認する	2時間	ソーシャルワ ークの体系を 理解する	2時間
	11	社会的養護におけるソーシャルワーク ージュノグラムの描き方、読み方・エ コマップの作成方法ー	利用者理解のため の援助の視点につ いて考察する	2時間	家族関係を描 きその読み方 を理解する	2時間
	12	アセスメントと個別支援計画の作成 ー自立支援計画の策定から自立につ いて理解を深めるー	アセスメントが援 助の開始で大切さ ことを認識する	2時間	自立支援計画 の策定に興味 や関心を示す	2時間
	13	社会的養護における家庭支援 ー多機関協働で子どもと家庭の幸せ の支援を担うチームをつくるー	社会的養護が代替 養育の提供だけで はないことを学ぶ	2時間	総合的なアセ スメントにつ いて理解する	2時間
	14	今後の社会的養護の課題と展望 ー「社会的養護の課題と将来像」の プレゼンテーション準備ー	新たな社会的養護 の全体像を見てお く	2時間	社会的養護の 課題と解決に 向けた動きを 伺う	2時間
	15	プレゼンテーション実施後、ふり返 りを中心にした課題レポートの作成	社会的課題に自ら の意見を述べる準 備をする	2時間	市町村の子育 て支援施策と の連携を認識 する	2時間
成 績 評 価		課題・レポート（80%）、毎回の授業の感想・振り返り（20%）				
課題（試験・レポート 等）に対する フィードバックの方法		履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返し、提出に備えてください。課題についてのフィードバックについては課題レポート提出後に解説を行います。質問は授業内で対応します。				
テキストおよび 参 考 文 献		【テキスト】相澤仁・村井美紀・大竹智編著(2019)『新基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ』中央法規 2,200 円 その他参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。また、オープン教材等を活用し、授業、振り返り、予習・復習に役立てることがあります。 【持参物】記録ファイル				
メ ッ セ ー ジ な		児童養護施設などで暮らす子どもやその子ども達を支える保育士の職務内容に関心を寄せることを期待します。 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 社会的養護とは何か。特に児童養護施設のしくみや家庭養護について説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな間違いのない説明ができる。	最低限の説明ができる。	説明できない。	課題・レポート (知識・理解)	25%
(2) 子どもたちの支援について保育士の専門性を踏まえた説明を具体的にすることができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな間違いのない説明ができる。	最低限の説明ができる。	説明できない。	課題・レポート (知識・理解)	25%
(3) 子どもの最善の利益を考え、実際に計画を作成し期限内に提出する。	子どもの最善の利益をよく考えて作成している。	子どもの利益を考えて作成している。	最低限の内容が記入でき期限内に提出する。	提出していない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	30%
(4) 各回の講義や演習に関心をもって参加する。	とても関心をもって参加している。	関心をもって参加している。	参加している。	参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・態度)	20%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別		
社会的養護演習 Practice of Social Care			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM2002		2 年次		前期		
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担 当 教 員						実務家教員	
演習		1	選択	正長 清志						○	
実務家教員の 詳細											
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。								○	
		(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。									
		(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。									
		(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。								○	
		(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。									
		(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。								○	
概 要		前半は、児童福祉、児童福祉施設の歴史と現状を知り、児童福祉施設等の諸問題と役割について考える。後半は、自分で施設をつくってみることで、児童福祉法について理解し、子どもの生活に視点をのいた、支援を考えていく。									
到達目標		(1) 児童福祉、児童福祉施設の歴史と現状を知り、児童福祉施設等の諸問題と社会的役割について説明することができる。									
		(2) 子どもの生活に視点をのいた支援を考えるために、施設づくりに取り組み、それを説明することができる。									
		(3) 施設づくりは、疑問点を積極的に尋ね、調べる。課題作成は意欲を持ち、丁寧に工夫してつくる。									
授業内容 と 進め方		回	授業内容			予習内容		予習時間	復習内容		復習時間
		1	オリエンテーション・社会的養護の概要			資料収集		2 時間	内容をまとめる		2 時間
		2	児童福祉の歴史・児童養護の歴史			資料収集		2 時間	内容をまとめる		2 時間
		3	児童福祉法・子どもの権利条約・児童憲章			資料収集		2 時間	内容をまとめる		2 時間
		4	施設養護と家庭養護			資料収集		2 時間	内容をまとめる		2 時間
		5	児童福祉施設の諸問題と社会的役割			資料収集		2 時間	内容をまとめる		2 時間
		6	DVD 視聴			資料収集		2 時間	レポート作成		2 時間
		7	施設づくり① 施設の種別、名称、所在地、定員			資料収集		2 時間	内容をまとめる		2 時間
		8	施設づくり② 児童福祉法、設備及び運営に関する基準			資料収集		2 時間	内容をまとめる		2 時間
		9	施設づくり③ 児童福祉法、設備及び運営に関する基準			資料収集		2 時間	内容をまとめる		2 時間

	10	施設づくり④ 基本理念、方針	資料収集	2 時間	内容をまとめる	2 時間
	11	施設づくり⑤ 職員数、勤務表づくり	資料収集	2 時間	内容をまとめる	2 時間
	12	施設づくり⑥ 一日の生活の流れ、年間スケジュール	資料収集	2 時間	内容をまとめる	2 時間
	13	施設づくり⑦ 設備	資料収集	2 時間	内容をまとめる	2 時間
	14	施設づくり⑧ 間取り	資料収集	2 時間	内容をまとめる	2 時間
	15	施設づくり⑨ 発表	発表準備	2 時間	内容をまとめる	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート (70%)、発表・プレゼンテーション (30%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		レポート課題や授業の感想は、授業内に返却します。質問は授業内で対応します。				
テキストおよび参考文献		講義中に適宜指示 参考文献：児童福祉六法				
メッセージなど		社会的養護に興味関心を深め、一緒に子どもの支援について考えていきましょう。 保育士証：選択科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 児童福祉、児童福祉施設の歴史と現状を知り、児童福祉施設等の諸問題と社会的役割について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート (理解・思考力・表現力)	30%
(2) 子どもの生活に視点をのいた支援を考えるために、施設づくりに取り組み、それを説明することができる。	意欲をもちほぼ完璧に資料の説明ができる。	意欲をもち資料の説明ができる。	説明することができる。	説明できない。	発表・プレゼンテーション (態度・理解・意欲・思考力・表現力)	30%
(3) 施設づくりは、疑問点を積極的に尋ね、調べる。課題作成は意欲を持ち、丁寧に工夫してつくる。	意欲もちほぼ完璧に丁寧に工夫してつくることできる。	意欲をもち丁寧に工夫してつくることできる。	丁寧に工夫してつくることできる。	説明できない。	課題・レポート (知識・理解・意欲・思考力・表現力)	40%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
子ども家庭支援論 Study on Family Support		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECBE1007	1 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家教員
講義	2	選択	今川 晋平			○
実務家教員の詳細	地元の保育所の所長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマポリシーとの関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概要	本講義では、子どもが育つ環境としての家族が果たす役割や機能について基礎的な理解を深め、家庭の支援における子ども達の発達段階を理解し、少子高齢化や核家族化などの家庭を取り巻く社会状況と子育てのための支援体制の現状や問題点等、保育に携わる者に求められる基本的知識を学ぶ。					
到達目標	(1)-1) 家庭や育児についての支援の必要性について説明できる。					
	(1)-2) 家庭支援における様々な諸問題についての現状を説明することができる。					
	(1)-3) 支援体制等の現状や問題に対して、自分の考えや意見を述べることができる。					
授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	オリエンテーション			授業の振り返りプリント等をまとめる。	2 時間
	2	家庭の意義と機能：家族とは？家庭とは？世帯とは？	家族とは何か、調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	3	家庭支援の意義と役割ー少子化の意味するものー	少子化の課題は何か調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	4	現代家庭の人間関係ーいまどきの子どもたちー	子どもの在り方とはどんなものか調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	5	家庭を取り巻く社会的状況	家庭を取り巻く社会的状況は、どうなっているか調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間
	6	家庭支援の政策と制度と現状	家庭支援の制度はどんなものがあるか調べておく	2 時間	授業での振り返り、授業で使用したプリント等をまとめる。	2 時間

	7	特別なニーズを持つ家族と援助①育てにくさや障害のある子ども	障害のある子どもの家庭支援は何か必要か調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使ったプリント等をまとめる。	2時間
	8	特別なニーズを持つ家族と援助②児童虐待	児童虐待に対して調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使ったプリント等をまとめる。	2時間
	9	特別なニーズを持つ家族と援助③	特別なニーズを持つ家族に必要な支援は何か調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使ったプリント等をまとめる。	2時間
	10	保育現場でのソーシャルワーク	ソーシャルワークとは何か調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使ったプリント等をまとめる。	2時間
	11	子どもの食育ーキレル子どもの食生活ー	子どもの食育について何が必要か調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使ったプリント等をまとめる。	2時間
	12	子どもの発達段階としつけー体力・知力は遊びからー	子どもの遊びについて何が必要か調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使ったプリント等をまとめる。	2時間
	13	保育者担う社会福祉援助技術のあり方	保育者の必要な援助の在り方について調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使ったプリント等をまとめる。	2時間
	14	演習ワークショップ①ー課題解決のための方策討議ー	問題解決の仕方に必要なとらえ方を調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使ったプリント等をまとめる。	2時間
	15	演習ワークショップ②ー課題のグループ討議とまとめー	支援に必要な課題等の問題を調べておく	2時間	授業での振り返り、授業で使ったプリント等をまとめる。	2時間
成績評価		定期試験（70%）、課題・レポート（30%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		試験やレポートは、ルーブリック評価での結果を渡す				
テキストおよび参考文献		テキスト：『コンパクト版保育者養成シリーズ 新版 家庭支援論』 谷田貝公昭・石橋哲成【監修】中野由美子・佐藤純子【編著】、講義時に資料を配布、参考文献はその都度紹介				
メッセージなど		資料を配布予定なので、資料を保管するためのファイル等を用意することが望ましい。講義中の私語、携帯は慎む。保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 家庭や育児についての支援の必要性について説明できる。	問題なくほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いはないが基本的な説明をすることが可能である。	最低限度の説明はできる	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	40%
(1)-2) 家庭支援における様々な諸問題についての現状を説明することができる	問題なくほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いはないが基本的な説明をすることが可能である。	最低限度の説明はできる	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	30%
(1)-3) 支援体制等の現状や問題に対して、自分の考えや意見を述べることができる。	家庭支援を必要とする社会的状況を正しく認識して、ほぼ完璧に自分の考えを述べることができる	家庭支援を必要とする社会的状況を基本的な説明をすることが可能で、自分の考えを述べることができる。	家庭支援を必要とする社会的状況を最低限度の説明はでき、自分の考えを述べることができる。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート (関心・判断力・思考力)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
子育て支援 Child Care Support		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM2003	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	平田 睦美			○
実務家教員 の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	子どもの保育に加えて、保護者からの相談を受けて助言することが、保育士の職務に義務付けられました。保育園に通う在園児の保護者だけでなく、地域で子育てする保護者についても同様です。子育てをしている保護者はどのようなことで困っているのか、事例を通して考えていきましょう。					
到達目標	(1) 保育士の行う保育の専門性について説明できる。 (2) 保護者に対する相談・助言・行動見本の提示などの展開や具体的方法について説明できる。 (3) 様々な場面や対象に即した支援の内容と方法、技術を具体的に理解する。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行う。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	子育て支援とは	「子育て支援と聞いてイメージすること」をまとめる。	2 時間	教科書のストーリー 1 について感じたことをまとめる。	2 時間
	2	子育て支援の意義	教科書 Lesson2 のストーリーを読んで感想をまとめる。	2 時間	教科書 Lesson2 の振り返りシートに基づき、子育て支援の意義をまとめる。	2 時間
	3	子育て支援の基本的価値・倫理	保育所保育指針総則・第 4 章子育て支援を読み、子育て支援の必要性について考えておく。	2 時間	教科書 Lesson3 の振り返りシートに基づき子育て支援の基本的価値・倫理についてまとめる。	2 時間
	4	子育て支援の基本的姿勢	教科書 Lesson4 のストーリーを読み、感想をまとめる。	2 時間	教科書 Lesson4 の振り返りシートに基づき子育て支援の基本的姿勢についてまとめる。	2 時間
	5	子育て支援の基本的技術	教科書 Lesson5 のストーリーを読み感想をまとめる。	2 時間	教科書 Lesson5 の振り返りシートに基づき子育て支援の基本	2 時間

					的技術についてまとめる。	
	6	園内・園外との連携と社会資源	自分の居住地域の子育て支援に関する場所を調べておく。	2 時間	教科書 Lesson6 の振り返りシートに基づき子育て支援の社会資源についてまとめる。	2 時間
	7	支援の実践、記録、評価	教科書 Lesson7 のストーリーを読み感想をまとめる。	2 時間	教科書 Lesson7 の振り返りシートに基づき支援の実践、記録、評価の方法についてまとめる。	2 時間
	8	日常会話を活用した子育て支援	教科書 Lesson8 のストーリーを読み、感想をまとめる。	2 時間	教科書 Lesson8 の振り返りシートに基づき日常会話を活用した子育て支援についてまとめる。	2 時間
	9	文書を活用した子育て支援	教科書 Lesson9 のストーリーを読み、感想をまとめる。	2 時間	クラスだよりを作成する。	2 時間
	10	行事などを利用した子育て支援	教科書 Lesson10 のストーリーを読み、感想をまとめる。	2 時間	保育参加を想定し、保育の内容と保護者に伝えたいことをまとめる。	2 時間
	11	環境を活用した子育て支援	保育実習園の環境構成についてまとめる。	2 時間	友達が発表した園の環境構成についてまとめる。	2 時間
	12	地域子育て支援拠点における支援	教科書 Lesson12 のストーリーを読み、感想をまとめる。	2 時間	自分の居住している地域での子育て支援拠点について調べる。	2 時間
	13	入所施設における子育て支援	教科書 Lesson13 のストーリーを読み、感想をまとめる。	2 時間	教科書 Lesson13 の振り返りシートに基づき入所施設における子育て支援についてまとめる。	2 時間
	14	通所施設における子育て支援	教科書 Lesson14 のストーリーを読み、感想をまとめる。	2 時間	教科書 Lesson14 の振り返りシートに基づき通所施設における子育て支援についてまとめる。	2 時間
	15	まとめと今後の課題	教科書 Lesson15 のストーリーを読み、感想をまとめる。	2 時間	15 回の授業を振り返り、子育て支援の重要性についてレポートを書く。	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート (70%)、グループワーク・グループ討議 (15%)、ロールプレイ (15%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		レポート課題は、次回授業で返却します。質問は授業内で対応します。				
テキストおよび参考文献		テキスト：二宮祐子「子育て支援」萌文書林				

メ ッ セ ー ジ な ど	子どもの保育に加えて、保護者からの相談を受けて助言することが、保育士の職務に義務付けられました。それは在園児の保護者だけでなく、地域で子育てする保護者についても同様です。子育てをしている保護者はどのようなことで困っているのでしょうか。事例を通して考えていきましょう。 保育士証：必修科目
--------------------------	---

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育士の行う保育の専門性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・表現力)	40%
(2) 保護者に対する相談・助言・行動見本の提示などの展開や具体的方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・表現力)	30%
(3) 様々な場面や対象に即した支援の内容と方法、技術を具体的に理解する。	自分の考えをしっかりと持ち、積極的に参加している。	考えに大きな間違いがなく、参加している。	考えに間違いはいくつかあるが、参加している。	考えようとせず、参加していない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・協働性・問題解決力)	15%
(3) 様々な場面や対象に即した支援の内容と方法、技術を具体的に理解する。	自分の考えをしっかりと持ち、積極的に参加している。	考えに大きな間違いがなく、参加している。	考えに間違いはいくつかあるが、参加している。	考えようとせず、参加していない。	ロールプレイ (思考力・判断力・表現力)	15%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別		
保育実習指導 I Study of Practical Training of Nursing I			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCP1001		1 年次		通年		
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担 当 教 員					実務家 教員		
演習		2	選択	正長 清志・平田 睦美							
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。									○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。									○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。									○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。									○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。									○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。									○	
概 要		保育実習生としての基本的態度の形成、実習に必要な事前の準備や学習について、演習形式で行う。									
到達目標		(1) 実習生としての基本的態度や心構えを身に付ける。 (2) 保育実習の意義と目的を理解し、実習に必要な準備を行うことができる。 (3) 子どもや利用者の方々の人権とプライバシーの保護及び守秘義務について理解するとともに、保育現場の見学・観察を通して、子どもや利用者の方々への理解を深めることができる。 (4) 保育の計画・実践・観察・記録の方法を理解する。 (5) 実習での学びを通して、今後の課題を明確にすることができる。									
授業内容 と 進め方		回	授業内容			予習内容		予習時間	復習内容		復習時間
		1	保育士の仕事について 正長・平田			保育士の仕事について考えておく。		2 時間	保育実習について配布した資料を読み、保育士の仕事について要点をまとめる。		2 時間
		2	保育実習の意義と目的、実習概要 正長・平田			保育実習の手引き第 1 章保育実習の意義と目的を読んでくる。		2 時間	保育実習の意義と目的についてまとめる。		2 時間
		3	保育実践の模擬 手遊び・絵本・壁面制作 正長・平田			折り紙の練習をする。		2 時間	授業で経験した折り紙や手遊びを復習する。		2 時間
		4	保育者に必要な言葉表現 正長・平田			壁面制作の準備をする。		2 時間	保育者に必要な言葉表現を振り返りシートに基づきまとめる。		2 時間

5	保育者としての基本的態度（服装・行動） 正長・平田	保育実習の手引き第1章第2章を読み保育者の服装や行動について考えておく。	2時間	保育者としての基本的態度について振り返りシートをまとめる。	2時間
6	保育者としての基本的態度（子どもへの関わり方） 正長・平田	保育実習の手引き第3章を読み、子どもへのかかわり方について考えておく。	2時間	保育者としての基本的態度について振り返りシートをまとめる。	2時間
7	プライバシーの保護及び守秘義務 正長・平田	保育実習の手引き第4章を読み、守秘義務について理解しておく。	2時間	授業で学んだことを振り返りシートでまとめる。	2時間
8	保育教材の制作① 正長・平田	保育教材制作の準備	2時間	保育教材の制作	2時間
9	保育教材の制作② 正長・平田	保育教材の制作	2時間	保育教材の制作	2時間
10	制作した保育教材の演じ方 正長・平田	保育教材の制作	2時間	保育教材の実演の練習	2時間
11	制作した保育教材の実演の練習 正長・平田	保育教材の実演の練習	2時間	保育教材の実演の練習	2時間
12	絵本の読み聞かせの仕方 正長・平田	絵本を選んでくる。	2時間	絵本の読み聞かせ練習	2時間
13	絵本の読み聞かせ・保育教材の実演の練習 正長・平田	保育教材の実演の練習読み聞かせの練習	2時間	保育教材の実演の練習読み聞かせの練習	2時間
14	絵本の読み聞かせ・保育教材の実演1回目 正長・平田	保育教材の実演の練習読み聞かせの練習	2時間	保育教材の実演の練習読み聞かせの練習	2時間
15	絵本の読み聞かせ・保育教材の実演2回目 正長・平田	保育教材の実演の練習読み聞かせの練習	2時間	実演の振り返り	2時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	実習規定、実習着、実習必要書類の説明 正長・平田	保育実習の手引き第5章第6章を読み、実習について理解する。	2時間	授業内容について振り返りシートでまとめる。	2時間
17	保育観察①子どもの姿 障害者支援施設の概要と実習生の活動 正長・平田	配布資料を読み、障害者支援施設の概要を理解しておく。	2時間	保育観察記録をまとめる。	2時間
18	保育観察②保育のねらい・保育者の援助 児童養護施設の概要と実習生の活動 正長・平田	配布資料を読んで児童養護施設の概要を理解しておく。	2時間	振り返りシートに基づき、保育のねらいと保育者の援助についてまとめる。	2時間

	19	実習日誌配布・実習生プロフィール、証明写真 正長・平田	保育実習の手引き第7章「実習中の留意事項」を読んできく。	2時間	実習日誌の記入	2時間
	20	保育実習日誌の書き方 ①基本的事項 児童発達支援センターの概要と実習生の活動 正長・平田	保育実習の手引き第8章「実習生の活動」を読んできく。	2時間	施設の概要について振り返りシートをまとめる。	2時間
	21	実習日誌の書き方 ②一日を書くとは 保育所見学観察実習の事前オリエンテーションについて 実習先への電話のかけ方 正長・平田	保育実習の手引き第9章「実習日誌・指導案の書き方」を読んできく。	2時間	実習日誌の見本を見て書いてみる。	2時間
	22	部分保育の指導案、保育所実習の先輩の話 正長・平田	部分保育の指導案を考える。	2時間	部分保育の課題レポート	2時間
	23	実習の心得・見学観察実習の事前指導・守秘義務 正長・平田	見学・観察実習日誌を記入する。	2時間	見学・観察実習の心得についてまとめる。	2時間
	24	施設見学観察実習 正長・平田	見学・観察実習に必要な書類や指導案の準備をしておく。	2時間	見学観察レポート	2時間
	25	保育実習Ⅰ（施設）日誌の記入 実習生調書・誓約書の記入 事前オリエンテーションについて 正長・平田	保育実習の手引きを読み、施設実習の意義を理解しておく。	2時間	実習生調書・誓約書、実習日誌の記入	2時間
	26	保育実習日誌の書き方・お礼状の書き方 正長・平田	事前配布資料を読んできく。	2時間	保育所見学観察実習のお礼状作成	2時間
	27	保育実習Ⅰ（施設）のねらい 「実習にあたって」の書き方 正長・平田	施設実習における自分の目的を考えておく。	2時間	「実習にあたって」下書きの作成	2時間
	28	保育実習Ⅰ（施設）の心得・日誌指導 「実習にあたって」の記入 正長・平田	保育実習の手引きの実習の心得を読んできく。	2時間	実習日誌の記入	2時間
	29	保育実習Ⅰ（施設）の先輩の話 正長・平田	実習について先輩に聞きたいことを考え、まとめる。	2時間	先輩の話を聞いて考えたことを記述する	2時間
	30	保育実習Ⅰ（施設）の心得・手続き確認・事前指導 正長・平田	施設実習に必要な書類や指導案の準備をする。	2時間	レクリエーションの指導案・教材準備	2時間
成績評価		課題・レポート（25%）、指導案（10%）、授業への取り組み（30%）、その他（35%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		レポートはコメントをつけてお返しします。				

テキストおよび 参 考 文 献	テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学
メ ッ セ ー ジ な ど	・ 保育実習の事前事後指導にあたる科目であり、保育実習を受ける学生は必ず受講しなければならない。12 月中に 2 日間の保育所見学観察実習あり。 ・ 提出物の期限が守られない場合、実習を受けられなくなるので注意をすること。 ・ 保育士証：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 実習生としての基本的態度や心構えを身に付ける。	実習への意欲があり、あいさつ、礼儀、言葉遣い、服装等が完璧で、他の学生の模範となる。	実習への意欲があり、礼儀、言葉遣い、服装等、実習生に必要な態度を身につけている。	実習への意欲はあり、実習生としての最低限のマナーは身につけている。	実習への意欲がなく、実習生にふさわしい言葉遣いや服装、礼儀等が身につけていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解)	30%
(2) 保育実習の意義と目的を理解し、実習に必要な準備を行うことができる。	保育実習の意義目的を正しく理解し、実習に必要な書類の作成や名札制作を完璧に行う。	保育実習の意義や目的をほぼ理解し、期限内に書類の提出や名札制作ができる。	実習に必要な書類や名札制作はできるが、提出の遅れがみられる。	実習に必要な書類の提出や名札制作ができていない。	その他 (理解・技能)	20%
(3) 子どもや利用者の方々の人権とプライバシーの保護及び守秘義務について理解するとともに、保育現場の見学・観察を通して、子どもや利用者の方々への理解を深めることができる。	子どもや利用者に積極的に関わり、子どもや利用者から学び考えを深めたことを記述することができる。	子どもや利用者に関わり、理解したことを書くことができる。	子どもや利用者の姿を日誌に記述しているが、観察のポイントをつかんだ記述にはなっていない。	子どもや利用者をどのように理解したかということが、記述から読み取れない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
	子どもや利用者に積極的に関わり、子どもや利用者から学び考えを深めたことを記述することができる。	子どもや利用者に関わり、理解したことを書くことができる。	子どもや利用者の姿を日誌に記述しているが、観察のポイントをつかんだ記述にはなっていない。	子どもや利用者をどのように理解したかということが、記述から読み取れない。	その他 (思考力・判断力・表現力)	15%
(4) 保育の計画・実践・観察・記録の方法を理解する。	部分保育の計画・実践・記録・反省までの過程を詳しく書くことができる。	部分保育の計画・実践・記録・反省までの過程をほぼ抜けなく書くことができる。	部分保育の計画・実践・記録・反省までを書いているが、いくつか抜けた箇所がある。	部分保育の計画・実践・記録・反省までの過程を書いていない。	指導案 (思考力・表現力)	10%
(5) 実習での学びを通して、今後の課題を明確にすることができる。	施設実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、自分で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	施設実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
保育実習Ⅰ Practical Training in Nursery School Ⅰ		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCP1002	1 年次 ・ 2 年次	1 年次後 期集中・ 2 年次前 期集中
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
実習	4	選択	正長 清志・平田 睦美			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	保育所や社会福祉施設（居住型施設）で実習を行い、子どもや利用者への理解を深めるとともに、施設の役割と機能、保育士の職務内容を理解する。					
到達目標	(1) 保育所・施設の役割を理解することができる。 (2) 観察や関わりを通して子どもや利用者への理解を深めることができる。 (3) 指導計画・援助計画を理解することができる。 (4) 子ども・利用者に対する援助・支援について理解することができる。 (5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。 (6) 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。					
授業内容 と 進め方	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
	○10 日間の実習で、次の内容を身につけることができるように実習をすすめていくこと。 ・実習施設について理解する。 ・施設の一日の流れを理解し、援助活動に参加する。 ・観察や関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。 ・援助計画を理解する。 ・生活の援助の一部を担当し援助の技術を習得する。	実習が開始するまでに、実習日誌の必要事項（実習生プロフィール、実習園の概要、実習園の環境、実習クラスの概要、デイリープログラム）を書いておく。 施設の役割、どのような方を対象としているのかを調べておく。 保育教材の作成を行い、練習しておく。		毎日、実習日誌を書く。 一日の実習を通して学んだこと、考えたことをまとめる。それをもとに翌日の実習のねらいを考える。 実習日誌は翌朝、必ず施設に提出すること。 レクリエーションや設定保育を実施した後、振り返りを行い、考察を深める。 10 日間が終了した日に「実習を終えて」を		

	・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭、地域社会を理解する。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士の職業倫理を学ぶ。 ・安全対策、健康管理及び疾病予防への配慮を学ぶ。	レクリエーションや設定保育を担当する場合、教材や指導案作成し、実践の練習をしておく。 ※予習時間は1～2時間		書く。 ※復習時間は2～3時間	
授業内容 と 進め方	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	○10日間の実習で、次の内容を身につけることができるように実習をすすめていくこと。 ・実習園について理解する。 ・保育の一日の流れを理解し、保育活動に参加する。 ・子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。 ・保育計画、指導計画を理解する。 ・担当クラスで生活や遊びに関する保育活動を実践し、保育技術を習得する。 ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭、地域社会を理解する。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士の倫理を学ぶ。 ・安全及び疾病予防への配慮について学ぶ。	実習が開始するまでに、実習日誌の必要事項（実習生プロフィール、実習園の概要、実習園の環境、実習クラスの概要、デイリープログラム）を書いておく。 手遊びの練習、ピアノの練習、絵本の読み聞かせの練習をしておく。 パネルシアター等の保育教材の作成を行い、練習しておく。 設定保育及び一日責任実習の指導案を作成し、保育実践の練習をしておく。 ※予習時間は1～2時間		毎日、実習日誌を書く。 一日の実習を通して学んだこと、考えたことをまとめる。それをもとに翌日の実習のねらいを考える。 実習日誌は翌朝、必ず園に提出すること。 設定保育や責任実習を実施した後、振り返りを行い、考察を深める。 10日間が終了した日に「実習を終えて」を書く。 ※復習時間は2～3時間	

成 績 評 価	課題・レポート（20%）、その他（80%）
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法	実習先からの評価のフィードバックを行う。実習日誌は返却する。
テキストおよび 参 考 文 献	テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学
メ ッ セ ー ジ な	保育士証：必修科目 ※実習時期 1年次2月・3月：施設 2年次7月：保育所 ※実習先 施設・保育所、ともに学校が指定する。 ※実習先で事前オリエンテーションを受ける必要がある。 ※検便、インフルエンザ予防接種、麻疹・風疹抗体証明書等が必要である。

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育所・施設の役割を理解することができる。	たいへんよく理解している。	よく理解している。	最低限の理解はしている。	理解していない。	その他 (関心・意欲・知識・理解・思考力)	10%
(2) 観察や関わりを通して子どもや利用者への理解を深めることができる。	たいへんよく理解を深めている。	よく理解を深めている。	理解はしているが、深まてはいない。	理解していない。	その他 (関心・意欲・知識・理解・思考力)	10%
(3) 指導計画・援助計画を理解することができる。	たいへんよく理解している。	よく理解している。	最低限の理解はしている。	理解していない。	その他 (関心・意欲・知識・理解・思考力)	10%
(4) 子ども・利用者に対する援助・支援について理解することができる。	たいへんよく理解している。	よく理解している。	最低限の理解はしている。	理解していない。	その他 (関心・意欲・知識・理解・思考力)	10%
(5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。	用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がほぼなく、丁寧に書いている。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。	用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。	その他 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	40%
(6) 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。	事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。	事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
保育実習指導Ⅱ Study of Practical Training of Nursing Ⅱ		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCP2003	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	平田 睦美			○
実務家教員 の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関 係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	保育実習Ⅰでの学びを深め、保育士としての実践力を養うために、子ども理解、指導計画の立案、保育実践について演習形式で授業を行う。					
到達目標	(1)子どもの発達に応じた保育内容を考え、指導計画を作成することができる。 (2) 保育の知識、技術をいかした保育実践ができる。 (3) 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。 (4) 保育士の専門性と職業倫理について説明できる。 (5) 事後指導を通して、保育に関する新たな課題を見出すことができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	実習の意義と目的、実習概要の説明、保育所実習の手続き	保育実習の手引きを読み、実習の意義と目的を考えておく。	2 時間	授業を振り返り、実習の意義と目的についてまとめる。	2 時間
	2	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	子どもの最善の利益とは何かを考えておく。	2 時間	復習プリントで、子どもの最善の利益を考慮した保育についてまとめる。	2 時間
	3	子どもの保育と保護者支援、実習日誌の書き方、実習生調書・実習誓約書の記入	保護者の支援について大切なことを考えておく。	2 時間	実習生調書、実習誓約書の記入	2 時間
	4	子どもの状態に応じた適切な関わり	子どもの状態に応じた保育とはどのようなことか考えておく。	2 時間	実習生プロフィールの記入	2 時間

	5	保育の知識・技術を活かした保育実践	実践したい保育について考えておく。	2 時間	指導案作成	2 時間
	6	保育の全体計画に基づく具体的なねらいと内容の設定・指導計画の立案	指導案作成	2 時間	指導案作成	2 時間
	7	環境構成、保育教材の作成	教材作成	2 時間	教材作成	2 時間
	8	模擬保育の実践 ― 集団と個に応じた保育者の援助の検討 ―	模擬保育の練習	2 時間	模擬保育の練習	2 時間
	9	模擬保育の実践 ― 導入、展開、まとめの工夫 ―	模擬保育の練習	2 時間	模擬保育の実践後レポート	2 時間
	10	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善、実習に関する連絡・手続き	保育実践自己評価	2 時間	指導案の修正	2 時間
	11	実習先に提出する書類の確認・日誌の確認	実習日誌の記入	2 時間	実習日誌の記入	2 時間
	12	実習にあたって（各自のねらいの明確化）、実習に関する諸連絡	実習課題を考えてくる	2 時間	実習にあたっての記入	2 時間
	13	実習事前調査、実習の手続き確認	実習日誌の記入	2 時間	実習事前準備	2 時間
	14	保育士の専門性と職業倫理	保育士の職業倫理についてまとめておく	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	保育実習Ⅱを終えて（実習の総括・自己評価・新たな課題の明確化）	実習の振り返り	2 時間	実習事後レポート	2 時間
成 績 評 価	課題・レポート（40%）、指導案（30%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	模擬保育の指導案と実践後のレポートは、コメントを記入して返却する。					
テキストおよび参考文献	テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学					
メ ッ セ ー ジ な ど	・ 保育実習の事前事後指導にあたる科目であり、2022 年 8 月に保育実習Ⅱを受ける学生は必ず受講しなければならない。 ・ 提出物の期限が守られない場合、実習を受けられなくなるので注意をすること ・ 保育士証：選択必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもの発達に応じた保育内容を考え、指導計画を作成することができる。	子どもの発達に応じた保育内容を自分で考え、指導案を作成することができる。	ほぼ子どもの発達に沿った保育内容を考え、指導案を作成することができる。	指導案の作成方法は理解できているが、作成した指導案は、子どもの発達に即していない。	子どもの発達に応じた保育内容を自分で考え、指導案が作成できない。	指導案 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	30%
(2) 保育の知識、技術をいかした保育実践ができる。	保育の知識・技術を活かした模擬保育が実践できる。	保育の知識、技術の基本をほぼ踏まえた模擬保育が実践できる。	保育の知識、技術には不足しているところがあるが、模擬保育は実践した。	模擬保育を実践していない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (判断力・表現力・創造性・協働性・問題解決力)	30%
(3) 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに保育の改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育観察、記録、自己評価を総合し、改善点を見出そうと努力したことを述べるができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができ、それを述べるができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%
(4) 保育士の専門性と職業倫理について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%
(5) 事後指導を通して、保育に関する新たな課題を見出すことができる。	事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。	事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
保育実習Ⅱ Practical Training in Nursery School Ⅱ		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCP2004	2 年次	前期 集中
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
実習	2	選択	平田 睦美			○
実務家教員 の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	保育実習Ⅰでの学びをさらに深め、保育士としての実践力を高めるため保育所で 10 日間の実習を行う。指導計画の作成と保育実践、記録と省察、自己評価及び計画の改善までの過程を実践的に学ぶ。					
到達目標	(1) 保育所の役割を理解することができる。 (2) 子どもへの理解を深めることができる。 (3) 指導計画を作成することができる。 (4) 子どもに対する指導・援助の技術を身に付けている。 (5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。 (6) 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。					
授業内容 と 進め方	授業内容					
	○10 日間の実習で、次の内容を身につけることができるように実習をすすめていくこと。 ・保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ・子どもの個人差について理解し、対応方法を理解する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 ・指導計画を立案し、実際に保育活動を行い、子どもへのかかわりや保育技術を高める。 ・子どもと家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する。 ・地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 ・子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 ・保育士としての職業倫理を理解する。 ・保育所の保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。					
成 績 評 価	課題・レポート（20%）、その他（80%）					
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法	実習先からの評価のフィードバックを行う。実習日誌は返却する。					

テキストおよび 参 考 文 献	テキストとして配布：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学
メ ッ セ ー ジ な ど	・保育実習Ⅱの前に、保育実習Ⅰ（施設・保育所）を受けなければならない。 ・保育士証：選択必修科目 ※実習時期及び日数 2年次8月 10日間 ※実習先 各自が依頼した保育所 ※実習前に事前オリエンテーションを受ける必要がある。 ※実習先に、検便、麻疹・風疹抗体検査証明書の提出が必要である。

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 保育所の役割を理解することができる。	保育所の役割を十分に理解することができる。	保育所の役割を概ね理解することができる。	保育所の役割を最低限、理解することができる。	保育所の役割を理解することができない。	その他 （関心・意欲・知識・理解・思考力）	10%
(2) 子どもへの理解を深めることができる。	子どもへの理解を十分に深めることができる。	子どもへの理解を概ね深めることができる。	子どもへの理解を最低限、深めることができる。	子どもへの理解を深めることができない。	その他 （関心・意欲・知識・理解・思考力）	10%
(3) 指導計画を作成することができる。	指導計画を十分に作成することができる。	指導計画を概ね作成することができる。	指導計画を最低限、作成することができる。	指導計画を作成することができない。	その他 （関心・意欲・知識・理解・思考力）	10%
(4) 子どもに対する指導・援助の技術を身に付けている。	子どもに対する指導・援助の技術を十分に身に付けている。	子どもに対する指導・援助の技術を概ね身に付けている。	子どもに対する指導・援助の技術を最低限、身に付けている。	子どもに対する指導・援助の技術を身に付けていない。	その他 （関心・意欲・知識・理解・思考力）	10%
(5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。	用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がほぼなく、丁寧に書いている。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。	用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。	その他 （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	40%
(6) 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。	職務内容や職業倫理を十分に理解し、保育が実践できる。	職務内容や職業倫理をほぼ理解し、保育が実践できる。	職務内容や職業倫理の最低限の知識をもとに保育を実践できる。	職務内容や職業倫理を理解していない。	課題・レポート （思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
保育実習指導Ⅲ Study of Practical Training of Nursing Ⅲ		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCP2005		2 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員
演習	1	選択	中津 愛子				
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○
概 要	保育実習Ⅰでの学びをさらに深め、保育士としての実践力を養い、施設実習に向けた事前学習や実習後の反省について、演習形式で行う。						
到達目標	(1)子どもや利用者の特性に応じた保育内容を考え、援助計画を作成することができる。 (2) 保育の知識、技術をいかした保育実践ができる。 (3) 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。 (4) 保育士の職業倫理について説明できる。 (5) 事後指導を通して、保育に関する新たな課題を見出すことができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	実習の意義と目的、実習概要の説明、実習の手続きについて		実習の意義と目的、保育実習のしくみをおさえる	2 時間	保育実習□（施設）の振り返り	2 時間
	2	子どもの最善の利益を考慮した施設保育の具体的理解		子どもの最善の利益とは何かを調べる	2 時間	児童福祉施設の種類と役割をまとめる	2 時間
	3	実習日誌の書き方、実習生プロフィール、実習誓約書の記入		保育実習Ⅰ（施設）の日誌の記入の振り返り	2 時間	実習生プロフィール、実習誓約書の記入	2 時間
	4	実習施設の理解		実習先施設の種別、役割を調べる	2 時間	実習施設の種類、役割、沿革をまとめる	2 時間
	5	施設における支援の具体的内容		利用者に応じた具体的な支援内容を理解する	2 時間	施設職員の役割と業務内容をまとめる	2 時間
	6	保育士とソーシャルワーク		ソーシャルワークとは何かを調べる	2 時間	施設における保育士の役割をまとめる	2 時間

	7	施設における保育実践	施設種別に応じた活動内容を考える	2時間	具体的な活動の指導案作成	2時間
	8	施設における保育実践	活動に応じた教材の準備をする	2時間	教材作成	2時間
	9	施設における保育実践	保育実践のために導入、展開、まとめを考える	2時間	模擬保育の練習	2時間
	10	実習に関する連絡・手続き	模擬保育の実践の自己評価	2時間	指導案の修正	2時間
	11	実習先に提出する書類の確認・日誌の確認	実習生プロフィールと実習施設の概要の記入	2時間	実習日誌の書き方のポイントを整理する	2時間
	12	保育実習Ⅲの事前指導（実習課題の明確化）、実習に関する諸連絡	実習課題を考える	2時間	実習にあたっての記入	2時間
	13	実習事前調査、保育実習Ⅲの手続き確認	オリエンテーション日誌の記入	2時間	実習先提出書類、必要なものの確認と準備	2時間
	14	保育実習Ⅲ事前面談	実習の事前に指導を受けたい内容を考える	2時間	実習の心得をまとめる	2時間
	15	保育実習Ⅲの事後指導（実習後の反省・考察）	保育実習Ⅲのふりかえり	2時間	実習事後レポート	2時間
成績評価		課題・レポート（40%）、指導案（30%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		模擬保育の指導案とレポートは、コメントを記入して返却する。				
テキストおよび参考文献		テキスト：「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学				
メッセージなど		・保育実習Ⅲ（施設）の事前事後指導にあたる科目であり、保育実習Ⅲを受ける学生は必ず受講しなければならない。 ・提出物の期限が守られない場合、実習を受けられなくなるので注意すること。 ・保育士証：選択必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもや利用者の特性に応じた保育内容を考え、援助計画を作成することができる。	ほぼ完璧な指導案を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導案を作成できる。	誤字・脱字があるが、最低限の基本を踏まえた指導案を作成できる。	作成できていない。	指導案 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	30%
(2) 保育の知識、技術をいかした保育実践ができる。	保育の知識・技術を活かした模擬保育が実践できる。	保育の知識、技術の基本をほぼ踏まえた模擬保育が実践できる。	保育の知識、技術には不足しているところがあるが、模擬保育は実践した。	模擬保育を実践していない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (思考力・判断力・表現力・創造性・協働性)	30%
(3) 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに保育の改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育観察、記録、自己評価を総合し、改善点を見出そうと努力したことを述べるができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができる。	保育観察、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%
(4) 保育士の職業倫理について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%
(5) 事後指導を通して、保育に関する新たな課題を見出すことができる。	事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。	事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
保育実習Ⅲ Practical Training in Nursery School Ⅲ			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCP2006	2 年次	前期 (集中)
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員				実務家 教員
実習	2	選択	中津 愛子				
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○
概 要	保育実習での学びをさらに深め、保育士としての実践力を高めるために、児童福祉施設等で 10 日間の実習を行う。						
到達目標	(1) 施設の役割を理解することができる。 (2) 子どもや利用者への理解を深めることができる。 (3) 指導計画・援助計画を作成することができる。 (4) 子ども・利用者に対する援助・支援の技術を身に付けている。 (5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。 (6) 実習を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。						
授業内容 と 進め方	授業内容						
	・養護全般に参加し、養護技術を学ぶ。 ・子どもの発達の個人差に応じた援助や生活環境にともなう子どものニーズに即した援助の実践を学ぶ。 ・援助計画を立案し、実践する。 ・子どもの家族とのコミュニケーションの方法を学ぶ。 ・地域における他の施設の役割を理解し、連携の方法について学ぶ。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士の職業倫理を理解する。 ・児童福祉施設等の保育士に求められる資質や知識、技能に照らし合わせて自己の課題を明確にする。 ※実習時期 2 年次 8 月に社会福祉施設での実習を 10 日間（通勤の場合は 12 日間）行う。 ※実習先 各自が依頼した施設。 居住型施設のほかに、社会福祉施設諸法令に基づき設置される施設も含まれる。 ※その他 実習先で事前オリエンテーションを受ける必要がある。事前準備として、検便、麻疹・風疹抗体検査が必要である。						
成 績 評 価	課題・レポート（20%）、その他（80%）						
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	レポートはコメントを記入し返却します。 実践はその都度コメントします。 準備段階での質問等には、その都度相談に応じます。						
テキストおよび 参 考 文 献	「保育（保育所・施設）実習の手引き」山口短期大学						

メ ッ セ ー ジ な	・保育実習Ⅰ（施設・保育所）を終えた後に施設での実習を希望する学生が受講する。 ・保育士証：選択必修科目 ※実習時期及び日数 2年次8月 10日間 ※実習先 各自が依頼した保育所 ※実習前に事前オリエンテーションを受ける必要がある。 ※実習先に、検便、麻疹・風疹抗体検査証明書の提出が必要である。
----------------------------	--

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 施設の役割を理解することができる。	施設の役割を十分に理解することができる。	施設の役割を概ね理解することができる。	施設の役割を最低限、理解することができる。	施設の役割を理解することができない。	その他 (関心・意欲・知識・理解・思考力)	10%
(2) 子どもや利用者への理解を深めることができる。	子どもや利用者への理解を十分に深めることができる。	子どもや利用者への理解を概ね深めることができる。	子どもや利用者への理解を最低限、深めることができる。	子どもや利用者への理解を深めることができない。	その他 (関心・意欲・知識・理解・思考力)	10%
(3) 指導計画・援助計画を作成することができる。	指導計画・援助計画を十分に作成することができる。	指導計画・援助計画を概ね作成することができる。	指導計画・援助計画を最低限、作成することができる。	指導計画・援助計画を作成することができない。	その他 (関心・意欲・知識・理解・思考力)	10%
(4) 子ども・利用者に対する援助・支援の技術を身に付けている。	対象にあわせた援助・支援の技術を十分に身に付けている。	対象にあわせた援助・支援の技術を概ね身に付けている。	対象にあわせた最低限の援助・支援の技術を身に付けている。	対象にあわせた援助・支援の技術を身に付けていない。	その他 (関心・意欲・知識・理解・思考力)	10%
(5) 実習日誌の書式に従い、日誌を書くことができる。	用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。	用語の使用や表現の誤り、誤字・脱字がほぼなく、丁寧に書いている。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。	用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。	その他 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	40%
(6) 実習を振り返り、自分の課題を明確にすることができる。	事後指導をもとに、自分で新たな課題を見出し、レポートにまとめることができる。	事後指導をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見いだせず、レポートが提出されない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
子どもの保健 Child Health		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECUI1001	1 年次	前期
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	瀧 伸子			○
実務家教員 の詳細	看護師としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	専門職として子どもに関わるには、保健に関する知識と実践が必要であり、子どもの健康を守り、健康を増進する積極的な活動が、求められる。その為には、各発達段階における子どもの健全な心身の発育、発達過程を習得することが必須となる。また、今日の子どもを取り巻く環境を踏まえ、健康問題や課題について学ぶと共に、家庭、専門機関、地域との連携についても学ぶ。					
到達目標	(1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について述べる事が出来る。 (2) 子どもの身体発育、生理機能、運動機能、及び精神機能の発達について具体的に述べる事が出来る。 (3) 子どもの健康状態について気付く視点を学び、その対応と対策、予防について述べる事が出来る。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション（学習の目的・意義について） 1．子どもの健康と保健の意義 1－1．子どもの健康と子どもを取巻く環境	テキストの 1 －1 を読む	2 時間	1－1 の学びの 振り返り	2 時間
	2	1－2．子どもの健康と健康指標、	テキストの 2 を読む	2 時間	1－2 の学びの 振り返り	2 時間
	3	1－3．子どもを取巻く環境.地域 社会と保育所	テキストの 3 を読む	2 時間	1－3 の学びの 振り返り	2 時間
	4	2－1．身体の発育	テキストの 2 －1 を読む	2 時間	2－1 の学びの 振り返り	2 時間
	5	2－2．子どもの発達	テキストの 2 －2 を読む	2 時間	2－2 の学びの 振り返り	2 時間
	6	2－3．生理機能の特徴 （体温、睡眠、消化、歯）	テキストの 2 －3 を読む	2 時間	2－3 の学びの 振り返り	2 時間
	7	3－1．子どもの健康状態の把握 （子どもの健康状態の見方）	テキストの 3 －1 を読む	2 時間	3－1 の学びの 振り返り	2 時間

	8	3－2. 体調の良くない子どもへの対応	テキストの 3－2 を読む	2 時間	3－2 の学びの振り返り	2 時間
	9	3－3. 発育と発達の評価とその診断基準	テキストの 3－3 を読む	2 時間	3－3 の学びの振り返り	2 時間
	10	3－4. 保護者との情報共有とその方法	テキストの 3－4 を読む	2 時間	3－4 の学びの振り返り	2 時間
	11	4－1. 子どもの病気の予防と適切な対応（主な病気の特徴と対応、予防について）	テキストの 4－1 を読む	2 時間	4－1 の学びの振り返り	2 時間
	12	4－2. 保育所でよく見かける病気（呼吸器、耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科、整形外科等）	テキストの 4－2 を読む	2 時間	4－2 の学びの振り返り	2 時間
	13	4－2. 保育所でよく見かける病気（感染症）	テキストの 4－2 を読む	2 時間	4－2 の学びの振り返り	2 時間
	14	4－3. 予防できる疾患に対する対策（予防接種、ワクチン等）	テキストの 4－3 を読む	2 時間	4－3 の学びの振り返り	2 時間
	15	まとめ	テキストを一通り見直す	2 時間	学び全体の振り返り	2 時間
成 績 評 価		定期試験（80%）、課題・レポート（20%）				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		毎回のミニレポート・課題レポートは、必要に応じ返却時に解説をします。定期試験の内容に関して、講義の内容を再確認できるものとなっています。				
テキストおよび参考文献		テキスト：「保育者のためのわかりやすい 子どもの保健」飯島一誠監修 総合医学社 参考文献：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 配布資料				
メ ッ セ ー ジ		子どもの心と体の健康を育むことは、保育の原点です。なるべくニュース、統計等を目を向け、子どもを取り巻く環境や子どもの命について向き合っていきましょう。必ず、復習をして、知識の確認をしていきましょう。 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について述べる事が出来る。	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	定期試験 (知識・理解)	20%
	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	5%
(2) 子どもの身体発育、生理機能、運動機能、及び精神機能の発達について具体的に述べる事が出来る。	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	定期試験 (知識・理解)	30%
	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	5%
(3) 子どもの健康状態について気付く視点を学び、その対応と対策、予防について述べる事が出来る。	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	定期試験 (知識・理解)	30%
	幅広い視点から総合的に考えられ、ほぼ完璧に述べる事が出来る	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別		
子どもの健康と安全 Child Health and Safety			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM1004		1 年次		後期		
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担 当 教 員					実務家教員		
演習		1	選択	瀧 伸子					○		
実務家教員の詳細		看護師としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。									
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係		(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。							○		
		(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。									
		(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。									
		(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。							○		
		(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。									
		(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。							○		
概 要		「子どもの保健」で学んだことを基礎に、保育現場で出会う子どもの病気や事故について理解し、予防や対策について学ぶ。また、子どもに関連する法律を踏まえ、健康障害の有無に拘わらず、その子どもに合った保健的対応について学ぶと共に、保育者としての責任や役割を学ぶ。									
到達目標		(1) 子どもによくみられる病気や感染症について理解し、その予防や対策、適切な対応について述べることができる。 (2) 子どもに起こりうる事故やその原因を理解し、その予防や対策、適切な対応について述べる事が出来る。 (3) 保育現場における子どもの心身の健康や衛生管理、安全管理について理解し、説明することが出来る。 (4) 子どもの成長に関する法律と、その関連性について述べる事が出来る。									
授業内容と進め方											
		回	授業内容			予習内容		予習時間	復習内容		復習時間
		1	オリエンテーション (子どもの健康と安全) 保育環境 等			テキスト 1 を読む		2 時間	1 の学びの振り返り		2 時間
		2	保育における健康安全管理の実践 (保育現場での衛生管理、事故防止と安全対策 等)			テキスト 2 を読む		2 時間	2 の学びの振り返り		2 時間
		3	保育における健康安全管理の実践 (災害への備えと危機管理)			テキスト 3 を読む		2 時間	3 の学びの振り返り		2 時間
		4	子どもの体調不良などへの対応 (子どもの主な症状への対応、応急処置)			テキスト 4 を読む		2 時間	4 の学びの振り返り		2 時間
		5	子どもの体調不良などへの対応 (救急処置および救急蘇生法、子どもと薬)			テキスト 5 を読む		2 時間	5 の学びの振り返り		2 時間

	6	感染症の予防と対策 (感染症の集団発生の予防、感染症対策)	テキスト 6 を 読む	2 時間	6 の学びの 振り返り	2 時間
	7	保育所における保健的対応 (3 歳未満児への対応)	テキスト 7 を 読む	2 時間	7 の学びの 振り返り	2 時間
	8	保育所における保健的対応 (個別な配慮を必要とする子どもへの対応)	テキスト 8 を 読む	2 時間	8 の学びの 振り返り	2 時間
	9	保育所における保健的対応 (障害がある子どもへの対応)	テキスト 9 を 読む	2 時間	9 の学びの 振り返り	2 時間
	10	健康、安全への取り組み (職員の連携と組織的取組、子どもの 健康づくりへの取り組み)	テキスト 10 を読む	2 時間	10 の学びの 振り返り	2 時間
	11	母子に関する法律 (母子保健法、児童福祉法、児童虐待 の防止等に関する法律)	テキスト 11 を読む	2 時間	11 の学びの 振り返り	2 時間
	12	法律に関する事業の実際 (母子保健福祉事業の実、21 世紀の 母子保健福祉)	テキスト 12 を読む	2 時間	12 の学びの 振り返り	2 時間
	13	法律に関する事業の実際 (児童虐待防止法の実際)	テキスト 13 を読む	2 時間	13 の学びの 振り返り	2 時間
	14	子育て支援のためのネットワーク (施設を中心とした地域活動と住民 による子育て支援活動)	テキスト 14 を読む	2 時間	14 学びの振 り返り	2 時間
	15	まとめ	テキスト全体 を見直す	2 時間	学び全体の 振り返り	2 時間
成 績 評 価		定期試験 (80%)、課題・レポート (20%)				
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法		毎回のミニレポート・課題レポートは、必要に応じ返却時に解説をします。 定期試験の内容に関して、講義の内容を再確認できるものとなっています。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：「保護者のためのわかりやすい子どもの保健」飯島一誠監修 総合医学社 参考文献：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所 保育指針」 配布資料				
メ ッ セ ー ジ な ど		前期「子どもの保健Ⅰ」で習ったことをよく復習し、授業に臨んで下さい。 子どもに関わるニュース等から、現状を考える姿勢を養っていきましょう。 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもによくみられる病気や感染症について理解し、その予防や対策、適切な対応について述べることができる。	ほぼ完璧に述べることができる。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	定期試験 (知識・理解)	25%
	ほぼ完璧に述べることができる。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	5%
(2) 子どもに起こりうる事故やその原因を理解し、その予防や対策、適切な対応について述べる事が出来る。	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	定期試験 (知識・理解)	25%
	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	5%
(3) 保育現場における子どもの心身の健康や衛生管理、安全管理について理解し、説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる	大きな間違いがなく、基本的なことは説明出来ている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は説明出来ている。	殆ど説明出来ていない。	定期試験 (知識・理解)	20%
	ほぼ完璧に説明することができる	大きな間違いがなく、基本的なことは説明出来ている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は説明出来ている。	殆ど説明出来ていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	5%
(4) 子どもの成長に関する法律と、その関連性について述べる事が出来る。	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本は述べている。	殆ど述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力)	5%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
子どもの疾病と保健 Child Disease and Health			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECUI2002	2 年次	前期	
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員				実務家教員	
講義	2	選択	瀧 伸子				○	
実務家教員の詳細	看護師としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。							
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○	
概 要	子どもを健康で安全に保育するという保育所保育指針を踏まえて、子どもの発育・発達状況や健康状態を把握し、積極的に健康の保持増進を図り、疾病や事故の予防・対処に向けての視点を養う。その為には、「子どもの保健」で習得した知識を基礎に、保育実践に必要な保健活動について学び、子どもの疾病と保健についての基本的な援助能力を養うことを目的とする。							
到達目標	(1) 子どもと健康の意義を理解し、地域及び保育の場における保健活動の内容について述べる事が出来る。 (2) 子どもを取り巻く環境、子どもの心とからだの健康課題を考察し、発達段階に応じた保健活動が展開できる為の基本について述べる事が出来る。 (3) 子どもの健康について、その個別性を理解し、疾病の適切な対応・事故防止など健康安全教育と管理のあり方や方法について自分の考えを述べる事が出来る。							
授業内容と進め方	回	授業内容			予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	保健活動の計画と評価 (保育における保健活動)			テキスト 1 を読む	2 時間	1の学びの振り返り	2 時間
	2	保健計画の作成と活用、保健活動の記録と自己評価			テキスト 2 を読む	2 時間	2の学びの振り返り	2 時間
	3	子どもの保健に関する個別対応と子どもの集団全体の健康と安全・衛生管理			テキスト 3 を読む	2 時間	3の学びの振り返り	2 時間
	4	子どもの保健と環境 (保健における養護と教育の一体性)			テキスト 4 を読む	2 時間	4の学びの振り返り	2 時間
	5	子どもの健康増進と保育の環境、子どもの生活習慣と心身の健康			テキスト 5 を読む	2 時間	5の学びの振り返り	2 時間
	6	子どもの発達援助と保健活動			テキスト 6 を読む	2 時間	6の学びの振り返り	2 時間

	7	子どもの疾病と適切な対応 (感染症の予防と対策)	テキスト 7 を 読む	2 時間	7 の学びの振 り返り	2 時間
	8	個別的な配慮を必要とする子ども への対応 (熱性痙攣、てんかん他)	テキスト 8 を 読む	2 時間	8 の学びの振 り返り	2 時間
	9	個別的な配慮を必要とする子ども への対応 (乳児の病気、障害のある 子どもへの対応)	テキスト 9 を 読む	2 時間	9 の学びの振 り返り	2 時間
	10	事故防止および健康管理・安全管 理 (組織的取り組み)	テキスト 10 を 読む	2 時間	10 の学びの 振り返り	2 時間
	11	けがや急な病気への対応の基本	テキスト 11 を 読む	2 時間	11 の学びの 振り返り	2 時間
	12	子どもに起きやすい事故の応急処 置	テキスト 12 を 読む	2 時間	12 の学びの 振り返り	2 時間
	13	子どもに起こりやすい症状とケア	テキスト 13 を 読む	2 時間	13 の学びの 振り返り	2 時間
	14	災害への備えと危機管理 (危機管 理、非常災害などへの取り組みの 実際等)	テキスト 14 を 読む	2 時間	14 の学びの 振り返り	2 時間
	15	心とからだの健康問題と地域保健 活動 (子どもの養育環境と心の健 康問題、心とからだの健康づくり と地域保健活動)	テキスト 15 を 読む	2 時間	15 の学びの 振り返り	2 時間
成 績 評 価	定期試験 (70%)、グループワーク・課題・レポート (30%)					
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	毎回のミニレポート・課題レポートは、必要に応じ返却時に解説をします。 定期試験の内容に関して、講義の内容を再確認できるものとなっています。					
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト:「子どもの保健Ⅱ」佐藤益子/中根淳子編著 ななみ書房 参考文献:「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 1 年時使用のテキスト「子どもの保健」「保育所保育指針」 配布資料					
メ ッ セ ー ジ な ど	子どもの保健の成果は実践を通して得られるものである。健康という視点から子ども を取り巻く環境や現状の課題について関心を持つことが重要である。授業前にテキス トの該当箇所を予習して臨んで下さい。 保育士証:選択科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもと健康の意義を理解し、地域及び保育の場における保健活動の内容について述べる事が出来る。	ほぼ完璧に述べている。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて述べている。	内容について、述べていない。	定期試験 (知識・理解)	30%
	ほぼ完璧に述べている。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて述べている。	内容について、述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	10%
(2) 子どもを取り巻く環境、子どもの心とからだの健康課題を考察し、発達段階に応じた保健活動が展開できる為の基本について述べる事が出来る。	ほぼ完璧に述べている。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて述べている。	基本について、述べていない。	定期試験 (知識・理解)	30%
	ほぼ完璧に述べている。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて述べている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて述べている。	基本について、述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	10%
(3) 子どもの健康について、その個別性を理解し、疾病の適切な対応・事故防止など健康安全教育と管理のあり方や方法について自分の考えを述べる事が出来る。	子どもを取巻く現状や課題を見据えて、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子どもを取巻く現状認識や課題の捉え方について、倫理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	子どもを取巻く現状認識や課題の捉え方について、間違いや誤字脱字等はいくつかあるが、最低限、自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	グループワーク発表・プレゼンテーション、(関心・意欲・思考力・協働性・問題解決力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
子どもの食と栄養 Child Dietary Life and Nutrition		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECUI2003	2 年次	通年	
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家教員	
演習	2	必修	高橋 育代				
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要	栄養に関する基礎知識をもとに、子どもの発育・発達と栄養や食生活、疾患への対応食に関して理解する。調乳・離乳食・幼児食の調理演習を実施する。子どもの食生活全般への働きかけや、栄養教育などについて 演習を通して学ぶ。						
到達目標	(1) 子どもの発育・発達に適切な栄養を説明できる。 (2) 調乳・離乳食・幼児食にふさわしい食品と調理形態を学び、実際に活用することができる。 (3) 幼児期食生活上での問題と対応が認識でき、健康な食生活を工夫することができる。						
授業内容と進め方	回	授業内容		予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	子どもの栄養の特徴・重要性		シラバスをみて内容を確認する	2 時間	子どもの食生活についてまとめる	2 時間
	2	栄養に関する基礎知識① ー食品群の理解ー		前時配布 栄養の基礎知識を読んでおく	2 時間	食品群について整理しまとめる	2 時間
	3	栄養に関する基礎知識② ー栄養バランスガイドー		前時配布の栄養バランスについて読んでおく。	2 時間	栄養バランスについて理解し、まとめる	2 時間
	4	栄養に関する基礎知識③ ー栄養素の機能ー		前時配布の栄養素について読み理解する。	2 時間	栄養素の基礎について理解し、生活との関連を考え、まとめる。	2 時間
	5	栄養に関する基礎知識④ ー食事摂取基準の理解ー		食事摂取基準について理解し、自分の必要量を確認しておく	2 時間	摂取基準について実際の食品との関連をまとめる	2 時間
	6	栄養に関する基礎知識⑤ ー消化・吸収・食品の衛生ー		消化器官を確認し、吸収の仕組みを確認する	2 時間	自分の食べたものが体内でどう吸収されるのかまとめる	2 時間

7	妊娠・授乳期の栄養	妊娠期・授乳期の栄養について前時配布のプリントを読んで理解しておく	2 時間	母体の変化に伴う栄養管理についてまとめる	2 時間
8	母乳栄養・乳汁栄養	母乳や人工栄養についてプリントで確認しておく	2 時間	乳児栄養についてプリントの内容を確認しまとめる	2 時間
9	調乳の演習	演習の内容を確認しておく	2 時間	演習の内容をまとめ、人工栄養について理解しまとめる	2 時間
10	離乳の意義と基本	離乳食についてプリントを読み理解する	2 時間	離乳食を始めることの意義を理解し調理演習に向けてまとめる	2 時間
11	調理演習—離乳食	基本的な離乳食について演習プリントを読み理解しておく	2 時間	調理演習の内容をまとめ、実際に一品程度作ってみる	2 時間
12	乳児期の発達と離乳の進め方	離乳食の進め方についてプリントを読み理解する	2 時間	離乳食前期から完了までの献立や作り方についてまとめる	2 時間
13	調理実習—幼児と一緒に作る「おやつ」	幼児食について理解し、簡単なおやつの作り方を理解する	2 時間	調理演習で作ったおやつや簡単にできるものを調べてまとめる	2 時間
14	食育と子育て支援	プリントに示す食育・子育て絵支援について読み、理解しておく。	2 時間	食育についての重要性を知り、自身の生活を振り返りまとめる。	2 時間
15	児童福祉施設における食生活	児童福祉施設について理解し、食生活について知る	2 時間	施設における食について知ったことをまとめる	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	幼児期の食生活	シラバスをみて内容を確認し、幼児期の食生活について理解しておく	2 時間	幼児期の食生活を理解し、問題点をまとめる。	2 時間
17	幼児期食生活上での問題と対応	前時の内容を理解し、問題点とその対応について考える	2 時間	幼児期の食生活の問題点と対応をまとめる	2 時間
18	調理実習 — 幼児食 —	演習プリントを読んで、手順を確認する	2 時間	実習内容を理解し、作ってみる	2 時間

	19	演習 ―子ども達に栄養・食べ物を教える― (1)	ペープサートの内容を考える	2 時間	子どもたちに何を伝えるのか考えたものをまとめる	2 時間
	20	演習 ―子ども達に栄養・食べ物を教える― (2)	ペープサートの製作をする	2 時間	子どもたちが理解しやすいような図案を考える、製作をする	2 時間
	21	演習 ―子ども達に栄養・食べ物を教える― (3)	ペープサートの発表をする	2 時間	子どもたちが楽しみながら、栄養について発表できたか、考えまとめる	2 時間
	22	骨の発達・体の発育	プリントを読んで、骨と体について理解する	2 時間	骨と体についてまとめる	2 時間
	23	問題と対応 ―虫歯と間食― 咀嚼と消化機能 ―箸の正しい持ち方演習―	虫歯の原因を知り、間食について考える。	2 時間	虫歯の原因を知り、予防方法や食事、間食についてまとめる	2 時間
	24	子どもの疾病の特徴と食生活① ―下痢・便秘等と食生活―	子どもの疾病についてプリントを読んで理解する	2 時間	疾病について理解したことをまとめる	2 時間
	25	子どもの疾病の特徴と食生活② ―食物アレルギーと食生活―	子どもの疾病についてプリントを読んで理解する	2 時間	疾病について理解したことをまとめる	2 時間
	26	子どもの疾病の特徴と食生活③ ―糖尿病や生活習慣病と食生活―	子どもの疾病についてプリントを読んで理解する	2 時間	疾病について理解したことをまとめる	2 時間
	27	感染症と食中毒	プリントを読んで感染症・食中毒について理解しておく	2 時間	幼児施設での予防法や対応についてまとめる	2 時間
	28	学童期の食生活	食生活についてプリントを読んで理解する	2 時間	乳児や幼児と比較し学童期の食事についてまとめる	2 時間
	29	栄養教育の実践	食事の重要性について プリントを読んで理解する	2 時間	実際の指導内容などを資料をもとにまとめる	2 時間
	30	献立作成 食生活の問題点	献立についてプリントを読んで、自分の食事を考えてみる	2 時間	献立をたてる事が出来るように、資料をもとに数日分を考える	2 時間
成績評価		定期試験 (40%)、小テスト (20%)、発表・プレゼンテーション (10%)、グループワーク・グループ討議 (30%)				

課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	提出プリント・課題は、評価等を書いて、次時に返却する。 試験は、評価結果を示す。
テキストおよび 参 考 文 献	参考文献：堤ちはる・土井正子編著「子どもの食と栄養（萌文書林）」他、 「八訂食品成分表 2020 年版」他を資料として配布
メ ッ セ ー ジ な ど	子どもの食を知ることにより自分の食生活や健康に役立つ科目です。 保育士証：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 子どもの発 育・発達に適切な 栄養を説明でき る。	ほぼ完璧に説 明ができる。	大きな間違い がなく、基本 を説明できる	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明できる。	説明できてい ない。	定期試験 (知識・理解)	20%
	ほぼ完璧に説 明ができる。	大きな間違い がなく、基本 を説明できる	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明できる。	説明できてい ない。	小テスト (知識・理解)	20%
(2) 調乳・離乳食・ 幼児食にふさわし い食品と調理形態 を学び、実際に活 用することができる。	ほぼ完璧に説 明ができ、活 用することができる。	大きな間違い がなく、基本 を説明でき、 活用できる	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明できる。	説明できてい ない。	定期試験 (知識・意欲・ 理解)	20%
	ほぼ完璧に説 明ができ、活 用することができる。	大きな間違い がなく、基本 を説明でき、 活用できる	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明できる。	説明できてい ない。	グループワ ーク・グルー プ 討議 (知識・意欲・ 理解)	20%
(3) 幼児期食生活 上での問題と対応 が認識でき、健康 な食生活を工夫す ることができる。	幼児期の食生 活についての 問題と対応が認 識でき、自身の 食生活におい て実践すること ができる。	幼児期の食生 活についての 問題と対応が 認識でき、自 身の食生活に おいて実践し ようとするこ とができる。	幼児期の食生 活についての 問題と対応の 認識の間違 いはいくつか あるが、自身 の食生活にお いて実践し ようとする姿 勢は持つこと ができる。	自身の食生活 において実践 しようとする 姿勢ができて いない。	発表・プレゼ ンテーション (意欲・表現 力・創造性・技 能)	10%
	幼児期の食生 活についての 問題と対応が 認識でき、自 身の食生活に おいて実践す ることができる。	幼児期の食生 活についての 問題と対応が 認識でき、自 身の食生活に おいて実践し ようとするこ とができる。	幼児期の食生 活についての 問題と対応の 認識の間違 いはいくつか あるが、自身 の食生活にお いて実践し ようとする姿 勢は持つこと ができる。	自身の食生活 において実践 しようとする 姿勢ができて いない。	グループワ ーク・グルー プ 討議 (意欲・表現 力・創造性・技 能)	10%

授業科目			対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別	
乳児保育 I Early Childhood Care I			児童教育学科 幼児教育学専攻	25ECCM1005	1 年次	後期	
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家教員	
講義	2	必修	中安 妙子			○	
実務家教員の詳細	保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						
概要	乳児保育の変遷現状を学ぶとともに、現代における乳児保育の意義や課題を学ぶ。 3歳未満児の健全な発達を保障していくには、どのような援助が必要か、3歳未満児の発達を理解し、3歳未満児を主体とした保育について学ぶ。						
到達目標	(1) 乳児保育の意義・目的・役割等について説明できる。 (2) 保育所、乳児院等多様な保育における乳児保育の現状について説明できる。 (3) 3歳未満児の発育、発達を理解し、その上で保育内容について説明することができる。 (4) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者・地域との連携について説明できる。						
授業内容と進め方	回	授業内容		予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	オリエンテーション		オリエンテーションに臨んでから	2 時間	乳児保育で学ぶ3歳未満児の確認	2 時間
	2	乳児保育の意義、目的、乳幼児の発達全般の基礎知識を得る		テキスト:乳児の発達	2 時間	乳児の発達を知る	2 時間
	3	乳児保育の意義、目的、現状、課題		保育所 子ども園について調べる	2 時間	保育に関する現況理解	2 時間
	4	乳児保育における養護及び教育		多様な保育の場について調べる	2 時間	保育の場での問題は何か考える	2 時間
	5	保育所、乳児院等における乳児保育と子育て支援		保育所 乳児院等の現況を知る(テキスト参照)	2 時間	現況について理解	2 時間
	6	3歳未満の発達生活遊びと環境 (0歳)		乳児について知る(テキスト参照)	2 時間	乳児の発達について理解	2 時間
	7	3歳未満の発達生活遊びと環境 (0歳)		乳児について知る(テキスト参照)	2 時間	乳児の生活について理解	2 時間

	8	3歳未満の発達 生活遊びと環境（0歳）	乳児について知る (テキスト参照)	2時間	乳児の遊びに ついて理解	2時間
	9	3歳未満の発達 生活遊びと環境（1歳）	1歳児の発達に ついて知る (テキスト参照)	2時間	1歳児の発達 について理解	2時間
	10	3歳未満の発達 生活遊びと環境（1歳）	1歳児の生活遊 びについて知る (テキスト参照)	2時間	1歳児の生活 遊びについて 理解	2時間
	11	3歳未満の発達 生活遊びと環境（2歳）	2歳児の発達に ついて知る (テキスト参照)	2時間	2歳児の発達 について理解	2時間
	12	3歳未満の発達 生活遊びと環境（2歳）	2歳児の生活遊 びについて知る (テキスト参照)	2時間	2歳児の生活 遊びについて 理解	2時間
	13	3歳未満児の発達を踏まえた保 育士による援助、関わり	3歳未満児への 関わりについて 考える	2時間	関わりについ ての理解	2時間
	14	乳児保育における連携、協働	保護者との連携 について考える	2時間	連携について 理解	2時間
	15	全体のまとめ	疑問点の把握	2時間	全体のまとめ	2時間
成 績 評 価		定期試験（50%）、課題・レポート 毎回の感想（50%）				
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法		毎回いろいろな方のエッセイ、保育関連の資料、新聞記事を読み、それに対し適時コメ ントを書き返却する。 毎回の折り紙も折れなかったら再度折り、自分のものにしましょう。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：講義で学ぶ乳児保育（わかば社）、保育所保育指針（平成29年3月告示、 厚生労働省） 資料プリントは適時配布				
メ ッ セ ー ジ な ど		保育者としての基本的知識を学び、自分なりの保育者像を一緒に考えていきましょう。 積極的な発言・発表を望む。 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 乳児保育の意義・目的・役割等について説明できる。	乳児保育の意義等説明できる。	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	定期試験 (知識・理解)	10%
	乳児保育の意義等説明できる。	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	10%
(2) 保育所、乳児院等多様な保育における乳児保育の現状について説明できる。	乳児保育の現状について説明できる。	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	定期試験 (知識・理解・思考力)	10%
	乳児保育の現状について説明できる。	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	課題・レポート (知識・理解・思考力)	10%
(3) 3歳未満児の発育、発達を理解し、その上で保育内容について説明することができる。	3歳未満児の発育、発達保育内容について説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できる	説明できていない	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力)	20%
	3歳未満児の発育、発達保育内容について説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できる	説明できていない	小テスト (思考力・判断力・表現力・理解)	20%
(4) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者・地域との連携について説明できる。	職員、保護者地域との連携について説明できる	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	定期試験 (知識・理解)	10%
	職員、保護者地域との連携について説明できる	大きな間違いがなく説明できる	間違いはいくつかあるが最低限の説明できる	説明できない	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力)	10%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
乳児保育Ⅱ Early Childhood Care Ⅱ			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM2006	2 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員				実務家教員
演習	1	選択	中安 妙子				○
実務家教員の詳細	保育士としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○
概 要	急激な少子化の進行にもかかわらず乳児保育を必要とする家庭が増加し、乳児保育の需要は増大している。本授業では乳児保育Ⅰにおいて修得した知識に基づき、乳児保育における具体的配慮、計画の方法を学ぶ。						
到達目標	(1) 3歳未満の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を説明する。 (2) 3歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の方法及び環境構成について説明できる。 (3) 乳児保育における配慮の実践について説明できる。 (4) 乳児保育における計画の作成について説明できる。						
授業内容と進め方	回	授業内容		予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	1年次の振り返りと2年次の授業の内容を知る		0、1、2歳児の発達についてテキストを見ておく	2時間	0、1、2歳児の保育内容について確認まとめ	2時間
	2	保育所の1日・生活の流れ、保育環境・配慮の実践 0、1、2歳の発育、発達		1日の園生活の流れを理解し保育者の関わりを考えてくる	2時間	具体的にどう子どもに声掛けをする事がよいのかを考える	2時間
	3	乳児保育の内容と方法－0歳児保育と生活		0歳児の発達 保育内容の確認	2時間	具体的関わりについて復習	2時間
	4	乳児保育の内容と方法－0歳児保育と生活		0、1、2歳児の遊びについて考える	2時間	月齢別発達についての遊具を考える 自分の作る遊具製作	2時間
	5	乳児保育の内容と方法－遊び玩具作品発表 0、1、2歳の遊び、おもちゃ		どの月齢年齢についての遊具か遊び方を考える	2時間	自分製作玩具の良い点改良点を考える	2時間
	6	乳児保育の内容と方法－0、1歳児の保育と生活		1歳児の発達 保育内容の確認	2時間	具体的な関わりについて自分なりに考える	2時間
	7	各グループによる課題研究発表		所属するグループでの発表準備	2時間	他の班の発表を知り、学んだ事をまとめてみる	2時間

	8	各グループによる課題研究発表	所属するグループでの発表準備	2 時間	他の班の発表を知り、学んだ事をまとめてみる	2 時間
	9	乳児保育の内容と方法－0、1 歳児の保育と生活	1歳児の精神的発達の特徴の再確認	2 時間	具体的関わりについて自分なりに考えてみる	2 時間
	10	乳児保育の内容と方法－1、2 歳児の保育と生活	2歳児の発達 保育内容の確認	2 時間	具体的関わりについて自分なりに考えてみる	2 時間
	11	乳児保育の内容と方法－1、2 歳児の保育と生活	2歳児の精神的発達の特徴の再確認	2 時間	具体的関わりについて自分なりに考えてみる	2 時間
	12	乳児保育における計画－長短期計画 個別的集団的計画	3歳未満児における長短期計画について調べてみる	2 時間	自分で個別計画を立ててみる	2 時間
	13	乳児保育における保護者との連携	保護者との連携について調べてみる	2 時間	参観日、個別指導、登下園時での保護者との会話について考えてみる	2 時間
	14	乳児保育を支える連携 保育者の役割援助（ワーク）	保育者の役割について考えてみる	2 時間	子どもたちへの語りかけワークを通して自分の五感を使って保育を行う事を考えてみる	2 時間
	15	本授業のまとめ 乳児保育のこれからと保育者に望まれるもの	自分なりの保育者像を考える	2 時間	どんな保育をめざしたいのかを自分なりに書いてみる	2 時間
成 績 評 価		定期試験（35%）、課題・レポート 毎回の感想（35%）、グループワーク発表・指導案教材製作作品（30%）				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		現場における0、1、2歳の保育事例を読み、又、短期計画・設定案を書き、それに対し適時コメントを書き返却する。 0、1、2歳児の遊具を手作りし、個々が発表する中で、他の使い方、このような遊具もいいのではと実物・書籍等で紹介をする。				
テキストおよび参考文献		1年次のテキスト：保育所保育指針 授業の中で適宜本紹介。 資料プリント適時配布				
メ ッ セ ー ジ な ど		保育者としての基本的知識技術を学ぶことはもちろんですが、子どもたちに寄り添える保育士とはどういうことか、自分なりの保育者像を考えられるよう一緒に考えていきたい。積極的な発言発表で全員参加型の授業をつくっていくことを望む。 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 3歳未満の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を説明する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	13%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	12%
(2) 3歳未満児の子どもの生活や遊び、保育の方法及び環境構成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	13%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	作品 (意欲・創造性・作品の完成度)	12%
(3) 乳児保育における配慮の実践について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	課題・レポート (知識・理解・判断力・表現力・思考力)	13%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	グループワーク・グループ討議 (問題解決力・協働性・表現力・判断力・思考力)	12%
(4) 乳児保育における計画の作成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	指導案 (思考力・創造性・表現力・知識)	13%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できない。	教材作成 (表現力・創造性)	12%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
障害児保育 Care and Education for Disable Children		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM2007	1 年次・ 2 年次	1 年後期 2 年前期	
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習	2	選択	中津 愛子				
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要	障害のある子どもの保育の基本と、障害特性、一人一人の子どもに対する理解、保育における発達援助の方法を学ぶ。						
到達目標	(1) 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。 (2) 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について具体的に述べることができる。 (3) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について説明できる。 (4) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について考えを述べることができる。 (5) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について具体的に述べることができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	障害の概念と障害児保育の歴史		障害とは何かを調べる	2 時間	障害の概念をまとめる	2 時間
	2	障害のある子どもに対する保育の基本		障害児保育の歴史を調べる	2 時間	保育の基本をまとめる	2 時間
	3	障害児等の理解と保育における発達の援助		乳幼児期の発達の特徴を調べる	2 時間	発達援助とは何か、まとめる	2 時間
	4	肢体不自由児への理解		肢体不自由の定義を調べる	2 時間	どのような障害か、まとめる	2 時間
	5	肢体不自由児の発達援助		脳性まひの障害特性を調べる	2 時間	肢体不自由児の援助の留意点をまとめる	2 時間
	6	知的障害児への理解		知的障害の定義を調べる	2 時間	生活上、困難な点をまとめる	2 時間
	7	知的障害児の発達援助		知的障害児の特性を調べる	2 時間	知的障害児の援助の留意点をまとめる	2 時間
	8	発達障害とは		発達障害の定義を調べる	2 時間	発達障害の種類を調べる	2 時間
	9	発達障害児への理解 ①自閉スペクトラム症		自閉スペクトラム症の定義を調べる	2 時間	幼児期の行動特性をまとめる	2 時間

10	発達障害児の発達援助 ①自閉スペクトラム症	幼児期の支援の 具体例を調べる	2時間	行動特性に応 じた支援方法 を考える	2時間
11	発達障害児への理解 ②注意欠如・多動症	注意欠如・多動症 の定義を調べる	2時間	行動の特徴を まとめる	2時間
12	発達障害児の発達援助 ②注意欠如・多動症	幼児期の支援の 具体例を調べる	2時間	特性に応じた 支援方法を考 える	2時間
13	発達障害児への理解 ③学習障害	学習障害の定義 を調べる	2時間	日常生活での 困難さをまと める	2時間
14	発達障害児の発達援助 ③学習障害	児童期の支援の 具体例を調べる	2時間	学習支援につ いてまとめる	2時間
15	発達の遅れや発達に偏りのある子ども の保育	気になる子ども について調べる	2時間	集団における 配慮・支援を考 える	2時間
回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
16	視覚に障害のある子どもへの理解	視覚障害の定義 を調べる	2時間	視覚障害が発 達に及ぼす影 響をまとめる	2時間
17	視覚に障害のある子どもの発達援助	幼児期の支援の 具体例を調べる	2時間	障害に配慮し た援助につい てまとめる	2時間
18	聴覚に障害のある子どもへの理解	聴覚障害の定義 を調べる	2時間	聴覚障害が発 達に及ぼす影 響をまとめる	2時間
19	聴覚に障害のある子どもの発達援助	幼児期の支援の 具体例を調べる	2時間	障害に配慮し た援助につい てまとめる	2時間
20	重複障害児への理解と発達援助	重複障害の定義 を調べる	2時間	様々な障害を 併せもつ児の 例をまとめる	2時間
21	重症心身障害児への理解と発達援助	具体的な支援の 事例を調べる	2時間	重症心身障害 児の生活につ いてまとめる	2時間
22	医療的ケア児への理解と発達援助	医療的ケアとは 何か、調べる	2時間	医療的ケア児 の保育の事例 をまとめる	2時間
23	その他の特別な配慮を要する児への理 解と援助	その他の特別な 配慮を要する児 とは何か、調べる	2時間	授業で学んだ 事例について まとめる	2時間
24	子ども理解に基づいた保育の計画	障害がある子ど もの保育の計画 を調べる	2時間	保育計画を作 成する	2時間
25	個別の指導計画・支援計画の作成	個別の教育支援 計画を調べる	2時間	教育支援計画 例を作成する	2時間
26	個々の発達を促す生活や遊びの環境	子どもに適した 遊びの環境とは 何か、調べる	2時間	子どもに適し た教材を作成 する	2時間
27	家庭との連携及び家族への支援	家族援助の事例 を調べる	2時間	家族援助の要 点をまとめる	2時間
28	障害児支援の制度の理解と地域におけ る関係機関（保育所、児童発達支援 セ ンター等）との連携・協働	障害児の医療、保 健、福祉、教育の 各機関を調べる	2時間	各機関の役割 をまとめる	2時間
29	障害のある子どもの早期発見と療育	乳幼児健診につ いて調べる	2時間	早期療育体制 をまとめる	2時間
30	障害児その他の特別な配慮を要する子 どもの保育に関する現状と課題	障害児保育の現 状を調べる	2時間	障害児保育の 課題を考える	2時間

成 績 評 価	定期試験（40%）、課題・レポート（60%）
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法	授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ループリックによる成績評価を配布する。
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：中山智哉・深田尚志・末成妙子 編著「障がいのある子どもの保育・教育の 実践」学文社 参考文献：前田泰弘 編著「実践に生かす障害児保育」萌文書林
メ ッ セ ー ジ な ど	DVD 視聴やグループワークを取り入れた、実践的な授業を行います。 保育士証：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	20%
(2) 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について具体的に述べることができる。	たいへん具体的に述べるができる。	おおよその内容について具体的に述べるができる。	部分的には具体的に述べるができる。	具体的に述べるができない。	定期試験 (知識・理解)	20%
(3) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%
(4) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について考えを述べるができる。	子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働についての認識に誤りや大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働についての認識の間違いがいくつかあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%
(5) 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について具体的に述べることができる。	たいへん具体的に述べるができる。	おおよその内容について具体的に述べるができる。	部分的には具体的に述べるができる。	具体的に述べるができない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
障害児・者の支援 Care and Support for Disable Child and Adult		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM2008	2 年次	後期
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	中津 愛子			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	障害のある人の生涯発達を視野に入れ、本人とその周囲の人々に対しどのような支援を行うのか、医療、教育、福祉の各機関の役割と連携による支援の現状を学ぶ。					
到達目標	(1) 障害の早期発見、早期療育の現状を概説できる。 (2) 乳児期から学童期の発達支援に関わる医療、教育、福祉の各機関の役割を説明できる。 (3) 青年期から成人期の生活支援の実態について説明することができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	障害のある子どもに対する理解	障害のある子どもを理解する際の留意点を調べる	2 時間	子ども理解のためのポイントを整理する	2 時間
	2	障害の早期発見と療育、障害児の発達援助	乳幼児健診の項目を調べる	2 時間	早期発見から療育の流れを整理する	2 時間
	3	知的発達に遅れのある子どもに対する理解	知的障害の定義を整理する	2 時間	知的障害の特性をまとめる	2 時間
	4	発達障害のある子どもに対する理解	発達障害の種類と特性を調べる	2 時間	発達障害の特性をまとめる	2 時間
	5	発達を促す遊び	発達を促すための教材作成	2 時間	子どもに応じた遊びの計画	2 時間
	6	障害のある子どもへの関わり方	一人一人の特性に応じた援助を考える	2 時間	子どもに応じた保育の準備	2 時間
	7	指導計画の作成	指導計画作成上の留意点を調べる	2 時間	指導案の作成	2 時間
	8	記録と評価	ICT を活用した記録方法の準備をする	2 時間	遊び場面の振り返り	2 時間
	9	障害のある子どもの家族に対する理解	家族の手記を読んでもく	2 時間	家族の心情をまとめる	2 時間
	10	家族の障害受容と保護者支援	障害受容の過程を調べる	2 時間	家族援助の案を考える	2 時間

	11	乳幼児期における地域の専門機関との連携	児童発達支援を行う施設を調べる	2時間	幼児の療育施設をまとめる	2時間
	12	就学に向けての支援	就学指導を行う機関を調べる	2時間	就学指導の現状をまとめる	2時間
	13	学童期の発達支援・専門機関との連携	特別支援学級、特別支援学校を調べる	2時間	教育機関の役割をまとめる	2時間
	14	青年期から成人期の生活支援の現状	進路支援の現状と就労支援施設を調べる	2時間	青年期の支援の現状をまとめる	2時間
	15	生涯発達を視野に入れた支援の課題	地域における障害者支援の現状を調べる	2時間	成人期の生活支援に関するレポート作成	2時間
成績評価		課題・レポート（100%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業の復習プリント、課題レポートはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。				
テキストおよび参考文献		テキスト：授業事前配布資料 参考文献：中山智哉・深田尚志・末成妙子 編著「障がいのある子どもの保育・教育の実践」学文社 前田泰弘 編著「実践に生かす障害児保育」萌文書林、エデュマムコミュニケーション MOOK「発達障害あんしん子育てガイド 幼児期から思春期まで」小学館				
メッセージなど		授業の中で障害のある子どもたちに触れあう時間があります。障害児保育について学びを深めたい人の受講をすすめます。 保育士証：選択科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 障害の早期発見、早期療育の現状を概説できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（関心・意欲・表現力）	25%
(2) 乳児期から学童期の発達支援に関わる医療、教育、福祉の各機関の役割を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	50%
(3) 青年期から成人期の生活支援の実態について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（思考力・判断力）	25%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
特別講義 Special Lecture		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECSL1001	1 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	平田 睦美・木橋 奏子・正長 清志・中津 愛子			
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	教育者・保育者になるためのコミュニケーション能力や表現力を養う。また、社会のニーズを考慮しつつ、地域に貢献できる教育者・保育者になるための基本的な知識と技術を習得する。					
到達目標	(1) 保育者に必要とされる基本的な知識や技能とは何かを説明できる。					
	(2) 地域子育て支援ボランティア活動の意義を理解し、具体的な活動内容について主体的に考えることができる。					
	(3) 他者と協働し、グループ討議や地域子育て支援ボランティア活動に取り組むことができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	地域子育て支援ボランティアの概要 平田・木橋・正長・中津	地域の子育て支援について知っていることをまとめておく。	2 時間	地域の子育て支援の必要性について自分の考えをまとめる。	2 時間
	2	地域子育て支援ボランティアでの遊びの紹介 平田・木橋・正長・中津	地域の子育て支援について自分が取り組んでみたいことを考えておく。	2 時間	地域子育て支援ボランティアの映像を見て感じたことをまとめる。	2 時間
	3	地域子育て支援ボランティアでの遊びの紹介 平田・木橋・正長・中津	親子で楽しめる遊びについて考えておく。	2 時間	授業で経験した遊びを振り返る。	2 時間
	4	絵本と音楽表現の活動 中津・木橋	自分の好きな絵本を読んでおく。	2 時間	絵本の読み聞かせの練習をする	2 時間
	5	手遊びを楽しもう 平田・木橋	手遊びとはどのようなものか調べておく。	2 時間	手遊びの練習をする。	2 時間
	6	絵本を楽しもう 平田・木橋	自分の選んだ絵本について読み聞かせの練習をする。	2 時間	友達の読み聞かせを聞いて感じたことをまとめる。	2 時間

	7	パネルシアターを楽しもう 平田・木橋	パネルシアターとはどのようなものか調べておく。	2 時間	パネルシアターの絵人形をつくる。	2 時間
	8	伝承遊びを楽しもう 正長・平田	伝承遊びにはどのようなものがあるか調べておく。	2 時間	伝承遊びの遊び方について練習する。	2 時間
	9	地域子育て支援ボランティア活動の準備から実践の計画 平田	地域子育て支援ボランティア活動での遊びを考えておく。	2 時間	地域子育て支援ボランティア活動で実践する遊びに必要なものを考える。	2 時間
	10	地域子育て支援ボランティア活動の準備① 平田・木橋	活動の準備をする	2 時間	活動の準備に対する振り返りをする。	2 時間
	11	地域子育て支援ボランティア活動の準備② 平田・木橋	活動の準備をする	2 時間	活動の準備に対する振り返りをする。	2 時間
	12	地域子育て支援ボランティア活動の実践① 平田・木橋	活動の準備をする	2 時間	活動の準備に対する振り返りをする。	2 時間
	13	地域子育て支援ボランティア活動の実践② 平田・木橋	活動を振り返る	2 時間	実践終了感想レポート	2 時間
	14	地域子育て支援ボランティア活動の振り返り 平田・木橋	活動を振り返る	2 時間	実践報告会資料を作成する。	2 時間
	15	地域子育て支援ボランティア活動の実践報告 平田・木橋	実践報告会準備をする	2 時間	報告会から学んだこと課題レポート	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート（60%）、グループワーク・グループ討議（20%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（20%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートは、コメントを添えて返却する。				
テキストおよび参考文献		テキスト：なし。プリントを配布する。				
メッセージなど		保育者を目指す学生は全員受講することが望ましい。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育者に必要とされる基本的な知識や技能とは何かを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・表現力）	30%

(2) 地域子育て支援ボランティア活動の意義を理解し、具体的な活動内容について主体的に考えることができる。	主体的に考えることが十分にできる。	主体的に考えることが概ね可能である。	部分的ではあるが、主体的に考えることができる。	主体的に考えることができない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・表現力)	30%
(3) 他者と協働し、グループ討議や地域子育て支援ボランティア活動に取り組むことができる。	他者と協働して取り組むことが十分にできる。	他者と協働して取り組むことが概ね可能である。	部分的ではあるが、他者と協働して取り組むことができる。	他者と協働して取り組むことができない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・協働性・問題解決力)	20%
	他者と協働して取り組むことが十分にできる。	他者と協働して取り組むことが概ね可能である。	部分的ではあるが、他者と協働して取り組むことができる。	他者と協働して取り組むことができない。	ロールプレイ (思考力・協働性・問題解決力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
保育総合研究 Child Care Synthesis Research		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCR2001	2 年次	通年
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	必修	正長 清志・木橋 奏子・馬場 弓歌・平田 陸美			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	子どもの教育や保育に関する研究課題を自ら見つけ、その課題を解決するための方法を決定・遂行し、その結果について検討し今後の課題を見つけ出す。研究目的、研究方法から、結果、考察に至るまで、担当教員の指導を受けながらテーマごとに進め、その成果を発表し、報告書にまとめる。					
到達目標	(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。 (2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。 (3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。 (4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。					
授業内容 と 進め方	授業内容					
	各研究室で教員に指導を受けながら、各自のテーマに沿って研究活動を進めていく。授業時間外に各自で研究に取り組むこと。そのうえで、週 1 回、決められた時間に教員から指導を受けること。 令和 6 年度は、下記のような内容で行われた。 発達の遅れがある幼児に向けた色と形の理解に関する教材作成 発達障害のある子どもへの援助 子どもの行動を理解し、支援の方法を考える ～K さんの事例を通して～ 発達に遅れのある幼児を対象としたボール遊びの実践 保育現場での気持ちのコントロールが難しい子への対応 保育園内で気になる行動を示す子どもに対しての関わり方 一人一人の子どもへの対応を考える 保育現場での子どもへのことばかけ 子どもの気持ちを大切にしたい関わり方について ディスエンパワメントとエンパワメントの構造 保育現場で音楽に親しむ活動がどのように行われているのか リトミックは子どもにどのような影響を与えるのか 子どもの安全と健康を守る対策 アンパンマンがだれにでも親しまれる理由 手遊びの大切さ ～幼稚園実習から得たもの～ 子どもと食との関わりについて考える 不登校生徒に必要な声かけとは					

	日本人の幸福度を世界基準に上げるには 保育労働者の人材確保について 絵本「ちやいろのパンダ ちやむ」の制作 フェルトでつくるおもちゃ ～おまつりごっこ～ フェルトでつくるおもちゃ ～おべんとう～ 感触遊びが楽しめるおもちゃ制作 子どもが楽しめるおもちゃ制作 子ども達が楽しめる保育 アンパンマンと見つけた ～布の絵本を制作して～ 子どもの心が動くピアノ演奏
成績評価	課題・レポート (20%)、授業への取り組み (50%)、発表・プレゼンテーション (10%)、その他 (20%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	ループリック評価を用いた成績評価をお知らせする。
テキストおよび参考文献	自分の研究テーマにあった参考文献を各自で選択、購入すること
メッセージなど	2年間で学んだことの集大成となるよう取り組んで欲しいと思います。 保育士証：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。	研究の目的を明確にし、研究方法を適切に選択できる。研究計画書に必要な内容を記載できる。	テーマを設定し、研究計画書に必要な内容をほぼ記載することができる。	テーマは設定したが、研究計画書の記載には不足している点が認められる。	テーマが設定できず、研究計画書の提出の提出がない。	課題・レポート (知識・理解)	20%
(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。	意欲を持ち、自ら考え、工夫し、指導教員からの助言・指導を受け入れて、研究を深めることができる。	ほぼ主体的に研究活動に取り組み、指導や助言を受け入れて研究を進めることができる。	研究活動に取り組む意欲はみられるが、自分で進めていこうとする力に欠けるところがある。	研究活動に取り組む姿勢がみられない。	授業への取り組み (思考力・表現力・創造性・協働性・問題解決力)	50%
(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。	研究の成果を他者にわかりやすい方法で完璧に表現することができる。	ほぼ、わかりやすい方法で表現することができる。	わかりやすく表現するための工夫がやや不足している。	研究の成果を発表会で発表していない。	発表・プレゼンテーション (表現力)	10%
(4) 各自が発表した内容を報告集原稿として文章にまとめることができる。	研究の成果を適切に文章にまとめることができる。	書式に従い、ほぼ必要な内容を文章に記述することができる。	誤字、脱字をいくつか認め、記述内容も不明瞭であり、指導教員からの助言・	報告集原稿提出なし。	その他 (思考力・判断力・表現力)	20%

			指導を受ければ、報告集を提出できる。			
--	--	--	--------------------	--	--	--

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
児童文化財と子どもの遊び Cultural Assets for Children and Playing		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM2009	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	玉木 晃子			○
実務家教員 の詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	子どものあそびを通して、児童文化を学ぶ。 「保育」の中でのあそび・児童文化を学び、保育士に必要な資質、能力、技術の習得をはかる。					
到達目標	(1) 子どもの文化、あそびを昔と比較し、現代のあそび、保育の中での文化活動について説明することができる。					
	(2) 児童文化財を取り入れて保育を行うことについて自分の考えをのべることができる。					
	(3) 劇あそびを創ることを通して、子どもの文化に対する自分の考えを述べることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	子どもの文化を考える	子どもの文化について自分の考えをまとめる	2 時間	話し合った内容をまとめる	2 時間
	2	子どものあそびの変遷	自分の子ども時代のあそびをまとめる	2 時間	自分の子ども時代と現在の子どものあそびの比較をする	2 時間
	3	子どものあそび（わらべ歌）	昔の子どものあそびを調べてくる	2 時間	わらべ歌をうたったり、遊んだりした感想をまとめる	2 時間
	4	絵本について考える① 絵本の歴史と種類	子どもと絵本について考える	2 時間	好きな絵本 10 冊 選び、選んだ理由 を記入する	2 時間
	5	絵本について考える② 絵本を選ぶ・読み聞かせをする	人前で絵本を読む 練習をしてくる	2 時間	どのような読み方 が良いか考える	2 時間
	6	絵本について考える③ 絵本を選ぶ・読み聞かせをする	人前で絵本を読む 練習をしてくる	2 時間	読み聞かせの仕方 についてまとめる	2 時間
	7	保育の中での行事を考える①	どういう行事があるか調べてくる	2 時間	行事と保育についてまとめる	2 時間

	8	保育の中での行事を考える② 伝承遊び	伝承遊びにはどんなものがあるか調べてくる	2 時間	製作し、実際に遊んだ感想をまとめる	2 時間
	9	「保育を創る」という考え方 劇遊び	領域「表現」のねらいや内容、内容の取扱いについて読んでくる	2 時間	年齢別の表現について再度読み、理解する	2 時間
	10	あそびを創る① 劇あそびができるまで	劇遊びの仕方について考えてくる	2 時間	園児の劇遊びについて感想をまとめる	2 時間
	11	あそびを創る② 絵本から劇遊び	劇遊びにしたい絵本を選んでくる	2 時間	選んだ絵本を劇あそびにすることを考えて読み込んでくる	2 時間
	12	あそびを創る③ 台本・音楽・美術を考える	自分なりに劇の構想を考える	2 時間	自分なりに劇の流れをまとめる	2 時間
	13	あそびを創る④ 役割を決め、準備する	グループに必要なものを準備してくる	2 時間	台本・音楽・美術を完成させる	2 時間
	14	あそびを創る⑤ グループで劇遊びをする	自分の役について練習をしてくる	2 時間	足りないものを仕上げ、劇の練習をする	2 時間
	15	遊びを創る⑥ 発表・劇遊びのまとめ	グループで劇について練習を仕上げる	2 時間	発表した内容をまとめる	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート (50%)、授業への取り組み (35%)、グループワーク・グループ討議 (15%)				
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法		提出されたものに対し、コメントを書き、返却する。				
テキストおよび 参 考 文 献		講義資料：その都度配布 参考文献：授業の中で紹介				
メ ッ セ ー ジ な ど		絵本・人形劇・劇遊びなど保育の中で取り上げられがちなものについて関心を深められるように、わかりやすく実技を取り入れながら授業をすすめていきます。 保育士証：選択科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもの文化、あそびを昔と比較し、現代のあそび、保育の中での文化活動について説明することができる。	昔と現代のあそび、保育の中での文化活動について正しく認識し、ほぼ完璧に説明できる。	昔と現代のあそび、文化活動について大きな違いを誤りなく説明できる。	昔と現代のあそび、文化活動について最低限の説明ができる。	説明ができない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	20%
	自分の考えを述べることができる。	大きな間違いなく自分の考えを述べることができる。	最低限、自分の考えを述べることができる。	自分の考えをわかるように述べるできない。	課題・レポート (知識・理解)	20%
(2) 児童文化財を取り入れて保育を行うことについて自分の考えをのべることができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の説明ができる。	説明ができない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	15%
	自分の考えを述べることができる。	大きな間違いなく自分の考えを述べることができる。	最低限、自分の考えを述べることができる。	自分の考えをわかるように述べるできない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
(3) 劇あそびを創ることを通して、子どもの文化に対する自分の考えを述べることができる。	子どもの文化に対する自分の考えを述べるができる。	大きな間違いなく自分の考えを述べることができる。	最低限、自分の考えを述べるができる。	自分の考えをわかるように述べるできない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
	子どもの文化に対する自分の考えを述べることができる。	大きな間違いなく自分の考えを述べることができる。	最低限、自分の考えを述べることができる。	自分の考えをわかるように述べるできない。	グループワーク・グループ討議 (創造性・協働性)	15%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
現代教師論 Teaching Modern Teachers			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECBE1008	1 年次	後期	
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員				実務家教員	
講義	2	必修	林 和子				○	
実務家教員の 詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。							
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関 係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。							
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○	
概 要	子どもを取り巻く環境や家庭のあり方などの変化により、保育者に求められる役割や責務はますます多様化、高度化している。子どもが育つ環境条件や地域社会全体を視座に入れ、未来を担う子どもたちの保育・教育にあたる保育者の役割と倫理、専門性について学ぶ。 保育者としてだけでなく、人間として成長していくことと専門職としての成長について学ぶ。							
到達目標	(1)-1 保育・幼児教育の目的とその担い手である保育者の存在意義について説明できる。 (1)-2 他の職業と保育・幼稚園等教職である専門職を比較することを通して専門職について説明できる。 (2)-1 子どもたちのおかれている社会の現状について具体的に述べることができる。 (2)-2 保育・幼児教育観の変遷を踏まえ、今日の保育者に求められる役割を説明できる。 (2)-3 現代の保育者に求められる基礎的な資質能力を説明できる。 (3)-1 乳幼児への指導及び地域の子育て家庭への支援等、保育者の職務の全体像を説明できる。 (3)-2 専門職として適切に職務を遂行するため、学び続けることの必要性、重要性を具体的に述べることができる。 (3)-3 保育者に課せられる服務上、身分上の義務を説明できる。 (4)-1 園内の保育者や専門性を持つ人材と連携し、組織的に諸課題に対応することの重要性について説明できる。							
授業内容 と 進め方	回	授業内容			予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	オリエンテーション 現代教師論での学びについて			保育者についての自分の考えをまとめる。	2 時間	保育者像を考え整理しておく。	2 時間
	2	「保育者になる」ということ、 保育者のイメージ			保育者像を念頭に保育者の現状について考える。	2 時間	子どもを取り巻く社会状況を整理しておく。	2 時間
	3	「保育者になる」倉橋惣三【育ての心】から学ぶ。			倉橋惣三について調べる。	2 時間	魅力的な保育者について自分の考えを記載しておく。	2 時間

	4	保育者の仕事内容と求められる役割と資質能力	自分の幼保時代の担任について振り返る。	2 時間	授業を振り返り、求められる保育者について再度、考える。	2 時間
	5	「保育者」という仕事	保育者の一日について調べる。	2 時間	授業を振り返り保育者の仕事について整理する。	2 時間
	6	子どもの思いや育ちを理解する	子どもの求める理想の保育者像について自分の考えをまとめる。	2 時間	授業を振り返り、子ども理解について考える。	2 時間
	7	子どもと一緒に心と体を動かす仕事	子どもにとっての楽しい手遊びを調べておく。	2 時間	授業を振り返り、子どもの心を揺さぶる楽しい遊びをまとめる。	2 時間
	8	0～2 歳児の保育の重要性	0～2 歳児保育の重要性について自分なりに考える。	2 時間	保育者の連携・協働について整理する。	2 時間
	9	子どもの豊かな生活を生み出す保育者の在り方	自分の好きな絵本やお話を考えておく。	2 時間	他の人の発表から学んだことをまとめる。	2 時間
	10	子育て支援の重要性	市町の子育て支援施設をしらべておく。	2 時間	子育て支援に関わる様々な人を整理する。	2 時間
	11	保育者の専門性と省察	保育者の専門性について調べておく。	2 時間	授業を振り返り専門性について自分の考えをまとめる。	2 時間
	12	学び合う保育者：「語り合う」「学び合う」関係づくり	保育者の関係づくりとはどういうこと？を考える。	2 時間	保育者の学び合いの必要性について自分の考えを書く。	2 時間
	13	保育者の研修制度と制度上の位置づけ	これまでの授業を振り返り整理しておく。	2 時間	研修制度を理解し整理しておく。	2 時間
	14	まとめにかえて：服務上・身分上の義務及び身分保障	保育者としての義務について考えておく。	2 時間	守秘義務・個人情報保護を振り返り理解する。	2 時間
	15	まとめにかえて：生涯にわたって学ぶ意味	目指す保育者像について考えておく。	2 時間	目指す保育者像に向けて、できることを整理する。	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート（50%）、授業への取り組み（50%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		課題に対して自分の考えを書き、その都度コメントを伝える。				
テキストおよび参考文献		『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月 告示 文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月 告示 厚生労働省）				
メ ッ セ ー ジ な ど		教職とはどういうものなのか。乳幼児も一人の人間です。人が人を育てることの重さを伝えながら、子どもや保護者と共に育っていける自分を発見できるようすすめていきます。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 保育・幼児教育の目的とその担い手である保育者の存在意義について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(1)-2) 他の職業と保育・幼稚園等教職である専門職を比較することを通して専門職について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-1) 子どもたちのおかれている社会の現状について具体的に述べることができる。	ほぼ完璧に述べることができる	大きな間違いがなく述べることができる	おおまかな現状については述べるができる	述べるができない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	5%
	ほぼ完璧に述べることができる	大きな間違いがなく述べることができる	おおまかな現状については述べるができる	述べるができない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(2)-2) 保育・幼児教育観の変遷を踏まえ、今日の保育者に求められる役割を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-3) 現代の保育者に求められる基礎的な資質能力を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
(3)-1) 乳幼児への指導及び地域の子育て家庭への支援等、教員（保育者）の職務の全体像を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(3)-2) 専門職として適切に職務を遂行するため、学び続けることの必要性、重要性を具体的に述べるができる。	ほぼ完璧に述べることができる	大きな間違いがなく述べることができる	おおまかな現状については述べるができる	述べるができない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%
(3)-3) 保育者に課せられる服務上、身分上の義務を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	5%
(4)-1) 園内の保育者や専門性を持つ人材と連携し、組織的に諸課題に対応することの重要性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる	最低限の基本を説明できる	説明できていない	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
学校教育の制度と経営 School Education System and School Management		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM2009	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	正長 清志			
実務家教員 の詳細						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関 係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	・学校は、知識や技術の習得のみならず、友達や教員など同世代・異世代の多様な人々との出会いをと おして、子ども達に豊かな成長を保障する場でもある。学校教育の制度と経営は教育実践と密接に関連 しており、これを深めていくにはさまざまな学問への広い知識も求められる。それは日本国憲法や教育 基本法、学校教育法など多数の法規や教育制度をとおして具体化されていくため、いわば教育の現場の 基盤を担っている。そこで、現代の教育制度に関するさまざまな課題を取り上げ、日々の学校教育の営 みと教育に関する法規などがどのように関わっているのかを理解することで、教員としての基礎知識を 習得するとともに、教育制度の現状を批判的に検討しながら、教育実習で経験した現状をいかに改善す るかというデザイン力を身につけることも目的としている。こうして、教育実践に興味があるみなさん と、教育実習をとおして実証的に取り組んできた体験をふり振り返りながら考察していく。また同時に、地 域にとって学校がどのような役割を果たしていく期待に沿えるような、学校と地域との連携および学校 安全への対応などに関わる事象から教育問題を視野に入れ講義をすすめる。					
到達目標	(1) 教育行政や教育法規の動向から、教育制度に関する基本的な用語を中心に知識を深める。 (2) 日々の学校教育の営みから教育に関する法規などと、どのように関わっているのかプレゼンテーショ ンをする。 (3) 現在の教育制度に関する具体的な改善案を自らの学習からふり振り返り、適切な改善が考察できる。					
授業内容 と 進め方						
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	現代社会の課題が学校に及ぼす影響	現在の教育に 関する課題を 調べる	2 時間	現代社会が教育 に求めている ことについて 考察する	2 時間
	2	子どもを取り巻く生活環境の変化と これに応じた教育政策の動向	経済の発展と 並行して考察 する	2 時間	生活環境の変 化をまとめる	2 時間
	3	日本の学校制度・教育制度をめぐる課題、 海外の教育政策と照し合せる	学校施行規則 第 1 条を確認 する	2 時間	学校制度の変 遷をまとめる	2 時間
	4	教育行政と教育関連法規	教育関連法規 を調べる	2 時間	多様な児童生徒 に対応して いる事象をま とめる	2 時間

	5	学校組織のマネジメントー学校評価ガイドラインを基にー	組織のマネジメントについて調べる	2時間	地域と学校の協働をまとめる	2時間
	6	学級経営の基本・学級経営のあり方と課題	情報の共有化を考察する	2時間	早期の対応手順をまとめる	2時間
	7	教職員や学校外の関係者との協働と今日的課題ーよりよい学校経営を目指してー	地域住民参加のマネジメントを考察する	2時間	教育・保健・福祉の連携を理解する	2時間
	8	地域学校協働活動の推進に関する社会教育法の改正	多職種協働を考察する	2時間	協働に至らない場合の検証	2時間
	9	地域学校協働活動とコミュニティ・スクール	他の教育機関との連携を学ぶ	2時間	出席日数について考察する	2時間
	10	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の理念・役割	補完する期間を確認する	2時間	学校長の権限を知る	2時間
	11	学校の管理下で発生する事故や自然災害の実情、学校安全のめざすべき姿・学校安全の目標	安全・安心・あったかな環境を整備する	2時間	危機管理能力の計測を学ぶ	2時間
	12	地域ぐるみの学校安全体制整備の実践事例	日常活動を見る	2時間	安全な経路の整備をする	2時間
	13	学校保健安全法に基づく学校安全の推進に関する計画、学校安全計画及び危機管理マニュアルの策定	事象に対するマニュアル化を見る	2時間	危機管理に備えての安全確保をまとめる	2時間
	14	危機管理と安全教育の取り組み事例、教育委員会とスクールカウンセラーが協働した緊急支援の事例をもとに	多業種連携コンサルテーションを学ぶ	2時間	平常の取り組みを理解する	2時間
	15	「地域連携教育と学校安全」に関する現代的課題への対応	地域のだれもが主人公	2時間	学校はプラットフォームを知る	2時間
成績評価	課題・レポート（80%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	・履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返し、提出に備えてください。課題のフィードバックについては課題レポート提出後に解説を行います。質問は授業内で対応します。 ・Google Classroom を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。					
テキストおよび参考文献	【テキスト】 参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。 【持参物】 記録ファイル					
メッセージなど	学校は、知識や技術の習得のみならず、友達や教員など同世代・異世代の多様な人々との出会いを通じて、子どもたちに豊かな成長を保障する場でもあるのです。ですから、教育実践としての教育実習をとおして実践に取り組んできたことをふり返しながらか、積極的に自分の意見を発表しながら考察していきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 現在の教育制度に関する具体的な改善案を自らの学習から振り返り、適切な改善案がプレゼンテーションできる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・知識・理解）	20%

(2)教育行政や教育法規の動向から、教育制度に関する基本的な用語を中心に知識を深める。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解)	40%
(3) 学校教育の営みから地域との共存を考察する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	40%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別			
教育原論 Principles of Education			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECBE1010		1 年次		前期			
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定		担当教員					実務家教員		
講義		2	必修		中村 浩					○		
実務家教員の 詳細		教育委員会指導主事としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。										
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係		(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。									○	
		(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。										
		(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。										
		(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。										
		(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。									○	
		(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。									○	
概 要		教育の基本的概念や教育の理念について学び、教育を成り立たせている諸要因とそれら相互の関係を理解する。また、教育の歴史、思想や制度等を学び、これまでの教育及び学校の営みがどのように変遷してきたのかを理解し、学校を取り巻く今日的な教育課題について自分の考えや意見を述べる事ができる教師としての資質・能力を養う。										
到達目標		(1)-1 教育や教育原論とは何かを、パスカルの言葉等をもとに、説明できる。										
		(1)-2 現代の学校・園制度の発生や教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。										
		(2)-1 これまでの日本の教育の歴史や、現在の教育の基本的なスタンスについて、説明できる。										
		(2)-2 学校・園経営、生徒指導や学習指導や保育活動について、その概要や考え方の基本を説明できる。										
授業内容 と 進め方		(2)-3 教育評価、社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。										
		回	授業内容			予習内容		予習 時間	復習内容		復習 時間	
		1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育原論とは何か」が明確になる。			「教育は、何のためにあるのか」の資料を読む。		2 時間	教育原論の概要について、内容をまとめる。		2 時間	
		2	パスカルや孔子の言葉をもとに「教育とは何か」を考える。			「教育とは何か」の資料を読む。		2 時間	カントや孔子の教育に関する考えについて、内容をまとめる。		2 時間	
		3	古代から現代までの教育の歴史を「学校・園はどのようにしてできたのか」の視点で探ることで理解する。			教育の歴史(欧米)の資料を読む。		2 時間	欧米の教育の歴史の概要について、内容をまとめる。		2 時間	
		4	ソクラテスからデューイまで「教育の先人たち」の概要を学ぶことで、教育方法の歴史を理解する。			教育方法の歴史(欧米)の資料を読む。		2 時間	教育方法の歴史(欧米)の概要について、内容をまとめる。		2 時間	
		5	古代から現代の教育基本法に至る「日本の教育」の歴史の概要を学ぶことで、日本の教育の目的を理解する。			日本の教育の歴史の資料を読む。		2 時間	日本の教育の歴史の概要をまとめる。		2 時間	
		6	日本の学校教育・幼児教育の法的根拠を、演習問題を解くことで理解する。			学校教育と法規の資料を読む。		2 時間	学校教育に関する諸法規についてまとめる。		2 時間	

	7	学校・園制度のあり方について、日本とドイツの違いから考察する。文部科学省と教育委員会、学校・園の関係を理解する。	学校制度と教育行政の資料を読む。	2 時間	学校制度のあり方について、内容をまとめる。	2 時間
	8	学校・園の責任者としての校長・園長の視点を通して、学校・園経営の仕組みや運営のあり方について理解する。	学校経営の資料を読む。	2 時間	学校経営のしくみや学校運営について、内容をまとめる。	2 時間
	9	学級担任になったつもりで「安心安全でいじめのない学級づくり」について、グループ学習で考えをまとめる。	学級経営の資料を読む。	2 時間	いじめのない学級づくりについて考え、内容をまとめる。	2 時間
	10	グループ学習での成果を発表し合うことで、担任としてもつべき「学級経営の基本的な構えと手だて」について理解する。	子どもの学級力の育成の資料を読む。	2 時間	学級経営の基本についてまとめる。	2 時間
	11	生徒指導の原理と方法について生徒指導提要进行をもとに学び、「生徒指導とは何か」について理解する。	生徒指導提要进行を読む。	2 時間	生徒指導とは何かについてまとめる。	2 時間
	12	学習指導や保育指導の原理と方法について具体的な授業例から学び、「授業とは何か」について理解する。	授業研究の資料を読む。	2 時間	授業づくりの基本について、内容をまとめる。	2 時間
	13	教育評価にまつわる基礎知識を学び、絶対評価と相対評価の考え方の違いやPDCAの意味について理解する。	教育評価の資料を読む。	2 時間	教育評価の基本についてまとめる。	2 時間
	14	教育の原点としての家庭教育のあり方について、具体的な事例をもとに考える。	家庭教育のあり方の資料を読む。	2 時間	家庭教育のあり方について、自分のことにあてはめて考え、内容をまとめる。	2 時間
	15	社会教育についての考え方の変遷について学び、生涯学習時代を生き抜く知恵について考える。	社会教育の資料を読む。	2 時間	社会教育についての基本をまとめる。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（49%）、授業への取り組み（51%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：『やさしい教育原理』有斐閣アルマ 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月 文部科学省）』東洋館出版、 『幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月 文部科学省）』フレーベル館 『問いからはじめる教育学』有斐閣ストゥディア				
メ ッ セ ー ジ など		教育の根本的な理論について、その概要を学ぶ。授業 教育の未来について、考える楽しみを味わいながら、理解を深める授業 幼稚園教諭二種免許状：必修科目 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 教育や教育原論とは何かを、パスカルの言葉等をもとに、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	8%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	7%
(1)-2) 現代の学校・園制度の発生や教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。スカルの	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-1) これまでの日本の教育の歴史や、現在の教育の基本的なスタンスについて、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-2) 学校・園経営、生徒指導や学習指導や保育活動について、その概要や考え方の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%
(2)-3) 教育評価、社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
教育心理学 Educational Psychology		児童教育学科 幼児教育学専攻		25 ECUI1004	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	馬場 弓歌			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	心理学の中でも教育分野に関連する内容を学ぶ。 学習・記憶・発達など教育に関連する基本的な内容を学習する。 学校内の様々事象・問題を心理学的視点から考える。					
到達目標	(1)教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。 (2)教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。 (3)現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	教育心理学とは何か概要を知る	—	—	教育心理学を学ぶ 目的について整理 する。	2 時間
	2	教育心理学の歴史を理解する	教育心理学の歴史 の概要につい調べる。	2 時間	教育心理学に大きな 影響を与えた人物 達を整理する。	2 時間
	3	学習理論について理解する	代表的な学習理論 について調べる。	2 時間	ワトソンの学習心 理学の功罪につい てまとめる。	2 時間
	4	動機づけの種類と重要性を理解する	動機づけに関係する 身近な現象につ いて調べる。	2 時間	内発的/外発的動機 づけの違いについ てまとめる。	2 時間
	5	教育と発達（レディネス）について理解する	発達の最近接領域 について調べる。	2 時間	発達の最近接領域 の活用例をまとめ る。	2 時間
	6	学習方法について学ぶ	学習方法の具体例 について調べる。	2 時間	効果的な学習方法 についてまとめ る。	2 時間
	7	記憶のメカニズムについて学ぶ	人間の記憶の種類 について調べる。	2 時間	長期記憶と短期記憶 の違いについて まとめる。	2 時間
	8	教師・児童関係の重要性を理解する	自分自身の教師－ 児童関係について 振り返る。	2 時間	望ましい教師－児童 関係についてまと める。	2 時間

	9	学童期の発達特徴と課題を学ぶ	学童期の子どもたちの発達課題を調べる。	2 時間	学齢期の発達段階ごとの課題をまとめる。	2 時間
	10	児童の評価方法を学ぶ	児童を的確に評価する方法について調べる。	2 時間	各評価法のメリット・デメリットについてまとめる。	2 時間
	11	基本的な統計法を学び評価を实践する。	統計解析の種類について調べる。	2 時間	興味を持った統計法の一つについてまとめる。	2 時間
	12	教育現場でのカウンセリング的かわりについて学ぶ	カウンセリング・マインドについて調べる。	2 時間	傾聴について身近な人との間で練習する。	2 時間
	13	学校で起こる様々な問題（不登校・いじめ）について学ぶ	いじめや不登校の統計資料を読む。	2 時間	いじめを減らすための自分の考えをまとめる。	2 時間
	14	学校で起こる様々な問題（非行・その他）について学ぶ	非行の定義や内容について調べる。	2 時間	非行の子どもへの対応についてまとめる。	2 時間
	15	特別な支援が必要な児童への対応を学ぶ	特別支援が必要な児童について調べる。	2 時間	特別な支援について学校で行われる対応についてまとめる。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		毎時の感想は成績評価に一部加味しますので、積極的な記入をお願いします。試験はルーブリック評価に基づき結果を示します。				
テキストおよび参考文献		参考図書：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）東洋館出版・鎌原 雅彦ら(2016) やさしい教育心理学【第 4 版】 有斐閣アルマ 中澤 潤 (2022) よくわかる教育心理学(第 2 判) ミネルヴァ書房				
メッセージ		教育や子どもたちの抱える問題を心理学的視点から眺め、把握する力を身につけ理解を深めていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修，保育士証：必修，ピアヘルパー受験資格：必修				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。	教育心理学の理論や基礎知識について十分に説明することができる。	教育心理学の理論や基礎知識について概ね説明することができる。	教育心理学の理論や基礎知識について最低限の説明ができる。	教育心理学の理論や基礎知識について説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	20%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%
(2)教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について十分に説明することができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について概ね説明することができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法について最低限の説明ができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法について説明することができない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	内容について、自分の意見を	内容について、自分の意見を	内容について、自分の意見を	内容について、自分の意見を	毎回の授業の感想・振り返り、毎	15%

	もち、それを十分に表現することができる。	もち、それを概ね表現することができる。	もっているが、表現が不十分である。	もてず、表現できない。	回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	
(3)現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から十分に説明することができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から概ね説明することができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から最低限の説明ができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から説明することができない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	15%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
発達心理学 Developmental Psychology		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECUI1005	1 年次	後期	
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家 教員	
講義	2	選択	沖林 洋平				
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概要	乳児期から児童期まで各発達時期における心理的な特徴と課題を理解する。 乳幼児の運動発達・言語発達・認知発達・社会発達について理解する。 それらの背後にある環境の重要性と、相互関係について理解する。 子どもの発達における保育者の役割について理解する。						
到達目標	(1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 (2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 (3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。						
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	オリエンテーション ― 発達心理学で何を学ぶか		発達心理学の興味ある内容を調べる	2 時間	人間独自の発達過程について、まとめる	2 時間
	2	発達のしくみ ― 遺伝と環境、人間発達の特殊性		遺伝と環境による影響について考える	2 時間	発達に与える遺伝と環境の影響をまとめる	2 時間
	3	知覚の発達 ― 子どもの知覚と記憶		乳児期の子どもの知覚の特異性をまとめる	2 時間	子どもの知覚や記憶の発達についてまとめる	2 時間
	4	思考の発達 ― ピアジェの認知発達理論		ピアジェの研究について調べる	2 時間	ピアジェの発達理論の概要をまとめる	2 時間
	5	愛着 ― 母子相互作用、愛着、愛着障害		愛着とは何かについて自分の考えをまとめる	2 時間	愛着の母子相互作用についてまとめる	2 時間
	6	自己の発達 ― 自己意識の発達と自己制御		自己主張と自己制御の違いについて調べる	2 時間	発達過程と自己意識の関連についてまとめる	2 時間
	7	情動の発達 ― 情動を構成するものと情動の社会化		情動と感情の違いについて調べる	2 時間	子どもの情動の社会化のプロセスをまとめる	2 時間

	8	社会的認知の発達① — 他者理解の発達、愛他行動の発達	他者理解がどのように進むのか調べる	2 時間	自己理解と他者理解の発達についてまとめる	2 時間
	9	社会的認知の発達① — 道徳性の発達	愛他性や道徳性について調べる	2 時間	愛他性や道徳性の発達についてまとめる	2 時間
	10	言語発達① — 言葉の発達とコミュニケーションの発達	言語の発達について興味があることを調べる	2 時間	言語やコミュニケーションの発達過程を調べる	2 時間
	11	言語発達① — 書き言葉の発達	話し言葉と書き言葉の違いを調べる	2 時間	話し言葉と書き言葉の違いについて調べる	2 時間
	12	遊びの発達と友たち関係 — 子どもの遊びとは、友だち関係の発達	遊びの発達と友達関係の関連について調べる	2 時間	遊びが人の成長にどう影響を与えるかまとめる	2 時間
	13	さまざまな発達の障害① — 身体的障害、言葉の障害、発達の障害	発達障害の中から興味あるものを調べる	2 時間	各発達障害の特徴や支援法についてまとめる	2 時間
	14	さまざまな発達の障害① — 特別支援	特別支援の中で行われていることを調べる	2 時間	特別支援の興味を持った内容をまとめる	2 時間
	15	全体のまとめ	発達心理学で用いたすべての配布資料を読む	2 時間	発達心理学で学んだキーワードをまとめる	2 時間
成績評価		定期試験 (70%)、授業への取り組み (15%)、グループワーク・グループ討議 (15%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		試験の採点方法(試験の前)と得点(試験の後)について説明する。クラスルーム上に毎回のワークシートの点数やコメントをフィードバックする。				
テキストおよび参考文献		テキスト：渡辺 弥生(監修) (2021) よくわかる 発達心理学 ・適宜プリントを配布する 参考文献：向田久美子・石井正子(編) (2011) 新乳幼児発達心理学 福村出版				
メッセージなど		子どもの発達の特徴や個々の発達段階の課題について理解することによって、子どもに関する理解が深まり、子どもの発達についての関心が高まることが期待される。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：選択科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	35%
(2) 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	35%
(3) 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人と	ワークシートの全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。	ワークシートの全ての項目が、大きく間違っていない内容。	ワークシートの半数の項目が空欄か不適切な内容。	2/3 以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・思考力・表現力)	15%

の相互的関わりや体験、 環境の意義を理解する。						
(3) 乳幼児期の子どもの 学びの過程や特性につ いて基礎的な知識を習 得し、保育における人 との相互的関わりや体験、 環境の意義を理解する。	他者と自発 的・積極的に 議論や協働を 行うことが できている。	他者と自分な りに議論や協 働を行うこと ができている。	受動的ではあ るものの、他 者と議論や協 働を行うこと ができている。	他者と議論や 協働を行うこ とができいて ない。	グループワーク・ グループ討議 (関心・意欲・態 度・思考力・表現 力)	15%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別				
子ども家庭支援の心理学 Psychology of child and family support			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECUI2006		2 年次		後期				
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定		担当教員					実務家教員			
講義		2	選択		馬場 弓歌								
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。										○		
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。										○		
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。										○		
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。										○		
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。										○		
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。										○		
概要		生涯発達の視点から人の発達について、それぞれの発達段階の特徴を知ることが目的とする。また発達課題の連続性を考えながら家庭の中で育まれる人の一生を眺める視点を解説する。なかでも青年期以降の人の発達についてくわしく学び発達の連続性を知る。											
到達目標		(1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を説明することができる。また初期経験の重要性や発達課題について説明することができる。											
		(2) 家族・家庭の意義や機能を理解し、親子関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。											
		(3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができる。											
		(4) 子どもの精神保健とその課題について説明することができる。											
授業内容と進め方													
		回	授業内容				予習内容		予習時間	復習内容		復習時間	
		1	オリエンテーション				—		—	保育と家庭の繋がりについてまとめる		2 時間	
		2	生涯発達とは何か				ライフコースやライフサイクルについて調べる		2 時間	ライフコースとライフサイクルについてまとめる		2 時間	
		3	乳幼児期から学童期前期にかけての発達				乳幼児期の発達のキーワードを調べる		2 時間	乳幼児期から学童前期の発達の特徴をまとめる		2 時間	
		4	学童期後期から青年期にかけての発達				学童期～青年期の発達のキーワードを調べる		2 時間	学童期～青年期の発達の特徴をまとめる		2 時間	
		5	成人期・老年期における発達				成人期～老年期の発達のキーワードを調べる		2 時間	成人期～老年期の発達の特徴をまとめる		2 時間	
		6	子育てを取り巻く社会的状況				現代の子育てを取り巻く社会的状況を調べる		2 時間	子育てを取り巻く社会的状況の課題をまとめる		2 時間	

	7	家族・家庭の意義と機能	家族心理学について知っていることをまとめる	2 時間	家族が発達していく過程についてまとめる	2 時間
	8	親子・家族関係の理解	親子・家族関係に関する知識をまとめる	2 時間	親子関係の経時的変化についてまとめる	2 時間
	9	子育ての経験と親としての育ち	親の育ちについて身近な人にインタビューする	2 時間	子育てが親の育ちに与える影響をまとめる	2 時間
	10	多様な家庭形態とその理解	現代の多様な家庭形態の知識をまとめる	2 時間	現代の多様な家庭形態について整理する	2 時間
	11	特別な配慮を必要とする家庭	ひとり親家庭、貧困家庭への支援について調べる	2 時間	ひとり親家庭への支援の事例についてまとめる	2 時間
	12	発達支援の必要な子どものいる家庭	発達支援の必要な子どもの家庭について調べる	2 時間	家庭の支援を制度について整理する	2 時間
	13	子どもの精神保健	子どもの心身症について調べる	2 時間	子どもの心身症についてまとめる	2 時間
	14	子どもの精神保健	子どもに見られる障害について調べる	2 時間	子どもの発達障害についてまとめる	2 時間
	15	まとめ	これまでの授業で扱った内容を振り返る	2 時間	課題レポートに関する情報を集め自分の考えをまとめる	2 時間
成績評価		課題・レポート（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		クラスルーム上にワークシートの点数やコメントをフィードバックする。レポートはルーブリック評価に基づいて結果を示す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：青木紀久代（2019）シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学 みらい				
メッセージなど		これまでの自分、今の自分、これからの自分と照らし合わせながら講義の内容を深めていただけたらと思います 保育士証：必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を説明することができる。また初期経験の重要性や発達課題について	生涯発達に関する基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を十分に説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を概ね説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識を説明することができる。またその重要性や発達課題の基礎的な部分を説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識が説明できない。また、その重要性や発達課題を説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解・思考力）	20%

て説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を十分に説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識を十分に説明することができる。またその重要性や発達課題を概ね説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識を説明することができる。またその重要性や発達課題の基礎的な部分を説明することができる。	生涯発達に関する基礎的な知識が説明できない。また、その重要性や発達課題を説明することができない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%
(2) 家族・家庭の意義や機能を理解し、親子関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	家庭の意義や機能を十分に説明することができる。また発達の観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を十分に述べることができる。	家庭の意義や機能を概ね説明することができる。また発達の観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができる。	家庭の意義や機能の基礎的な部分を説明することができる。また発達の観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができる。	家庭の意義や機能を説明することができない。また発達の観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (知識・理解・思考力)	10%
	家庭の意義や機能を十分に説明することができる。また発達の観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を十分に述べることができる。	家庭の意義や機能を概ね説明することができる。また発達の観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができる。	家庭の意義や機能の基礎的な部分を説明することができる。また発達の観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができる。	家庭の意義や機能を説明することができない。また発達の観点から家庭を包括的に捉えて自分の意見を述べることができない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	10%
(3) 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について概ね説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についての基礎を説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができない。また自分の意見を述べることができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (知識・理解・思考力)	10%
	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について概ね説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についての基礎を説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明することができない。また自分の意見を述べることができない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	10%
(4) 子どもの精神保健とその課題について説明することができる。	子どもの精神保健とその課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。	子どもの精神保健とその課題について概ね説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子どもの精神保健とその課題についての基礎を説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子どもの精神保健とその課題について説明することができない。また自分の意見を述べることができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (知識・理解・思考力)	10%
	子どもの精神保健とその課題について十分に説明することができる。また自分の意見を十分に述べることができる。	子どもの精神保健とその課題について概ね説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子どもの精神保健とその課題についての基礎を説明することができる。また自分の意見を述べることができる。	子どもの精神保健とその課題について説明することができない。また自分の意見を述べることができない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目			対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
発達心理学Ⅱ（行動観察法） Developmental PsychologyⅡ（behavioral observation method）			児童教育学科 幼児教育学専攻	25ECUI2008	2 年次	後期
講義・演習・ 実技・実習・ 実験	単位 数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	馬場 弓歌			
ディプロ マ・ポリシ ーに示さ れている 学 習 成 果 と の 関 係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	私たちが行動は、その前後に付随する出来事や結果に常に影響を受けている。本授業では、応用行動分析という観察を用いた支援方法の基本と、身近な現象を用いて、行動を捉える枠組みとしての ABC 分析のやり方について、演習・ディスカッションをしながら学ぶ。					
到達目標	(1) 子どもの行動を捉えるための応用行動分析を理解し、説明することができる。					
	(2) 身近な現象について応用行動分析を用いて、観察・分析・説明できる。					
	(3) 応用行動分析を用いた支援の方法を他の人にも分かるように発表するとともに、得られた知見に基づいて、ディスカッションを行うことができる。					
授業内容 の 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーションー 応用行動分析とは何か	ー	2 時間	応用行動分析の概要をまとめる	2 時間
	2	応用行動分析の基本的知識ーABC 分析の説明ー	ABC 分析とは何かについて調べる	2 時間	ABC 分析の基本の言葉に意味についてまとめる	2 時間
	3	応用行動分析の基本的知識ー強化と弱化的説明ー	行動に影響を与える強化と弱化的を調べる	2 時間	強化と弱化的のメカニズムについてまとめる	2 時間
	4	応用行動分析の基本的知識ーモデリング・プロンプトの説明ー	行動に影響を与えるモデリング・プロンプトの説明	2 時間	モデリングやプロンプトの実例についてまとめる	2 時間
	5	登園時に泣いてしまう子への支援	登園時に泣く子どもの事例を調べる	2 時間	登園時に泣く子の ABC 分析と介入を振り返る。	2 時間
	6	遊びに消極的な子への支援	遊びに消極的な子どもの事例を調べる	2 時間	遊びに消極的な子の ABC 分析と介入を振り返る。	2 時間

	7	友達の玩具を取ってしまう子への支援	友達の玩具を取ってしまう子の事例を調べる	2 時間	友達の玩具を取ってしまう子の ABC 分析と介入を振り返る。	2 時間
	8	友達に対して危険な行動を示してしまう子への支援	友達に対して危険な行動を示してしまう子の事例を調べる	2 時間	友達に対して危険な行動を示してしまう子の ABC 分析と介入を振り返る。	2 時間
	9	「ダメ」と言われたことをする子への支援	「ダメ」と言われたことをする子の事例を調べる	2 時間	「ダメ」と言われたことをする子の ABC 分析と介入を振り返る。	2 時間
	10	運動に消極的な子への支援	運動に消極的な子の事例を調べる	2 時間	運動に消極的な子の ABC 分析と介入を振り返る。	2 時間
	11	発語が少ない子への支援	発語が少ない子の事例を調べる	2 時間	発語が少ない子の ABC 分析と介入を振り返る。	2 時間
	12	場面が変わると消極的な子への支援	場面が変わると消極的な子の事例を調べる	2 時間	場面が変わると消極的な子の ABC 分析と介入を振り返る。	2 時間
	13	支持が通りづらい子への支援	支持が通りづらい子の事例を調べる	2 時間	支持が通りづらい子の ABC 分析と介入を振り返る。	2 時間
	14	集団活動から離れる子への支援	集団活動から離れる子の事例を調べる	2 時間	集団活動から離れる子の ABC 分析と介入を振り返る。	2 時間
	15	全体のまとめ	これまでの応用行動分析の授業資料を振り返る	2 時間	課題に従い、レポート作成を行う	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート (50%)、授業への取り組み (10%)、発表・ディスカッション (30%)、グループワーク・グループ討議 (10%)				
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法		毎回、テーマを取り上げ、学生・教員を含めたディスカッションを行う。ディスカッションにおいてはグループアプローチの手法を援用し、一人ひとりが自分の意見や考えを述べる場を設け、保育現場で実践を行う意識を高める。				
テキストおよび参考文献		テキスト：保育者ができる気になる行動を示す幼児への支援：応用行動分析学に基づく実践ガイドブック 参考文献：適宜資料を配布します				
メ ッ セ ー ジ な		応用行動分析は、特別な支援が必要とされる子どもへの関わりに多くの示唆を与えてくれるアプローチです。プレゼンテーションやディスカッションを中心とした授業となりますので、社会に出てからの必要なスキルを学ぶ場ともなるでしょう。 保育士証：選択科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもの行動を捉えるための応用行動分析を理解し、説明することができる。	作成資料の全ての項目が妥当な内容で詳しく記述されている。	作成資料の全ての項目が、大きく間違っていない内容。	作成資料の半数の項目が空欄か不適切な内容。	作成資料の2/3以上の項目が空欄か不適切な内容。あるいは未提出。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%
	他者と自発的・積極的に議論や協働を行うことができる。	他者と自分なりに議論や協働を行うことができている。	受動的ではあるものの、他者と議論や協働を行うことができている。	他者と議論や協働を行うことができていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度)	10%
(2) 身近な現象について応用行動分析を用いて、分析・説明できる。	十分に調べられて、説得力のある資料を作成できる。	調べられて、説得力のある資料を作成できる。	調べが不足している、説得力が不足している。	調べが全く不足している、説得力がない。	課題・レポート (知識・理解)	50%
(3) 応用行動分析を用いた支援の方法を他の人にも分かるように発表するとともに、得られた知見に基づいて、ディスカッションを行うことができる。	支援方法を十分に伝えることができるとともに、積極的にディスカッションを行うことができる。	支援方法を概ね伝えることができ、ディスカッションを行うことができる。	支援方法やディスカッションの方法を改善する必要がある。	支援方法を聞き手に伝えることができない。	発表・ディスカッション (思考力・判断力・表現力)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
子どもの理解と援助 Understanding and support of children		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECUI2007	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	中津 愛子・平田 睦美・正長 清志			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	保育士の仕事は、子どもを理解し、観察することから始まる。本科目では、子どもを理解する上で必要な視点や方法について学ぶ。また、グループ協議を通して、自分の意見を伝える態度や相手の意見を聴く態度を身につけていく。					
到達目標	(1) 実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を説明することができる。 (2) 子どもの体験や学び過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を説明することができる。 (3) 子どもを理解するための具体的な視点や方法を表現することができる。 (4) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について表現することができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	保育における子ども理解の意義 中津	子ども理解とは何かを調べる	2 時間	子ども理解の留意点をまとめる	2 時間
	2	子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開 中津	養護と教育についてまとめる	2 時間	保育の展開の留意点をまとめる	2 時間
	3	子どもに対する共感的理解と保育 中津	共感的理解とは何かを調べる	2 時間	共感を高める保育実践を考える	2 時間
	4	子どもの生活と遊び 中津	生活と遊びを通じた援助についてまとめる	2 時間	保育場面での子どもの育ちをまとめる	2 時間
	5	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 中津	子どもの発達を支える保育者の関わりを考える	2 時間	保育者の援助で遊びが充実する事例をまとめる	2 時間
	6	子どもの集団での育ち 平田	子どもが集団の中で育つことについて考えをまとめる	2 時間	事例から子どもの育ちについてまとめる	2 時間
	7	葛藤やつまずき 平田	子どもの葛藤やつまずきにはどのような場面があるか考える	2 時間	子どもの葛藤やつまずきについての対応の仕方をまとめる	2 時間

	8	保育の環境の理解と構成 平田	保育の環境と子どもの遊びについて考えをまとめる	2時間	子どもの姿から保育の環境図を考える	2時間
	9	環境の変化や移行 平田	子どもたちにとっての環境の変化や移行とはどのような場面があるか考える	2時間	提示した事例について対応の仕方をまとめる	2時間
	10	子どもを理解するための観察・記録・省察・評価 平田	子どもを理解するための方法について考える	2時間	視聴した映像の記録をまとめる	2時間
	11	職員間の対話 正長	相談援助活動の種類を調べておく	2時間	ソーシャルワークの発展過程を理解する	2時間
	12	保護者との情報共有 正長	保護者の様々なタイプを考えておく	2時間	事例から保護者の対応を考える	2時間
	13	発達の課題に応じた援助と関わり 正長	関連援助活動を調べておく	2時間	接続教育について考える	2時間
	14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助 正長	障害のある子どもの保育を考える	2時間	事例から子ども同士の気づきを理解する	2時間
	15	発達の連続性と就学への支援 正長	インクルーシブ教育とは何かまとめておく	2時間	就学前の準備を理解する	2時間
成績評価		グループワーク・グループ討議 (30%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (70%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		毎回の課題にコメントをつけて返却する。				
テキストおよび参考文献		松本峰雄(監修)『よくわかる!保育士エクササイズ8 子どもの理解と援助演習ブック』ミネルヴァ書房				
メッセージなど		子ども理解に必要な知識を習得し、さまざまな視点から子どもたちを観察する姿勢を養いましょう。 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を説明することができる。	具体例を挙げて説明することができる。	ポイントを押さえて説明することができる。	何とか説明することができる。	説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (知識・理解)	10%
(2) 子どもの体験や学び過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を説明することができる。	具体例を挙げて説明することができる。	ポイントを押さえて説明することができる。	何とか説明することができる。	説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (知識・理解)	10%

(3) 子どもを理解するための具体的な視点や方法を表現することができる。	具体例を挙げて説明することができる。	ポイントを押さえて説明することができる。	何とか説明することができる。	説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (知識・理解)	40%
(3) 子どもを理解するための具体的な視点や方法を表現することができる。	具体例を挙げて、自分の意見を相手に伝えることができる。	自分の意見を概ね相手に伝えることができる。	自分の意見を何とか相手に伝えることができる。	自分の意見を相手に伝えることができない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	20%
(4) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について表現することができる。	具体例を挙げて説明することができる。	ポイントを押さえて説明することができる。	何とか説明することができる。	説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (知識・理解)	10%
(4) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について表現することができる。	具体例を挙げて、自分の意見を相手に伝えることができる。	自分の意見を概ね相手に伝えることができる。	自分の意見を何とか相手に伝えることができる。	自分の意見を相手に伝えることができない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
臨床心理学 Clinical psychology		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECUI2009	2 年次	前期	
講義・演習・実技・ 実習・実験		単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員		実務家 教員	
講義		2	選択	馬場 弓歌			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要		社会には様々な精神疾患があり、自分自身あるいは身近な人に起こり得ることである。臨床心理学では、心理的な問題をもつ個人の状態を理解し、適切な援助を行うことを目的としている。本講義では、精神疾患の特徴と臨床心理学の理論などについて解説する。一部、ピアヘルパーに関する内容を扱う。					
到達目標		(1) 様々な臨床心理学の理論と支援方法について説明することができる。 (2) 精神疾患について理解し、特徴を説明することができる。 (3) 精神疾患についてこれまでの経験と関連づけながら理解し、表現することができる。					
授業内容 と 進め方		回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
		1	オリエンテーション、臨床心理学とは	—	—	臨床心理学で学びたいことをまとめる。	2 時間
		2	ストレスについて	自分自身のイメージするストレスについてまとめる。	2 時間	代表的ストレス理論と対処法についてまとめる	2 時間
		3	不安症	不安症について体験者の記録を調べる。	2 時間	不安症にはどのような内容があるかまとめる。	2 時間
		4	うつ病、双極性障害	うつ病と双極性障害の体験者の記録について調べる。	2 時間	うつ病と双極性障害の違いについてまとめる。	2 時間
		5	統合失調症	統合失調症の具体的事例について調べる。	2 時間	統合失調症の人への関わり方についてまとめる	2 時間
		6	心的外傷後ストレス障害	PTSD の主な症状や治療法について調べる。	2 時間	PTSD の人に関わる上での留意点をまとめる	2 時間
		7	依存症	代表的な依存症について調べる。	2 時間	身近な依存症について支援方法をまとめる	2 時間
		8	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の代表的なものと症状について調べる。	2 時間	パーソナリティ障害と愛着の関係についてまとめる	2 時間

	9	性別違和	性別違和についての見聞きしたことやニュースについて調べる。	2 時間	性別違和の人と出会ったらどうするか考える	2 時間
	10	臨床心理学の理論①：精神分析	フロイトが提唱した精神分析について調べる。	2 時間	精神分析的理論を用いて自己分析を行う。	2 時間
	11	臨床心理学の理論②：認知行動療法	ベックの提唱した認知行動療法について調べる。	2 時間	認知行動療法がどのような領域で用いられているか調べる。	2 時間
	12	臨床心理学の理論③：クライエント中心療法	ロジャースの人間性心理学について調べる。	2 時間	ロジャースの人間論について興味を持ったことをまとめる	2 時間
	13	ピアヘルパー①：カウンセリング概論	ハンドブックのカウンセリング概論についてまとめる	2 時間	代表的なカウンセリング理論の概要を整理する。	2 時間
	14	ピアヘルパー②：カウンセリングスキル	ハンドブックのカウンセリングスキルをまとめる	2 時間	受容・共感・自己一致について身近な人と練習し感想をまとめる	2 時間
	15	ピアヘルパー③：青年期の課題と留意点	ハンドブックの青年期の課題とピアヘルパーの意義をまとめる。	2 時間	ピアヘルパーを取得することでできそうなことをまとめる。	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート（25%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（75%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		毎時の課題にはコメントを書いて返却する。 レポートは、ルーブリック評価に基づいて結果を示す。				
テキストおよび参考文献		適宜、動画教材を用い、プリントや資料も配布する予定 参考図書：岩壁 茂（2020） よくわかる臨床心理学： ナツメ社 ピアヘルパーの受験希望者は、日本教育カウンセラー協会が出版しているハンドブックの購入が必要です。				
メッセージなど		本講義を通して、自分自身や周りの人のことを考えるきっかけにしてください。 保育士証：選択科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 様々な臨床心理学の理論と支援方法について説明することができる。	様々な臨床心理学の理論と支援方法の知識を十分に獲得し、それぞれの違いを比較しながら説明することができる。	様々な臨床心理学の理論と支援方法の知識を概ね獲得し、それぞれを説明することができる。	様々な臨床心理学の理論と支援方法の基礎的な知識を獲得し、それぞれを説明することができる。	様々な臨床心理学の理論と支援方法を説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（知識・理解・思考力）	25%

(2) 精神疾患について理解し、特徴を説明することができる。	各精神疾患について理解し、特徴を十分に説明することができる。	各精神疾患について理解し、特徴を概ね説明することができる。	各精神疾患について理解し、最低限の特徴を説明することができる。	各精神疾患について理解できず、特徴について説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (知識・理解・思考力)	50%
(3) 精神疾患についてこれまでの経験と関連づけながら理解し、表現することができる。	講義の内容とこれまでの経験を関連づけ、それを十分に表現することができる。	講義の内容とこれまでの経験を関連づけ、それを概ね表現することができる。	講義の内容とこれまでの経験を関連づけているが、それを表現することが不十分である。	講義の内容とこれまでの経験を関連づけることができず、表現することができない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	25%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
特別支援教育 Special Support Education		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECUI1010		1 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員				実務家 教員
講義	2	選択	竹内 幹雄				
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○
概 要	発達障害を含む様々な障害や、その他の要因により特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の心身の発達、障害の特性を理解するとともに、学習上、生活上の困難とその背景について理解する。その上で、特別の支援を必要とする幼児児童生徒が、達成感をもちながら学び、生きる力を身につけることができるよう、個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用する方法について、事例に基づき実践的に学んでいく。さらに、インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度や法令の内容を理解し、個別の教育的ニーズに対して学校における組織的な支援体制の在り方、関係機関との連携の在り方についても理解を深める。						
到達目標	(1)-1 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。 (1)-2 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。 (1)-3 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について説明できる。 (2)-1 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について説明できる。 (2)-2 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。 (2)-3 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。 (2)-4 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。 (3)-1 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間	
	1	特別支援教育の歴史について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間	
	2	特別支援教育における対象となる幼児児童生徒について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間	
	3	障害児の理解（１） 概念と就学基準について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間	
	4	障害児の理解（２） 心理と行動特性について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間	

	5	特別支援教育の場について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	6	特別支援教育の教育課程について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	7	障害児の教育支援（１）学習指導要領、指導計画の作成を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	8	障害児の教育支援（２）自立活動、日常生活の指導を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	9	障害児の教育支援（３）各教科、遊びの指導を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	10	個別の教育支援計画をもとにした教育支援について理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	11	特別支援学級における教育の実践について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	12	特別支援学校における教育の実践について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	13	障害児のライフステージと特別支援教育について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	14	障害はないが特別の教育ニーズのある幼児の把握と支援を学ぶとともに、特別支援教育のこれからについて考察する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	15	特別支援教育にかかわる専門性について考察する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
成 績 評 価	定期試験（知識・理解）（50%）、毎回の授業の態度・振り返り（意欲・思考力）（50%）					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かれた感想や質問について、代表的なものをピックアップし次の授業時にコメントする。					
テキストおよび参考文献	テキスト：「障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導」 （令和 5 年 3 月文部科学省厚生労働省内閣府）HP 参考文献：『特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部（平成 30 年 3 月 文部科学省））』					
メッセージなど	特別支援教育は、人として生きていくうえで、最も大切な教育の一つです。令和 5 年 3 月に出た資料を使って重要な情報を一緒に学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	6%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	11%
(1)-2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(1)-3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(2)-1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	6%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	11%
(2)-2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%

(2)-3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(2)-4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%
(3)-1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り（思考力）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	8%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
教育方法学 Educational Method			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM1010		1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員
演習		1	選択	加藤 浩久・平田 睦美				○
実務家教員 の詳細		教育委員会指導主事・公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。							○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。							○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。							○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。							○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。							○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。							○
概 要		「学習指導」を念頭に、授業を成立させるための要件を「目標→方法→評価」の観点から学習し、教育方法にかかる理論と実践について学習する。併せて、学校教育の今日的な課題を意識した実践者としての素養と指導力を醸成する。 また、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身につける。子どもの発達や興味・関心に応じて授業・保育の内容を考え、教育者に必要とされる教材の工夫、授業・保育の展開、教師の働きかけと援助について学ぶ。						
到達目標		(1)-1 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 (1)-2 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。 (1)-3 学級・幼児及び児童、教員、教室・保育室、教材など授業、保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。 (1)-4 育みたい資質・能力と幼児・児童理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。 (2)-1 子どもへの働きかけや援助など、授業・保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。 (2)-2 子どもの発達に応じて授業・保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、授業・保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。						
授業内容 と 進め方		回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
		1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育方法学とは何か」が明確になる。 (加藤・平田)		「今、なぜ教育方法学なのか」を読む。	2 時間	教育方法学の概要についてまとめる。	2 時間
		2	これまで多くの実践者が依拠してきた授業の基本原理と、教育方法学に流れるエスプリについて理解する。 (加藤)		自分が受けてきた授業の長所や短所を想起する。	2 時間	三つの精神を確認する。	2 時間
		3	現行の学習指導要領によって構築される教育課程の構造について理解する。 (加藤)		総則編を読む。	2 時間	教科と領域の関係を振り返る。	2 時間

	4	指導案作成の実際をもとに「授業をデザインすること」の意義について理解する。(加藤)	「第7章」を読む。	2時間	授業の一般的な構造について振り返る。	2時間
	5	教材という視点から「授業のデザイン」について理解する。(加藤)	「第8章」を読む。	2時間	教材という概念の多様性を振り返る。	2時間
	6	学習評価という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	「第9章」を読む。	2時間	目標に準拠した評価の理念と方法について振り返る。	2時間
	7	教科外活動という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	「第10章」を読む。	2時間	集団を育てることの効果の大きさを振り返る。	2時間
	8	教師(授業者)の特性という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	「第11章」を読む。	2時間	教師のスタンスによる効果と弊害についてまとめる。	2時間
	9	子どもの資質・能力を育むために、幼児教育で何が必要とされているかについて学ぶ。(平田)	幼稚園教育要領解説「序章」を読んでおく。	2時間	授業資料を読み直し「幼児期に育てたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について振り返る。	2時間
	10	遊びの重要性を理解し、遊びを充実させるための教師の援助や環境構成について理解する。(平田)	幼稚園教育要領解説の「教育の基本」を読み、教師の役割について考えをまとめる。	2時間	授業で提示した1日の保育についての環境構成と教師の援助をまとめる。	2時間
	11	授業・保育を展開するための教材について検討する。(平田)	授業や保育における教材の重要性について考えておく。	2時間	ペープサートまたはパネルシアターのお話を考える。	2時間
	12	教材を作成し、その使い方や演じ方について学ぶ。(平田)	制作するペープサートまたはパネルシアター作成に必要なものを考え準備をする。	2時間	ペープサート・パネルシアターを作成する。	2時間
	13	子どもの実態に応じたねらいや内容を考え、指導案を立案し、模擬保育を行う。(平田)	模擬保育の指導案を考えておく。	2時間	ペープサートまたはパネルシアターの練習をする。	2時間
成績評価	14	実践を通し、反省・評価・改善を反映させた指導計画の立案について理解する。(平田)	指導案を再構成する。	2時間	模擬保育を振り返り、改善点をまとめる。	2時間
	15	子どもに育みたい資質・能力に基づいた評価について学ぶ。また、全15回の学習内容を振り返り、教育方法についての理解を深める。(加藤・平田)	これまでの授業資料を読み直す。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	定期試験(40%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ(30%)、課題・レポート(30%)、					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。				

テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）』東洋館出版 文部科学省『幼稚園教育指導資料第 5 集』チャイルド本社
メ ッ セ ー ジ な ど	教壇に立って役に立つ理論や方法を模擬授業的に学習する授業です。グループ討議やグループでの教材作成、模擬保育などの保育実践を行い、学生の主体的な学びを重視します。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-3) 学級・幼児及び児童、教員、教室・保育室、教材など授業、保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(1)-4) 育みたい資質・能力と幼児・児童理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験（知識・理解）	10%
(2)-1) 子どもへの働きかけや援助など、授業・保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている	大きな間違いがなく、基本を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	身についていない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（技能・判断力・表現力）	30%
(2)-2) 子どもの発達にに応じて授業・保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、授業・保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	子どもの発達にほぼ即した内容の指導案が作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本をおさえて作成できる。	作成できていない。	指導案（思考力・表現力）	30%

授業科目			対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 Theory and method of education utilizing information and communication technology			児童教育学科 幼児教育学専攻	25ECCM1011	1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	寺本 公思			
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	日々進化する ICT 機器を活用した授業実践は児童の情報活用能力の育成には不可欠である。そのため、教師を目指す学生は ICT 機器について十分理解する必要がある。この授業では情報通信機器を効果的に活用した学習指導や校務の推進と児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。					
到達目標	(1) 様々な ICT 機器について理解する。					
	(2) 授業の目標実現に最適な ICT を活用した授業計画を立てることができる。					
	(3) 授業において ICT 機器を活用できる実践力を養う。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を開始した。					
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、情報通信技術の活用について学ぶ	ICT 機器の活用について調べる	2 時間	ICT 機器の活用についてまとめる	2 時間
	2	情報通信技術を効果的に活用した指導の実践例について学ぶ	ICT 機器を活用した指導例について調べる	2 時間	ICT 機器を活用した指導例についてまとめる	2 時間
	3	情報通信技術を効果的に活用した教材の作成について学ぶ	ICT 機器を活用した教材について調べる	2 時間	ICT 機器を活用した教材についてまとめる	2 時間
	4	ICT 機器を使った授業での情報モラルについて理解する	ICT機器を使った情報モラルについて調べる	2 時間	ICT機器を使った情報モラルについてまとめる	2 時間
	5	教育情報セキュリティの重要性について学ぶ	教育での情報セキュリティについて調べる	2 時間	情報セキュリティについてまとめる	2 時間
	6	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（国語・社会）	ICT 活用の指導実践について調べる(国語・社会)	2 時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間

	7	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（算数・理科）	ICT 活用の指導実践について調べる(算数・理科)	2 時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間
	8	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（外国語・総合的な学習の時間）	ICT 活用の指導実践について調べる(外国語・総合学習)	2 時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間
	9	児童に情報通信機器の基本的な操作を身に付けさせるための指導法について学ぶ	ICT機器の基本操作の指導法について調べる	2 時間	ICT機器の基本操作の指導法についてまとめる	2 時間
	10	特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用について学ぶ	特別の支援を必要とする児童に対するICT機器の活用について調べる	2 時間	特別の支援を必要とする児童に対するICT機器の活用についてまとめる	2 時間
	11	遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を学ぶ	遠隔授業やオンライン教育について調べる	2 時間	遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについてまとめる	2 時間
	12	学習履歴（スタディ・ログ）など教育データの活用法について学ぶ	教育データの活用について調べる	2 時間	教育データの活用についてまとめる	2 時間
	13	情報通信技術を活用した統合型校務支援システムについて学ぶ	ICTを活用した校務支援システムについて調べる	2 時間	ICTを活用した校務支援システムについてまとめる	2 時間
	14	学校における情報通信技術環境の整備における外部人材や外部機関との連携について学ぶ	ICT環境の整備における外部人材等の活用について調べる	2 時間	ICT環境の整備における外部人材等の活用についてまとめる	2 時間
	15	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進についてのまとめ	ICT機器を効果的に活用した事例について調べる	2 時間	ICT機器を効果的に活用した事例についてまとめる	2 時間
第 6 回、7 回、8 回に、幼児との体験との関連を考慮し、情報通信機器を活用して効果的に教材等を作成、提示する方法を学ぶ内容を取り入れる。						
成 績 評 価		授業への取り組み（30%）、プレゼンテーション(40%)、提出物（30%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		調査レポートなどの返却によるフィードバック。レポートなどは、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：自作プリント、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）				
メ ッ セ ー ジ な		ICT 機器の活用はこれからの教育にとって必須であり、様々な機器についての理解を深めてほしい。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)様々なICT機器について理解する。	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	課題・レポート (知識・理解)	10%
	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	授業への取り組み (知識・理解)	15%
(2)授業の目標実現に最適なICTを活用した授業計画を立てることができる	ICT機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器について概ね理解ができており、事業計画を十分に実践することができる。	ICT機器について理解が不十分であり、授業計画実践することが出来ない。	課題・レポート (関心・意欲・理解・思考力)	10%
	ICT機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT機器について概ね理解ができており、事業計画を十分に実践することができる。	ICT機器について理解が不十分であり、授業計画実践することが出来ない。	授業への取り組み (関心・意欲・理解・思考力)	15%
(3)授業においてICT機器を活用できる実践力を養う。	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	課題・レポート (関心・意欲・理解・思考力)	10%
	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	発表・プレゼンテーション等 (関心・意欲・理解・思考力)	40%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
情報処理実習 I Information Processing Practice I		児童教育学科 幼児教育学専攻		25EPIE1001	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
実習	1	選択	寺本 公思			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	日常生活や諸活動における情報活用の基本的な知識について理解するとともに、ワープロソフトウェアを利用した基本的・応用的文書の作成ができ、教育活動での活用ができる。					
到達目標	(1) 基本的・応用的文書の作成ができる。 (2) 教育活動に活用できる文書の作成ができる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	ガイダンス、オペレーティングシステムの概要	テキスト 4 ページから 23 ページを読んでおく。	2 時間	OS の基本操作を復習する。	2 時間
	2	文書の作成①－文字入力Ⅰ－	テキスト 24 ページから 43 ページを読んでおく。	2 時間	文字の入力方法の復習をする。	2 時間
	3	文書の作成②－文字入力Ⅱ－ －複写・削除・移動－	テキスト 44 ページから 65 ページを読んでおく。	2 時間	文字の入力や削除等の復習をする。	2 時間
	4	文書の作成③－編集機能－	テキスト 66 ページから 81 ページを読んでおく。	2 時間	文書編集方法を復習する。	2 時間
	5	文書の作成④－表の編集－ －問題演習－	テキスト 82 ページから 85 ページを読んでおく。	2 時間	表の編集方法を復習する。	2 時間
	6	文書の作成⑤－画像の活用－	テキスト 86 ページから 94 ページを読んでおく。	2 時間	画像の活用方法について復習する。	2 時間
	7	文書の作成⑥－ワードアート－	テキスト 95 ページから 101 ページを読んでおく。	2 時間	ワードアートについて復習する。	2 時間
	8	文書の作成⑦－図形描画－	テキスト 102 ページから 111 ページを読んでおく。	2 時間	図形描画方法について復習する。	2 時間

	9	文書の作成⑧ースマートアートー	テキスト112ページから121ページを読んでおく。	2時間	スマートアートについて復習する。	2時間
	10	文書の作成⑨ー文書の作成演習ー	テキスト122ページから123ページを読んでおく。	2時間	文書の作成方法について復習する。	2時間
	11	文書作成応用①ー差し込み印刷ー	テキスト124ページから137ページを読んでおく。	2時間	差し込み印刷について復習する。	2時間
	12	文書作成応用②ーグラフー	テキスト138ページから145ページを読んでおく。	2時間	グラフ作成方法を復習する。	2時間
	13	文書の作成総合演習	テキスト146ページから149ページを読んでおく。	2時間	授業時の演習について復習する。	2時間
	14	インターネットの活用	テキスト150ページから163ページを読んでおく。	2時間	授業時のインターネットについて復習する。	2時間
	15	配布物の作成	テキスト164ページから179ページを読んでおく。	2時間	授業時の配布物の作成方法を復習する。	2時間
成績評価		課題提出(40%)、授業への取り組み(60%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：「30時間でマスター Word2019」 実教出版企画開発部 編 実教出版				
メッセージなど		小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的・応用的文書の作成ができる。	ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。	基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。	基本的・応用的文書の作成ができていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度・技能・思考力)	30%
	ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。	基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。	基本的・応用的文書の作成ができていない。	提出課題(知識・理解・技能)	20%
(2) 教育活動に活用できる文書の作成ができる。	ほぼ完璧に教育活動に活用できる文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、教育活動に活用できる文書の作成ができる。	基本的な文書の作成はできるが、各種機能を利用した表文書の作成ができていない。	基本的な文書や各種機能を利用した表の作成ができていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度・技能・思考力)	30%
	ほぼ完璧に教育活動に活用できる文書の作成ができて	大きな間違いがなく、教育活動に活用できる文書の作成ができて	基本的な文書の作成はできるが、各種機能を利用した	基本的な文書や各種機能を利用した文書の作成ができて	提出課題(知識・理解・技能)	20%

	る。	成ができる。	文書の作成が できていな い。	ていない。		
--	----	--------	-----------------------	-------	--	--

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
情報処理実習Ⅱ Information Processing Practice Ⅱ		児童教育学科 幼児教育学専攻		25EPIE1002	1 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
実習	1	選択	寺本 公思				
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要	表計算ソフトの基礎的な知識と技術について理解するとともに、各機能の操作及び演習を行いながら基本的なワークシートの作成、グラフ、データベースの活用法等について理解する。 次にプレゼンテーションの重要性や基礎的な知識と技術について理解するとともに、プレゼンテーションソフトを活用した資料作成方法や効果的なプレゼンテーション技法について理解する。						
到達目標	(1) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。 (2) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。 (3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。						
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	表の作成① -データ入力-		テキスト 96 ページから 111 ページを読んでおく。	2 時間	データ入力方法を復習する。	2 時間
	2	表の作成② - 基本的なワークシート編集 -		テキスト 112 ページから 117 ページを読んでおく。	2 時間	ワークシートの作成方法を復習する。	2 時間
	3	表の作成③ -関数・セル参照・罫線・行の挿入-		テキスト 120 ページから 137 ページを読んでおく。	2 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	2 時間
	4	表の作成④ - グラフ -		テキスト 142 ページから 148 ページを読んでおく。	2 時間	表のグラフ作成方法を復習する。	2 時間
	5	表の作成⑤ - 条件判定と順位付け・検索関数 -		テキスト 152 ページから 166 ページを読んでおく。	2 時間	条件判定方法や順位付けを復習する。	2 時間
	6	表の作成⑥ - 総合問題① -		表の作成①から⑤の復習をしておく。	2 時間	授業時の総合問題を復習する。	2 時間
	7	表の作成⑦ - 総合問題② -		表の作成①から⑤の復習をしておく。	2 時間	授業時の総合問題を復習する。	2 時間
	8	ガイダンス スライドの作成① - 文字修飾と図形の活用 -		テキスト 194 ページから 209 ページを読んでおく。	2 時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	2 時間

	9	スライドの作成②ーグラフの活用ー	テキスト210ページから217ページを読んでおく。	2時間	授業時のグラフの活用方法を復習する。	2時間
	10	スライドの作成③ー表の活用と画像の挿入ー	テキスト218ページから225ページを読んでおく。	2時間	授業時の表の活用方法を復習する。	2時間
	11	スライドショーと資料作成	テキスト232ページから239ページを読んでおく。	2時間	スライドショーと資料作成について復習する。	2時間
	12	発表用スライドの作成	スライドの作成条件を確認し、構成を考えておく。	2時間	発表の意図が伝わるスライドになっているか確認する。	2時間
	13	レジュメと発表用原稿の作成	レジュメと発表用原稿の作成について準備しておく。	2時間	発表のリハーサルを行う。	2時間
	14	発表①	発表のリハーサルをしておく。	2時間	発表の評価を整理する。	2時間
	15	発表②	発表のリハーサルをしておく。	2時間	発表の評価を整理する。	2時間
成績評価		課題・レポート(20%)、授業への取り組み(60%)、発表・プレゼンテーション(20%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		演習課題の達成度から学生の知識・理解度を確認し、演習内容を検討し、目標達成を目指す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：「30時間でマスター Office2019」 実教出版企画開発部 編 実教出版				
メッセージなど		小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。	基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度・技能・思考力)	30%
	ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。	基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。	提出課題(知識・理解・技能)	20%

(2) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。	とても分かりやすい資料の作成ができる。	分かりやすい資料の作成ができる。	最低限の資料作成ができる。	資料の作成ができていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・技能・思考力)	30%
(3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。	とても正確で分かりやすい発表ができる。	正確で分かりやすい発表ができる。	最低限の発表ができる。	発表ができていない。	発表・プレゼンテーション (意欲・態度・技能・表現力・創造性)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児教育課程論 Curriculum Theory for kindergarten		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECBE1011	1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家教員
講義	2	選択	中原 久子			○
実務家教員の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	乳幼児の保育は、生涯にわたる「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、「教育課程」「保育課程」を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢別の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を学ぶ。					
到達目標	(1)-1 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。 (1)-2 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。 (2)-1 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。 (2)-2 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。 (2)-3 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。 (2)-4 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。 (3)-1 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。 (3)-2 “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。					
授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	幼稚園教育の基本・目標及び今日の幼児教育の在り方について	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	2	幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”について	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	3	幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取扱いについて	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	4	「教育課程」「保育課程」について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間

	5	「教育課程」「保育課程」から「指導計画」作成の基本とその方法を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	6	乳児の特徴と指導計画について学ぶ(0～1・2歳児)	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	7	3歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	8	3歳時の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	9	4歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	10	4歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	11	5歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	12	5歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	13	幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントとPDCAサイクルについて理解する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	14	指導計画と教育課程・保育課程の評価について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
	15	生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園・保育所の要録について学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	2時間	自分なりのまとめノートを作る	2時間
成績評価		定期試験(21%)、課題・レポート(17%)、指導案(12%)、教材作成(7%)、授業への取り組み(12%)、グループワーク・グループ討議(12%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(19%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		提出課題にコメントを添えて返却する				
テキストおよび参考文献		テキスト：・幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 参考文献：『保育課程論』加藤敏子・岡田耕一 編著 (萌文書林)				
メッセージなど		幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所における教育課程、全体的な計画の意義やその成り立ちを理解し、年間の指導計画や、月や週の指導計画、年齢ごとの子どもの発達や様子などに触れながら、“保育の連続性”について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (関心・意欲・知識・理解・思考力)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (判断力・表現力・問題解決力)	7%
(1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・思考力・表現力)	5%
	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度・思考力・表現力)	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (関心・意欲・知識・理解・表現力)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・知識・理解・表現力)	7%
(2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート (関心・意欲・態度・知識・理解)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・知識・理解)	5%
(2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案 (関心・意欲・態度・知識・理解)	7%
	ほぼ完璧な教材を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた教材を作成できる。	最低限の基本を踏まえた教材を作成できる。	作成できていない。	教材作成 (思考力・判断力・表現力・創造性)	7%
(2)-4) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・知識・理解)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (関心・意欲・態度・知識・理解)	7%

(3)-1) 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・理解・表現力・創造性)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・理解・表現力・創造性)	7%
(3)-2) “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧に指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート (関心・意欲・理解・思考力・表現力)	5%
	ほぼ完璧に指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	指導案 (関心・意欲・理解・思考力・表現力)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児指導法 Infant Teaching Method		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC1012	1 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家 教員
講義	2	選択	中津 愛子			
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概要 保育内容の指導法（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の基本を学び、5領域のねらいが総合的に達成されるために 幼児の自発的な活動としての遊びを通して総合的に指導するという幼稚園教育の基本について学ぶ。 子どもの興味・関心や発達段階に応じて指導するための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。						
到達目標 (1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。 (1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。 (1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。 (1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。 (2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。 (2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。 (2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 (2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。 (3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 (3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。 (3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。						
授業内容と進め方 山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。						
回	授業内容		予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	幼児期の特性を踏まえ、遊びを通して指導するという幼児教育の基本となる考え方を学ぶ。		幼児期に経験した遊びを考えてくる	2 時間	幼児期の特性、遊びと学びの繋がりをまとめる	2 時間
2	子どもが身近な環境に関わり、発達に関わる経験をどのように行っているのか、保育現場の映像を観て理解する。		戸外遊びと室内遊び、それぞれの遊びの環境を考えてくる	2 時間	学校教育法に示されている幼稚園に関する内容をまとめる	2 時間

3	子どもの主体的な活動が発展するための環境構成の意義について、保育場面の映像を通して理解する。	子どもが遊んでみたくなる環境を考えてくる	2時間	幼稚園教育の基本をまとめる	2時間
4	環境を構成する人、物、自然等の要素と教材の工夫について、グループ討議を行ない、理解を深める。	幼児期の特性と幼稚園教育の役割を読んでおく	2時間	主体的に環境に関わって遊ぶための工夫をまとめる	2時間
5	子どもの育ちと5つの領域の「ねらいと内容」のつながりを学ぶ。	5つの領域とは何かを調べてくる	2時間	幼稚園教育で育みたい3つの資質・能力をまとめる	2時間
6	遊びの展開を考慮した援助の基本について、保育場面の映像を通して理解する。	幼稚園教育要領を読み、教師の役割を調べてくる	2時間	遊びが充実するための教師の役割をまとめる	2時間
7	幼稚園の教諭にインタビューを行い、子どもの生活・遊びに関わる教師の役割、クラス運営の実際を理解する。	幼稚園教育の基本に関して重視する事項を調べてくる	2時間	遊びを通して総合的に指導するとは何かをまとめる	2時間
8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と活動のつながりを理解する。	幼児期の終わりに育ってほしい姿を調べてくる	2時間	一人一人に応じるための教師の姿勢についてまとめる	2時間
9	幼稚園と小学校が連携して行っている活動実践を観察し、小学校への接続が円滑に行われるための重要事項について学ぶ。	幼稚園と小学校の違いを考えてくる	2時間	幼児期の終わりに育ってほしい姿が小学校につながる過程をまとめる	2時間
10	保育現場の映像を通して幼児教育における教育課程・指導計画の基本を学ぶ。	教育課程とは何かを調べてくる	2時間	幼稚園教育要領をもとに指導計画とは何かをまとめる	2時間
11	長期の指導計画と短期の指導計画を理解し、子どもの発達に応じて指導計画を立案し教材を活用するための基本を学ぶ。	幼稚園教育要領をもとに指導計画立案の基本を読んでくる	2時間	指導計画を立案する	2時間
12	指導計画の作成における環境の構成と教材の工夫について理解する。	保育に必要な教材の準備をしてくる	2時間	模擬保育の教材作成を行う	2時間
13	模擬保育の実践の準備を行ない、子どもの活動を見通した具体的な援助方法についてグループ討議をし、教材の作成や選択を行なう。	保育を行う環境、活動の流れを考えてくる	2時間	模擬保育の練習を行う	2時間
14	グループで模擬保育を実践する（ビデオ録画の方法を身につける）。	模擬保育の練習を行う	2時間	模擬保育の実践後の感想をまとめる	2時間
15	録画映像を再生して模擬保育の振り返りと評価を行ない、改善点を話し合う。	模擬保育の反省・改善点を考えてくる	2時間	模擬保育の指導計画の修正を行う	2時間

成 績 評 価	定期試験 (40%)、課題・レポート (30%)、授業への取り組み (16%)、グループワーク・グループ討議 (14%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。
テキストおよび参考文献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、 文部科学省『幼稚園教育要領解説』チャイルド本社 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第 5 集』チャイルド本社
メッセージなど	グループ討議や模擬保育を取り入れたアクティブラーニング型の授業です。遊びを通して指導するとは何かを考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%

(2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身につけ、工夫もできる。	環境構成の基本は身につけ、教材の工夫もできる。	工夫する力は努力を要すが、環境構成の基本は身につけた。	身につけていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	8%
	環境を構成する力をほぼ完璧に身につけ、工夫もできる。	環境構成の基本は身につけ、教材の工夫もできる。	工夫する力は努力を要すが、環境構成の基本は身につけた。	身につけていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度)	7%
(3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	30%
(3)-3) 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。	導入からまとめまで、集団と個に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	集団と個に対応する力は、部分的には身に付けている。	模擬保育は実践したが、集団と個への対応は努力を要す。	模擬保育を実践していない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	8%
	導入からまとめまで、集団と個に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	集団と個に対応する力は、部分的には身に付けている。	模擬保育は実践したが、集団と個への対応は努力を要す。	模擬保育を実践していない。	グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度)	7%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
保育内容総論 Foundations of Contents of Child Care		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCM2011	2 年次	前期
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	中津 愛子・平田 睦美			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	養護と教育が一体となって展開される保育の基本について学び、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識して、具体的な保育のねらいと内容を考えるための基礎的な力を養う。子どもの発達や興味・関心に応じた指導案作成、環境構成を行う。指導計画に基づき、グループで模擬保育を実践し、実践後の評価を行なうことで、計画の改善を図るまでの過程を学ぶ。					
到達目標	(1) 保育所保育指針に示されている「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」を関連付けて説明できる。 (2) 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体構造を説明できる。 (3) 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景と保育内容の歴史的変遷について述べることができる。 (4) 養護と教育が一体となった保育を展開するために、子どもの自発的な活動の基盤となる環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を理解し、保育実践に応用することができる。 (5) 保育の多様な展開について具体的に述べることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解する 中津	保育所保育指針の構成を調べ、第1章を読む	2 時間	保育所保育指針の意義をまとめる	2 時間
	2	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景を学ぶ 中津	保育所保育指針の変遷を調べる	2 時間	改訂のポイントをまとめる	2 時間
	3	子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本を学ぶ 平田	保育所保育指針の第1章を読む	2 時間	乳児と幼児の保育の内容をまとめる	2 時間
	4	養護と教育が一体となって展開する保育について学ぶ 平田	保育所保育指針の第1章を読む	2 時間	養護と教育の内容をまとめる	2 時間
	5	保育場面の観察を通し、子どもの主体性を尊重する保育の展開を学ぶ 平田	保育所保育指針の第1章を読む	2 時間	子ども理解のポイントをまとめる	2 時間
	6	子どもの発達や生活の連続性を踏まえた保育の展開を考え、指導計画を作成する 中津・平田	保育所保育指針の指導計画作成上の留意点を読む	2 時間	指導案の作成	2 時間

	7	養護と教育が一体となった保育を展開するための環境構成、教材作成を行う 中津・平田	保育の計画	2 時間	教材作成	2 時間
	8	子どもの自発的な活動を支えるための保育者の援助についてグループで検討する 中津・平田	保育実践の準備	2 時間	指導案の作成	2 時間
	9	子どもの活動を予想しながら、遊びを通して総合的に保育する際の留意点を考える 中津・平田	保育実践の準備	2 時間	教材作成	2 時間
	10	学生同士で模擬保育を行ない、個と集の発達を踏まえた保育について実践的に学ぶ 中津・平田	保育実践の準備	2 時間	実践の振り返りレポート	2 時間
	11	模擬保育を振り返り、グループ内で自己評価を行い、改善点を話しあう 中津・平田	保育実践の反省	2 時間	実践の振り返りレポート	2 時間
	12	保育実践を振り返り、改善点をもとに新たな指導計画を作成する 中津・平田	実践をもとに改善点を考える	2 時間	修正した指導案の作成	2 時間
	13	保育の多様な展開 ー長時間の保育、病児保育、保護者のニーズに即した保育とはー 中津	保護者の保育ニーズに関する文献を調べる	2 時間	保護者の保育ニーズをまとめる	2 時間
	14	保育の多様な展開 ー多文化共生の保育・特別な配慮を必要とする子どもの保育ー 中津	多文化共生の保育を調べる	2 時間	多文化共生の保育上の留意点をまとめる	2 時間
	15	家庭や地域、小学校との連携を踏まえた保育の実践の DVD を視聴し、具体的に学ぶ 平田	小学校との連携事例の文献を読む	2 時間	小学校と連携した保育の案をまとめる	2 時間
成 績 評 価	定期試験 (45%)、課題・レポート (20%)、指導案 (20%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (15%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の復習プリントはコメントを書いて返却する。ルーブリックによる成績評価を配布する。					
テキストおよび参考文献	テキスト：授業の事前配布資料。 参考文献：開仁志 編著「保育指導案 大百科事典」一藝社 森上史朗・大豆生田啓友 編「よくわかる保育原理」ミネルヴァ書房 出雲美枝子著「実習おまかせ Book」ひかりのくに					
メ ッ セ ー ジ な	指導案の作成、教材作成、保育実践は、少人数グループでの演習としますので、それぞれの学生が積極的にアイデアを出し実践するようにしてください。 保育士証：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 保育所保育指針に示されている「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」を関連付けて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(2) 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体構造を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(3) 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景と保育内容の歴史の変遷について述べることができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(4) 養護と教育が一体となった保育を展開するために、子どもの自発的な活動の基盤となる環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を理解し、保育実践に応用することができる。	環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を十分に生かした模擬保育が実践できる。	環境構成、教材準備、保育者の援助の基本をほぼ理解して模擬保育が実践できる。	環境構成、教材準備、保育者の援助についていくつか不足するところがあるが、模擬保育が実践は実践した。	模擬保育を実践していない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (技能・表現力・判断力)	15%
					指導案 (思考力・表現力)	20%
(5) 保育の多様な展開について具体的に述べることができる。	保育の多様な展開について現状を正しく理解したうえで、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育の多様な展開の現状についてほぼ誤りなく認識し、大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	保育の多様な展開についての認識にいくつか誤りがあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
保育内容の指導法（健康） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Health)		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC2011	2 年次	通年
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	佐伯 里英子			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	幼児期の子どもの発達のあり方を、幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容を基本に深く考察する資質・能力を身に付ける。同時に、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、健康領域の面から実践的に考察する資質・能力を身に付ける。					
到達目標	(1)-1 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。					
	(1)-2 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。					
	(2)-1 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べることができる。					
	(2)-2 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。					
	(3)-1 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。					
	(3)-2 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。					
	(3)-3 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。					
	(3)-4 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。					
	(3)-5 運動あそびと「幼児教育のキーワード」10項目の内容との関連性を述べることができる。					
	(4)-1 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べることができる。					
(4)-2 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べることができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	子どもの身体と機能の発達 (呼吸器)	授業にかかわる、 子どもの身体の名 称、機能を調べる。	2 時間	授業内容のポイント となるところを まとめる。	2 時間
	2	子どもの身体と機能の発達 (循環器)	授業にかかわる、 子どもの身体の名 称、機能を調べる。	2 時間	授業内容のポイント となるところを まとめる。	2 時間
	3	子どもの身体と機能の発達 (体温調節)	授業にかかわる、 子どもの身体の名 称、機能を調べる。	2 時間	授業内容のポイント となるところを まとめる。	2 時間

4	子どもの身体と機能の発達 (消化器)	授業にかかわる、 子どもの身体の名 称、機能を調べる。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
5	子どもの身体と機能の発達 (排尿・泌尿器)	授業にかかわる、 子どもの身体の名 称、機能を調べる。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
6	子どもの身体と機能の発達 (生殖器)	授業にかかわる、 子どもの身体の名 称、機能を調べる。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
7	子どもの身体と健康安全 (熱中症)	熱中症について調 べる。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
8	子どもの身体と健康安全 (擦り傷・切り傷)	子どものけがにつ いて調べる。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
9	子どもの身体と健康安全 (骨折)	子どものけがにつ いて調べる。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
10	子どもの身体と健康安全 (感染症)	子どもの感染症に ついて調べる。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
11	子どもの身体と健康安全 (アレルギー)	子どものアレルギー について調べる。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
12	子どもの身体と健康安全 (誤飲・誤嚥)	子どもの誤飲・誤 嚥について調べる。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
13	子どもの身体と健康安全 (いじめ)	いじめについて調 べる。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
14	子どもの身体と健康安全 (虐待)	虐待について調べ る。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
15	前期の学びのまとめ	前回の配布資料を 読んで復習。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
16	保育実習中に事例から、子どもの 発達課題、健康課題を考える。	保育実習中の記録 や資料を読んでお く。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
17	発達課題、健康課題への対応	保育実習中の記録 や資料を読んでお く。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
18	ケガをしにくいからだづくり (子どものケガの現状)	保育実習中の記録 や資料を読んでお く。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
19	ケガをしにくいからだづくり (遊びやからだづくりの取り組み)	保育実習中の記録 や資料を読んでお く。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
20	子どもの発達を促す遊び	保育実習中の記録 や資料を読んでお く。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間
21	子どもの発達を促すリズム遊び	保育実習中の記録 や資料を読んでお く。	2 時間	授業内容のポイン トとなるところを まとめる。	2 時間

	22	子どもの発達を促すリズム遊び	子どものリズム遊びについて調べる。	2 時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	23	リズム遊びの発表	子どものリズム遊びについて調べる。	2 時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	24	改めて子どもの「からだ」を知る (からだの名称・機能)	子どもの身体について調べる。	2 時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	25	子ども自身が自分の身体や健康を知るためのカルタづくり	これまで学んだことからテーマを考える。	2 時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	26	子どもが自分の体や健康について知るためのカルタづくり	これまで学んだことからテーマを考える。	2 時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	27	子どもが自分の体や健康について知るためのカルタづくり	これまで学んだことからテーマを考える。	2 時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	28	カルタの発表	発表の準備	2 時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	29	カルタの発表	発表の準備	2 時間	授業内容のポイントとなるところをまとめる。	2 時間
	30	健康領域終了にあたってのまとめ	これまでの学びについて、疑問点等まとめる	2 時間	これまでの配布資料等まとめておく。	2 時間
成 績 評 価	授業への取り組み (30%)、課題・レポート (20%)、定期試験 (50%)					
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法	レポートは翌週にコメントを書いて返却する。試験については必要に応じて次回に解説を行う。					
テキストおよび 参 考 文 献	・幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)、幼保連携認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省)、保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) ・吉田伊津子・砂上史子・松寄洋子『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 健康』光生館					
メ ッ セ ー ジ な ど	乳幼児期の健康に関する知識や考え方などを学び、具体的な場面で子どもの主体性や自立を支援することのできる基礎的な力をつけていきましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	ほぼ完璧に理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	大きな間違いなく理解し、説明できる。	最低限の基本は理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (知識・理解・思考力)	5%
(1)-2) 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (知識・理解・思考力)	10%
(2)-1) 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べるができる。	ほぼ完璧に理解し、具体的に述べるができる。	大きな間違いがなく基本を理解し、述べられる。	最低限の基本を理解し、述べるができる。	述べることができていない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	10%
(2)-2) 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。	幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解し実践できる。	基本的な触れ合いの中での保育のあり方を理解し、実践できる。	対話的な保育の意味を自分なりに理解し、実践できる。	実践できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力)	10%
(3)-1) 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。	評価の考え方を説明することができる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力)	10%
(3)-2) 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。	ほぼ完璧に留意点が示され、指導案を作成できる。	ある程度の留意点を理解し、指導案が作成できる。	留意点をいくつかあげて、指導案を作成できる。	指導案に留意点が反映できていない。	授業への取り組み (知識・思考力・判断力・創造性)	10%
(3)-3) 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	ある程度、説明できる。	段階的な指導があることは説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・判断力)	10%
(3)-4) 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。	自分の問いを出し、他者と協議し、発表できる。	他者と問いを出し合い、発表できる。	他者の意見を聞き、自分の考えと比較できる。	他者との意見交換・検討ができない。	授業への取り組み (意欲・思考力・表現力・協働性)	5%
(3)-5) 運動あそびと「幼児教育のキーワード」10項目の内容との関連性を述べるができる。	ほぼ完璧に関連性を述べるができる。	ある程度関連性を述べるができる。	「幼児教育のキーワード」の項目について列挙できる。	「幼児教育のキーワード」を列挙できていない。	定期試験 (知識・思考力・判断力・表現力)	10%
(4)-1) 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べるができる。	ほぼ完璧に述べるができる。	大きな間違いがなく、述べるができる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は述べられる。	述べることができていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力)	10%
(4)-2) 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べるができる。	子どもの姿や課題について、いくつも述べるができる。	大きな間違いなく、述べるができる。	1点か2点は述べることができる。	述べられていない。	課題・レポート (関心・知識・思考力)	10%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
保育内容の指導法（人間関係） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Human Relations)			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC2012	2 年次	前期	
講義・演習・実技・ 実習・実験		単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習		1	選択	平田 睦美			○	
実務家教員 の詳細		公立幼稚園園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係		(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						
		(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
		(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						
		(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
		(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						
		(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要		人間関係が人としてこの社会を生きていく上で避けて通る事のできないことであることを理解し、乳幼児からの発達にどのような環境や人とのかわりが求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育の在り方を学ぶ。						
到達目標		(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。 (1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。 (2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。 2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。 (2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかわりが重要なのか具体的に説明できる。 (3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明できる。						
授業内容 と 進め方		回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
		1	乳児期を取り巻く人間関係の現状と課題について理解する。		現代の子どものおかれている状況について、1年生の授業を基に振り返りまとめておく。	2 時間	乳幼児を取り巻く人間関係の現状と課題への対応について自分の考えをまとめる。	2 時間
		2	保育の基本と領域「人間関係」について学ぶ。		幼児期の「人とのかわり」の発達についてまとめる。	2 時間	幼児期の人とのかわりの重要性について自分の考えをまとめる。	2 時間
		3	0歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。		保育所保育指針解説 P101～P109 を読み0歳児の人間関係の発達についてまとめる。	2 時間	授業を振り返り0歳児の人間関係の育ちについてまとめる。	2 時間

	4	1, 2歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	保育所保育指針 解説 p135 ～ P144 を読んで 1. 2歳児の人間関係の発達についてまとめる。	2 時間	授業を振り返り 1, 2 歳児の人間関係の育ちについてまとめる。	2 時間
	5	3歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	3歳頃の人間関係について考えたことをまとめる。	2 時間	授業を振り返り3歳児の人間関係の育ちについてまとめる。	2 時間
	6	4歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	4歳頃の人間関係について考えたことをまとめる。	2 時間	授業を振り返り4歳児の人間関係の育ちについてまとめる。	2 時間
	7	5歳児の集団生活の中での姿と人間関係の育ちについて実践事例を通して学ぶ。	5歳頃の人間関係について考えたことをまとめる。	2 時間	授業を振り返り5歳児の人間関係の育ちについてまとめる。	2 時間
	8	子どもたちの豊かな人間関係を育む学級経営や集団づくりについて実践事例を通して学ぶ。	幼稚園教育要領 解説 P182 ～ P187 を読んで学級経営や集団づくりについて考えておく。	2 時間	学級経営や集団づくりについての要点をまとめる。	2 時間
	9	園生活の中で人とかかわりの難しい子どもへの支援の仕方について学ぶ。	実習時を思い出し、エピソードを書いておく。	2 時間	人とかかわりの難しい子どもへの対応について要点をまとめる。	2 時間
	10	園生活の中での異年齢のかかわりや地域の人々とかかわりと援助について学ぶ。	異年齢のかかわりや地域とかかわりについての活動内容を考えておく。	2 時間	地域とかかわりの活動について指導案を書く。	2 時間
	11	人間関係の育ちを支える保護者と保育者の望ましい関係について、事例を通して学ぶ。	保護者との関係づくりについて、大切なことを考え、まとめる。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、事例に対する対応を考える。	2 時間
	12	「人間関係」の育ちを支える保育の構想① 人間関係を育む指導案を作成する。	「人間関係」の育ちを支えるための活動に対しての指導案を考える。	2 時間	考えた指導案を修正する。	2 時間
	13	「人間関係」の育ちを支える保育の構想② 作成した保育案をもとに、指導と援助ポイントについて考え合う。	自分の考えた指導案について、子どもの活動と援助を見直す。	2 時間	模擬保育の準備をする。	2 時間
	14	「人間関係」の育ちを支える保育の構想③ 指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を見直し、模擬保育の準備をする。	2 時間	友達の意見を基に指導案を再構成する。	2 時間
	15	「人間関係」の育ちを支える保育の構想④ 指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を読んで、自分の考えをまとめておく。	2 時間	15回の授業振り返り「人間関係」の育ちを支える保育者の役割についてまとめる。	2 時間
成績評価		定期試験（50%）、課題・レポート（20%）、授業への取り組み（30%）				

課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	課題はコメントを書き、返却する。 レポートや試験はルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび 参 考 文 献	参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）
メ ッ セ ー ジ な ど	人として生きていく上で欠かすことのできない人とのかかわりが乳幼児期からどのように育っていくのかを具体的に学ぶ中で、保育・教育にたずさわる者としてどのように子ども、親とのコミュニケーションをとっていくか演習を交えながらすすめていきます。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	課題・レポート (思考力・判断力・問題解決力)	10%
(1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	20%
(2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	20%
(2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み (関心・意欲・態度・表現力)	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (関心・知識・理解)	20%
(3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明する。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別	
保育内容の指導法（環境） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Environment)		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC2013		2 年次	前期	
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員	
演習	1	選択	玉木 晃子				○	
実務家教員 の詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。							
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○	
概 要	幼児教育と環境、幼児の発達と環境、幼児と環境とのかかわりについて学ぶ。 自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にのかかわる力を育てるための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。							
到達目標	(1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。							
	(1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。							
	(1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。							
	(1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。							
	(2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。							
	(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。							
	(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。							
	(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。							
	(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。							
	(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。							
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容		予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	環境を通して行う保育の基本を理解する		保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説の領域「環境」を読んでおく		2 時間	配布した資料をよく読み、内容を理解する	2 時間

2	子どもが生活や遊びのなかで身近な環境とどのようにかかわりながらどんな発達をしていくか、保育映像を通して理解する	領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いを読んでくる	2 時間	3 法を比較し、領域「環境」のねらい・内容を理解する	2 時間
3	子どもが身近な環境とかかわるなかで「環境とかかわる力」の発達を支えているものについて理解する	保育指針解説第 2 章 1. 2. 3 の領域「環境」に関わる部分を読んでくる	2 時間	保育における人やものとの関わりについてまとめる	2 時間
4	環境を構成する人や物や身近な動植物とのかかわりについて実際の体験を通して具体的に理解する	春の遊びにはどのようなものがあるか、自分でどんな遊びをしてきたかまとめておく	2 時間	固定遊具や園庭での遊びの援助や配慮についてまとめる	2 時間
5	環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。－身近な素材の収集とおもちゃ製作－	子どもの周りにはどんなものがあるか調べる。廃材を集め、持参する	2 時間	作品を仕上げ、レポートを作成する	2 時間
6	環境を構成する身近な自然とのかかわりについて理解する －生物の飼育、植物の栽培－	夏の植物・虫・小動物について調べてくる	2 時間	植物の栽培に興味をもち、観察を続ける	2 時間
7	環境を構成する自然とのかかわりについて理解する 夏の遊びについて教材研究をする	遊びに必要な用具や材料を考え、用意する	2 時間	体験した遊びについて、まとめる	2 時間
8	保育における行事の種類や意義について知り、理解する	自分たちの身の周りには、どのような行事があるか調べてくる	2 時間	子どもと行事について、まとめる	2 時間
9	環境を通して行う幼児教育の教育課程・指導計画について学ぶ	保育指針解説第 1 章 3 や教育要領第 1 章 3 節を読んでくる	2 時間	保育の過程についてまとめる	2 時間
10	長期の指導計画と短期の指導計画を理解する	教育要領解説第 1 章第 4 節 3 を読んでくる	2 時間	短期指導計画（日案）を作成し、完成させる	2 時間
11	地域の施設や様々な情報、行事などに興味や関心をもち、種類や意義について理解する	地域にはどのような施設や情報があるか調べておく	2 時間	地域の施設や情報についてまとめる	2 時間
12	数量や図形、標識や文字などのかかわりについて理解する	子どもの身の周りには、どのようなものがあるか実習を通して気付いたことをまとめておく	2 時間	子どもの生活の中で、数量・図形・標識・文字とのかかわりをまとめる	2 時間
13	数量や図形、標識や文字などに関心をもつための教材とその活用方法を理解する	子どもが興味をもつ数量・図形・標識・文字に関する遊びを考える	2 時間	教材を仕上げる	2 時間
14	幼児の周りにある環境の中で、その特性や価値を知り、実際の保育の中で適切に活用できるように教材研究をする	教材研究に必要なものを調べ、準備する	2 時間	体験した遊びについてまとめる	2 時間
15	身近な情報とのかかわり、領域「環境」にかかわる現代的課題について知る	配布された資料や体験したことを見直し不十分なところを見つけておく	2 時間	領域「環境」の課題についてまとめる	2 時間

成 績 評 価	定期試験（60%）、課題・レポート（20%）、教材作成（11%）、授業への取り組み（9%）
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月 告示） 幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月） フレーベル館保育所保育指針解説（平成 30 年 3 月）フレーベル館 参考文献：小櫃智子『保育内容 領域 環境指導法』 わかば社
メ ッ セ ー ジ な ど	子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで、その活動が充実するように、興味や関心、発達の実情などに応じた適切な指導・援助のあり方について学んでいきましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	教材作成 (関心・意欲・態度)	5%

	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成 (関心・意欲・態度)	3%
	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	2%
(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成 (関心・意欲・態度)	3%
	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	2%
(3)-4) 子どもの行う活動が、個人、グループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。	個と集団に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	個と集団に対応する力は部分的に身に付けている。	多様な活動は調整できるが、個と集団への対応は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	10%
(3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。	保育のデザインを工夫する力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、保育のデザインを工夫する力を身に付けている。	環境構成の基本は身につけたが、保育のデザインを工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別	
保育内容の指導法（言葉） Teaching Methods of Child Care and Education (Language)			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECCC2014		2 年次	通年	
講義・演習・実 技・実習・実験	単位 数	卒 業 認 定	担 当 教 員					実務家 教員	
演習	2		竹内 幹雄						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。							○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。							○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。							○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。							○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。							○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。							○	
概 要	幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて、発達段階に応じて指導するための基礎知識を学ぶ。 理論と実践を結び付け、遊びを通して総合的に指導する上での適切な言葉かけや対応について学ぶ。 言葉の獲得に関わる環境構成の基本について学ぶ。 言葉の重要性を理解し、保護者や学校・地域社会との連携を深めるための基礎知識を身に着ける。								
到達目標	(1)-1 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。 (1)-2 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。 (1)-3 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。 (2)-1 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。 (2)-2 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。 (2)-3 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。 (3)-1 実社会における言葉に関する課題について理解できる。 (3)-2 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。 (3)-3 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを、事例をあげて説明できる。 (4)-1 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。 (4)-2 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。								
授業内容 と 進め方	回	授業内容			予習内容		予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	乳幼児期にふさわしい「生活」の保障について理解する。			教科書 P1～5 を読み、考えをテキストにまとめる。		2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間
	2	領域「言葉」の位置づけ、ねらい・内容・内容の取扱いについて、理解するとともに、図表にしてまとめる。			教科書 P6～17 を読み、考えをテキストにまとめる。		2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間

3	ヒトのコミュニケーションの特徴・非言語から言語への視点から、誕生から3歳ころまでの言葉の発達について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P20～29 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
4	要領・指針で大切にされていることを基に、乳児期の言葉の発達と保育における配慮について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P30～36 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
5	伝え合う言葉、考える言葉の発達、読み・書きの発達の理解を基に、乳幼児期から幼児期への言葉の発達過程をつかみ、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P37～41 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
6	集団保育への参加、クラスの一員としての役割や意識を理解の基に、個と集団との関係のなかで幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P42～43 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
7	仲間関係と言葉、言葉と思考・表現についての理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P43～47 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
8	言葉の楽しさや美しさの理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P48～50 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
9	幼児期と児童文化財について理解を深め、幼児期の言葉の発達過程についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P51～55 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
10	幼児期から児童期の言葉、接続期と言葉についての理解を基に、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P56～58 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
11	記号や文字との出会い、絵本とともに環境、文字で伝える、を理解の基に、文字環境についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P59～62 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
12	幼児期の読み書き、言葉による伝え合い、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P63～66 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
13	保・小・こ・小の接続で大切にしたいこと、言葉に関する家庭との連携、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉や小学校「国語」との関連性についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また「おてて絵本」で遊ぶ。	教科書 P67～70 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
14	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P71～77 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
15	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P78～85 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	伝え合う言葉を育むための保育環境、文字との出会いと文字環境、を理解の基に、保育環境と言葉について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P86～94 を読み、テキストに記述する。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	17	保育における絵本との出会い、発達に応じた絵本との出会い、を理解の基に、保育と児童文化財について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。また、読み聞かせのポイントをつかむ。	教科書 P95～96 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	グループの発表、読み聞かせのポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	18	伝え合う言葉を育む環境構成と指導計画、評価と改善、を理解の基に、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。また、紙芝居のポイントをつかむ。	教科書 P97～104 を読み、テキストの図にまとめる。	3 時間	グループの発表、紙芝居のポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	19	遊びや生活に必要な言葉、自分の思いを伝える言葉、出来事を他者に伝える言葉、を理解の基に、乳幼児期の遊びと生活のなかの言葉について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P105～109 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストをまとめ直す。	2 時間
	20	遊びを支える言葉、ごっこ遊びをめぐる言葉のやりとり、ルールのある遊びと言葉、を理解の基に、様々な遊びと言葉について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P62～66 を読み、テキスト P5～7 にまとめる。	2 時間	グループ発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	21	言葉のリズムや響きを感じる・楽しむ、様々な言葉遊びを楽しむ、を理解の基に、言葉のリズムや響き・言葉遊びについて、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P114～116 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	22	自分なりの言葉、言葉に対する感受性、を理解の基に、子どもの発達にふまえた遊びや生活と指導援助の実践について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P117～121 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	23	一人一人の特性に応じるために、発達障害（自閉症スペクトラム障害等）について、を理解の基に、領域「言葉」についての特別な配慮や支援を、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P122～125 を読み、テキストにまとめる	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	24	障害のある子どもの保育で大切な考え方について、行為を言葉でなぞる、生活の見通しを示す工夫―登園してからすること、を理解の基に、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や支援について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P126～130 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	25	はじめに、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、個別の指導計画の一例、を理解の基に、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P131～132 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間

	26	海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や支援、家庭や地域・関係機関（医療や福祉、保健等）との連携、を理解の基に、言葉の問題や援助について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P133～138 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
	27	言葉の環境と活動、全体的な計画、カリキュラムマネジメント、主体的・対話的で深い学び、を理解の基に、保育計画と評価について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P139～156 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	授業メモをもと に、テキストにま まとめ直す。	2 時間
	28	情報革命と社会の変化、グローバル化と英語教育、育つことが期待される姿「言葉による伝え合い」、を理解の基に、子どもが育つ社会の変化と子どもの「言葉」について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P107～114 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
	29	言わずにはいられない言葉、みんなの前で話す体験、形だけ整っている言葉、謝ると言う行為と言葉、を理解の基に、実践のなかで考えるべき課題について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P159～164 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
	30	聞き手としての保育者、話し手としての保育者、やりとりする保育者、集団生活と言葉、を理解の基に、保育者の関わりについて、ICT を活用して発表し合う。グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P123～129 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
成 績 評 価		授業への取り組み（50%）、定期試験（10%）、課題・レポート（10%）、発表・プレゼンテーション（10%）、グループワーク・グループ討議（10%）				
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法		授業の振り返りシートや試験にコメントを書き、次の授業時に返却する。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：『保育内容 言葉』 秋田喜代美・野口隆子 編著 光生館、 『幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）』、『保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）』、『幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）』				
メ ッ セ ー ジ な		乳幼児の言葉獲得過程と保育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験からともに考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目、保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-2 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	8%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・技能・思考力・判断力・表現力)	7%
(1)-3 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	3%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・技能・思考力・判断力・表現力)	2%
(2)-1 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-2 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-3 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きい、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力)	15%
	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きい、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	発表・プレゼンテーション (技能・表現力)	15%
(3)-1 実社会における言葉に関する課題について理解できる。	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	8%
	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	7%
(3)-2 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%

(3)-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	3%
	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	2%
(4)-1) 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	2%
(4)-2) 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	2%

授業科目			対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
保育内容の指導法 (表現Ⅰ (音楽・造形)) Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Expression I)			児童教育学科 幼児育学専攻	25ECCC2015	2年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	木橋 奏子・吉本 宏之			
実務家教員 の詳細						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	【音楽】豊かな感性はどのようにして生まれるのか。 授業で様々な表現活動を通し、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。 またその状況に適した応用などを学ぶ。					
到達目標	(1)-1 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。					
	(1)-2 表現を生成する過程について理解している。					
	(1)-3 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。					
	(2)-1 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。					
	(2)-2 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。					
	(2)-3 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。					
	(2)-4 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。					
授業内容 と 進め方	(2)-5 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼児と表現、音楽表現について理解する (オリエンテーション)	テキスト 3P、4P を読んでおく	2 時間	音楽表現について理解したことをレポートにまとめる	2 時間
	2	音楽を中心とした音楽劇について DVD を視聴して具体的に理解する	テキスト 5P から 7P を読んでおく	2 時間	音楽劇について理解したことをレポートにまとめる	2 時間
	3	「表現あそび」を体験し、幼児の感性と表現について学ぶ。「表現遊び」における ICT の活用法について保育場面の映像から学び、保育構想に活用するアイデアを考える	テキスト 8P、9P、 14P を読んでおく	2 時間	保育構想に活用するアイデアを考えレポートにまとめる	2 時間

4	「音あそび」を体験し、イメージ活動の基礎を学ぶ。自分たちで作った音を録音し、音の教材を作成する	テキスト 15P を読んでおく	2 時間	音の教材について理解したことをレポートにまとめる	2 時間
5	「音楽とイメージ」について考え、感情と音楽の関係について学び、ICTを用いて音楽のイメージを映像化した教材を作成する	テキスト 16P、23P、24P を読んでおく	2 時間	感情と音楽の関係について学んだことをレポートにまとめる	2 時間
6	「即興演奏」や「表現あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで言葉と動きの関連性を学ぶ	テキスト 10P、11P を読んでおく	2 時間	言葉と動きの関連性について自分の考えをまとめる	2 時間
7	「即興演奏」や「音あそび」を行い、その場面を録画しその映像を観ることで音とイメージの関係を学ぶ	テキスト 12P、13P を読んでおく	2 時間	音とイメージの関係を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
8	グループ練習。絵本からイメージする音づくりを通し想像力を高める。	テキスト 17P を読んでおく 絵本を 1 冊持つてくる。	2 時間	絵本からイメージする音づくりを通し想像力の高め方について自分の考えをまとめる	2 時間
9	グループで創作活動について指導計画を立案する。	テキスト 18P を読んでおく	2 時間	創作活動の発表に向けてグループで話し合っておく	2 時間
10	グループによる創作活動の練習①練習場面を録画し、その映像をもとに改善していく。	グループで話し合っておく テキスト 19P を読んでおく	2 時間	中間発表に向けてグループで準備・練習しておく	2 時間
11	中間発表を行い、各グループ評価しあう。発表の様子を録画し、その映像を観て自己評価と反省を行い、指導計画案を練り直す。	中間発表に向けてグループで準備・練習しておく テキスト 20P、21P を読んでおく	2 時間	中間発表を振り返り自己評価と反省を行い、レポートにまとめる	2 時間
12	グループによる創作活動の練習②録画映像をもとに最終確認	創作活動の発表に向けてグループで話し合っておく テキスト 22P を読んでおく	2 時間	創作活動の発表に向けてグループで準備し、最終確認を行う	2 時間
13	模擬保育①音楽（演奏）を中心とした活動	テキスト 25P を読んでおく	2 時間	模擬保育・音楽（演奏）を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
14	模擬保育②表現（演劇）を中心とした活動	テキスト 26P を読んでおく	2 時間	模擬保育②表現（演劇）を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
15	模擬保育の反省を行う。保育者として必要な表現力や想像力について、また、保育現場での理想的な表現活動について話し合う。	テキスト 29P、30P を読んでおく	2 時間	必要な表現力や想像力について自分の考えをまとめる	2 時間

成 績 評 価	課題・レポート（41%）、授業への取り組み（50%）、グループワーク・グループ討議（9%）
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法	音楽：振り返りシートに毎回コメントを記入し提出する。
テキストおよび 参 考 文 献	参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『幼児の音楽教育』神原雅之 鈴木恵津子他 教育芸芸術社、『うたっておどっておもちゃ箱2』鈴木 恵津子 教育芸芸術社
メ ッ セ ー ジ な ど	この授業は、受講者自身が豊かな表現力、コミュニケーション能力、を獲得するための内容です。表現力豊かな子どもを育てるには、接する保育者の想像力や表現力を磨くことが必須です。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力)	2%
(1)-2) 表現を生成する過程について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力)	2%
(1)-3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力)	5%
(2)-1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	課題・レポート (知識・思考力)	5%
	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	5%
(2)-2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	課題・レポート (知識・思考力)	8%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	7%
(2)-3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	課題・レポート (知識・思考力)	8%
	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	7%

(2)-4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	課題・レポート (知識・思考力)	10%
	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	10%
(2)-5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	課題・レポート (知識・思考力)	10%
	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	10%

概 要	【造形】保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の発達段階に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。形、色、手触りなど様々な表現方法を使って表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。					
到達目標	(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。 (1)-2) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 (1)-3) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (1)-4) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。 (2)-1) 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。 (2)-2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。 (2)-3) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。 (2)-4) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。 (2)-5) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	16	表現とは何か、その中の領域「造形表現」の意義を理解する	授業前に配付したプリントを読んでおく	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	17	表出と表現の違いを、実際の幼児作品の観察と映像を通して理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	18	遊びの中の幼児の様々な表現活動を捉え、造形表現の可能性を考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	19	0 歳～6 歳までの幼児画を観察観察し、各年齢の発達と表現の特徴を理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	20	身近な素材を用いた表現活動と保育者の援助について実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	描画材料を理解したかどうか復習し感想を書く	2 時間
	21	教材や用具・材料等の特性や発達に応じた使い方の実践について、実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	22	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	23	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

	24	映像視聴を通して乳幼児の表出、表現の背景や要因を考察し、表現における情報機器・活用法について検討する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	25	小学校の「図画工作」や様々な教科と幼児期の表現・造形教育の関連性や学びの連続性について学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	26	授業から題材を選び、豊かな感性と心を育てる「指導案」を立案する。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	27	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	28	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	29	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る③	模擬保育が出来るよう準備する	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
	30	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る④	模擬保育が出来るよう準備する	2時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2時間
成績評価	小テストや課題レポート（30%）、作品（意欲・態度・作品の完成度）（30%）、題材作成（表現力・判断力・創造性）20%、模擬授業、ロールプレイ（10%）、毎回の授業の感想と振り返り・毎回の授業課題（10%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	造形:毎回授業後に振り返りシートに記入。作品ファイルを作成し、授業後に返却し、実習にいかす。					
テキストおよび参考文献	テキスト：幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） 参考文献：林建造他『領域「表現」』国文書院					
メッセージなど	造形教育は、子どもの豊かな感性と表現を育てるものです。子どもの心を育てる造形指導法を学びましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-2) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-3) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-4) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(2)-1) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける：幼児の表現活動の特性を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きな間違いがなく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違った理解が少なく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違った理解が少なく理解し説明できる。	小テスト（知識・理解・思考力）	8%
	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きな間違いがなく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違った理解が少なく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違った理解が少なく理解し説明できる。	課題・レポート（知識・理解・思考力）	7%

(2)-2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	作品(技能・表現力・創造性・作品の完成度)	18%
	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	指導案(技能・表現力・創造性・作品の完成度)	17%
(2)-3) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し設定保育を想定した指導案を作成できる。	理解していない。指導案を作成できない。	指導案(知識・理解)	10%
(2)-4) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後、その反省点を踏まえ、改善できる。	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	計画を練ることができない。	指導案(技能・判断力・問題解決力)	5%
	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	計画を練ることができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ(技能・判断力・問題解決力)	5%
(2)-5) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。	ほぼ完璧に知識、技能、指導法を身に付けている。	大きな間違いがなく、知識、技能、指導法を身に付けている。	間違いは少しあるが、最低限の知識、技能、指導法を身に付けている。	知識、技能、指導法を身に付けていない。	教材作成(技能・表現力)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
幼児理解と教育相談 Infant Comprehension and Educational Counseling		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECUI2011		2 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員				実務家 教員
講義	2	選択	馬場 弓歌				
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○
概 要	幼児の生活や遊びの実態に即して幼児の発達を理解する。 子どもの臨床的問題について考えつまずきの要因、親子の支援について学ぶ。 発達上の問題の把握、介入方法の仕方などについて学ぶ。						
到達目標	(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。 (2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。 (3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	教育相談とは何か概要を知る		—	—	保育における教育相談の概要をまとめる。	2 時間
	2	保育や幼児教育における教育相談の必要性について学ぶ		教育相談とは何かについて調べる	2 時間	教育相談が扱う問題領域についてまとめる	2 時間
	3	子ども理解のためのアセスメントについて学ぶ		アセスメントについて調べる	2 時間	アセスメントの基本的知識をまとめる	2 時間
	4	幼・保・小の接続期の子ども理解と支援について学ぶ		接続期の問題について調べる	2 時間	幼・保・小の接続期の問題についてまとめる	2 時間
	5	カウンセリングの基礎理論について学ぶ		代表的なカウンセリング技法を調べる	2 時間	特に興味を持ったカウンセリング技法をまとめる	2 時間
	6	相談のプロセスについて学ぶ		人が誰かに相談するプロセスについて調べる	2 時間	保護者が相談しやすい環境づくりをまとめる	2 時間
	7	コンサルテーションやコーディネーションの理解と方法を学ぶ		コンサルテーションの具体的事例について調べる	2 時間	コンサルテーションとコーディネーションの違いをまとめる	2 時間
	8	カウンセリング技術（受容・傾聴・共感）に基づく子どもとの関わりについて学ぶ		カウンセリング技術を子どもに活用した事例を調べる	2 時間	カウンセリング技術を用いて友人・知人の話を聴く	2 時間

	9	保育の場で行う教育相談とそう相談体制づくりについて学ぶ	保育の現場で生じやすい相談場面について調べる	2 時間	保育園内での相談体制づくりについてまとめる	2 時間
	10	発達障害の基本について知り、気づき、対応について学ぶ	発達障害の概要・支援方法について調べる	2 時間	保育の現場での発達障害の子どもへの対応をまとめる	2 時間
	11	発達の問題への支援方法について学ぶ	その他発達の問題の概要や支援方法を調べる	2 時間	発達の問題への個と集団への支援方法をまとめる	2 時間
	12	保護者支援の実践を知りその方法を学ぶ	保護者支援の実践に当たっての実践例を調べる	2 時間	保護者支援の実践に当たっての留意点をまとめる	2 時間
	13	社会的資源について知り活用方法を学ぶ	保育を取り巻く社会資源について調べる	2 時間	子ども支援に関する各社会資源とその特徴をまとめる	2 時間
	14	カウンセラーとの協働について実例を元に学ぶ	保育の現場でカウンセラーと協働した事例を調べる	2 時間	カウンセラーと協働するために必要な知識をまとめる	2 時間
	15	幼児を取り巻く環境の今後について考える	現代社会の子どもを取り巻く環境を調べる	2 時間	現代の子ども支援にあって幼児教育が果たす役割をまとめる	2 時間
成 績 評 価		定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業内での課題は、コメントを記入し返却する。 試験の採点方法と点数をルーブリック評価に基づき示す。				
テキストおよび参考文献		幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）（参考文献）小田豊・秋田喜代美（2021）新時代の保育双書 子どもの理解と保育・教育相談[第 2 版] みらい（松本峰雄（監修）『よくわかる！保育士エクササイズ 8 子どもの理解と援助演習ブック』ミネルヴァ書房				
メッセージなど		幼児理解の必要性を知り子どもたちを取り巻く環境が子どもの成長にどのように影響しているのか教育、支援の実践について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児理解についての基本的な知識を身につける。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	15%
(2) 幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力）	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題	15%

	分に表現することができる。	ね表現することができる。	それを表現することが不十分である。		(関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	
(3) 幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	20%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
教育実習指導 Study of Practical Teaching		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECTP2002	2 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家 教員
演習	1	選択	山崎 美智子			○
実務家教員の 詳細	園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	教育実習を行うに当たり、基本的態度の形成、事前学習や準備について演習形式で進めていく。					
到達目標	(1) 教育実習の意義と目的を解釈し、実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けるとともに、事前準備を進めることができる。 (2) 設定保育の準備、指導案作成、保育実践を系統立てて行うことができる。 (3) 保育観察や実践、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション 幼稚園実習の意義・目的・幼稚園教育要領について	幼稚園実習の意義・目的について考えておく。	2 時間	幼稚園実習の自分の目標をまとめる。	2 時間
	2	年齢別保育の考え	幼児期の発達の姿について調べておく。	2 時間	幼児の発達と保育者の役割についてまとめる。	2 時間
	3	3 歳児の子どもの姿と集団遊びの実践	3 歳児の発達を理解しておく。	2 時間	授業を振り返り、3 歳児の発達についてまとめる。	2 時間
	4	3 歳児の子どもの姿と集団遊びの実践	3 歳児の遊びを調べ、発表できるようにしておく。	2 時間	授業を振り返り、3 歳児の遊びについてまとめる。	2 時間
	5	4 歳児の子どもの姿と集団遊びの実践	4 歳児の発達を理解しておく。	2 時間	授業を振り返り、4 歳児の発達についてまとめる。	2 時間

	6	4歳児の子どもの姿と集団遊びの実践	4歳児の遊びを調べ、発表できるようにしておく。	2時間	授業を振り返り、4歳児の遊びについてまとめる。	2時間
	7	5歳児の子どもの姿と集団遊びの実践	5歳児の発達を理解しておく。	2時間	授業を振り返り、5歳児の発達についてまとめる。	2時間
	8	5歳児の子どもの姿と集団遊びの実践	5歳児の遊びを調べ、発表できるようにしておく。	2時間	授業を振り返り、5歳児の遊びについてまとめる。	2時間
	9	人権教育	人権教育の必要性について考えておく。	2時間	講義を振り返り、人権教育についての自分の考えをまとめる。	2時間
	10	模擬保育の計画	実践したい保育について考えておく。	2時間	模擬保育に必要な教材を準備する。	2時間
	11	模擬保育の準備	指導案作成	2時間	指導案の再構成をする。	2時間
	12	模擬保育の実践	教材作成	2時間	模擬保育の準備	2時間
	13	模擬保育の実践	模擬保育の練習	2時間	模擬保育を振り返り、反省点を踏まえた保育を考える。	2時間
	14	模擬保育の振り返りと指導案の再計画	指導案の再構成をする。	2時間	実習に必要な設定保育を考える。	2時間
	15	授業の振り返りと幼稚園実習の準備	実習に必要なものを考えておく。	2時間	授業を振り返り、幼稚園実習の準備をする。	2時間
成績評価		課題・レポート（55%）、指導案（10%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（10%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（10%）				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振り返りに使用します。				
テキストおよび参考文献		「教育実習の手引き」山口短期大学				
メッセージなど		幼稚園教諭二種免許：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教育実習の意義と目的を解釈し、実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けるとともに、事前準備を進めることができる。	実習に必要な基本的な態度や素養を身に付け、事前準備ができている	実習に必要な基本的な態度や素養をある程度身に付けることができる	実習に必要な最低限の態度や素養を身に付けることができる	実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けることができていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解)	15%
	実習に必要な基本的な態度や素養を身に付け、事前準備ができている	実習に必要な基本的な態度や素養をある程度身に付けることができる	実習に必要な最低限の態度や素養を身に付けることができる	実習に必要な基本的な態度や素養を身に付けることができていない。	課題・レポート (関心・意欲・態度・知識・理解)	15%
(2) 設定保育の準備、指導案作成、保育実践を系統立てて行うことができる。	設定保育の準備から実践が系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が大きな間違いなく系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が最低限系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が系統立ててできない。	指導案(知識・理解・技能・判断力・表現力)	10%
					課題・レポート (知識・理解・技能・判断力・表現力)	20%
	設定保育の準備から実践が系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が大きな間違いなく系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が最低限系統立ててできる。	設定保育の準備から実践が系統立ててできない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (知識・理解・技能・判断力・協働性)	10%
(3) 保育観察や実践、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに保育の改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育観察や実践、記録、自己評価を総合し、改善点を見出すと努力したことを述べるができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができ、それを述べるができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。	課題・レポート (知識・理解・技能・判断力・表現力)	20%
	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに保育の改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育観察や実践、記録、自己評価を総合し、改善点を見出すと努力したことを述べるができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができ、それを述べるができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。		
	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに保育の改善点を見出し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	保育観察や実践、記録、自己評価を総合し、改善点を見出すと努力したことを述べるができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに、部分的には改善点を見出すことができ、それを述べるができる。	保育観察や実践、記録、自己評価をもとに改善点を見出すことができず、レポートが提出されない。	発表・プレゼンテーション(知識・技能・判断力・協働性・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
教育実習 Practical Teaching		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECTP2003	2 年次	後期 (集中)
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
実習	4	選択	木橋 奏子			
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	教育実習は、幼稚園教諭として幼稚園の現場で実際に勤務できるようにするための様々な力を実践的に身につけるためのものである。幼稚園教諭としての資質・能力について反省洞察しながら、それをより一層高めていけるように幼稚園の現場において実習を行う。					
到達目標	(1) 幼稚園教諭としての責務を自覚し、自分の修得した理論や知識を実践できる。					
	(2) 実習日誌の書式に従い、実習日誌を書くことができる。					
	(3) 実習の事後指導を通して、今後の課題を明確にすることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
		教育実習では以下のことを学ぶことができるように実習に臨む。 1 教育理論と教育実践の統合 2 幼児の発達と園生活の実態の把握 3 保育内容の研究と実践 4 クラス経営について理解を深める 5 色々な園務について、保護者会、地域社会への理解を深める 6 幼稚園教諭としての自覚 ※実習時期 2 年次 9 月から 10 月に行い 4 週間の期間とする。 ※実習先 各自が希望する幼稚園に依頼する。（依頼についての説明は、前年の 11 月～12 月に行う）	実習が開始するまでに、実習日誌の必要事項（実習生プロフィール、実習園の概要、配属クラス的环境、デイリープログラム）を書いておく。（実習が開始してからしか記入することができない場合は実習開始後に記入） 保育教材の作成を行い、練習しておく。 設定保育を行うために、教材や指導案を作成し、実践の練習をしておく。 ※予習時間は 1～2 時間		毎日、実習日誌を書く。 一日の実習を通して学んだこと、考えたことをまとめる。それをもとに翌日の実習のねらいを考える。 実習日誌は翌朝、必ず実習園の担当教諭に提出すること。 設定保育を実施した後、振り返りを行い、考察を深める。実習担当の先生（もしくは設定保育実施クラスの先生等）と振り返りを行うことが望ましい。 20 日間が終了した日に「実習を終えて」を書く。 ※復習時間は 2～3 時間	

	※その他 実習前に各園でのオリエンテーションを必ず行うこと。		
成 績 評 価	課題・レポート（30%）、その他（70%）		
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	実習先からの評価のフィードバックを行う。実習日誌は返却する。		
テキストおよび参考文献	「教育実習の手引き」山口短期大学		
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許：必修科目		

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼稚園教諭としての責務を自覚し、自分の修得した理論や知識を実践できる。	幼稚園教諭としての自覚をしっかりと持ち、習得した理論や知識を正しく実践できる。	幼稚園教諭として自覚を持ち、習得した理論や知識を大きな間違いがなく実践できる。	幼稚園教諭としてさらに自覚が必要だが、習得した理論や知識を最低限実践できる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	その他 (知識・理解・意欲・関心・態度)	60%
(2) 実習日誌の書式に従い、実習日誌を書くことができる。	用語の使用や表現の誤りがなく、詳しく丁寧に書いており、他の学生の模範となる。	用語の使用や表現の誤り。誤字。脱字がほぼなく、丁寧に書いている。	用語の使用や表現の誤り、誤字、脱字がいくつかみられるが、必要な箇所の記述はある。	用語の使用や不適切な表現があり、内容が読み取れない。	課題・レポート (意欲・知識・思考力・表現力・問題解決力)	20%
(3) 実習の事後指導を通して、今後の課題を明確にすることができる。	教育実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、自分で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	実習に関する実習先からの評価や自己評価をもとに、ほぼ一人で今後の課題を見出し、レポートにまとめることができる。	今後の課題を見出すために、他者のアドバイスをもらえば、レポートにまとめることができる。	自分の今後の課題が見い出せず、レポートが提出されない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	10%
					その他 (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	10%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
学校体験活動 School Internship			児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECTP1001	1 年次	前期	
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員				実務家 教員	
実習	1	選択	木橋 奏子					
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○	
概 要	学校体験活動は、幼稚園教諭を目指す学生が、幼稚園で生活する幼児の姿や幼稚園の環境を観察するとともに、園の実務に対する補助的な役割を担うことを通して、幼児の実態と、幼稚園の教育活動の特色を理解することを目的とする。							
到達目標	(1) 幼稚園の運営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制についての基礎を理解している。							
	(2) クラス担任の補助的な役割を担うことができる。							
	(3) クラス担任の役割と職務内容についての基礎を理解している。							
	(4) 様々な活動の場で積極的に幼児と関わることができる。							
授業内容 と 進め方	回	授業内容			予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	オリエンテーション 学校体験活動とは			学校体験活動に関する事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返りと課題レポート	2 時間
	2	事前指導①学校体験活動実施園について			事前配布資料を読み、活動内容を把握する。	2 時間	学校体験活動実施園についての確認	2 時間
	3	事前指導②学校体験活動実施について			学校体験実施園での行事について確認しておく	2 時間	実施園での受入れ行事についての確認	2 時間
	4	事前指導③学校体験活動受入れ参加手続き			学校体験活動の目的等の確認	2 時間	必要書類の完成	2 時間
	5	学校体験活動①の振り返りとまとめ			学校体験活動の報告書を作成する	2 時間	学校体験活動の振り返りとまとめ	2 時間

	学校体験活動内諸園での活動 クラス活動に参加し子どもと関わる、先生方の指示のもと園務の補助を行う、掃除・整理整頓や教材作成等の環境整備を行う等の内容が体験できるように行う。(1年次9月に5日間の活動を行う) ※学校体験活動は教育実習と異なり、担任の先生の業務の補助や行事参加を通して、幼稚園の様々な業務を体験することが主な内容である。
成績評価	課題・レポート(20%)、授業への取り組み(20%)、その他(60%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振返りに使用します。
テキストおよび参考文献	授業時に資料配布
メッセージなど	幼稚園教諭二種免許：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼稚園の運営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制についての基礎を理解している。	事前指導の内容をほぼ完璧に理解している	事前指導内容をある程度理解している	事前指導の内容を最低限理解している	理解できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解)	20%
	事前指導の内容をほぼ完璧に理解している	事前指導内容をある程度理解している	事前指導の内容を最低限理解している	理解できていない。	課題・レポート (関心・意欲・態度・知識・理解)	5%
(2) クラス担任の補助的な役割を担うことができる。	場面に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。	場面に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。	最低限指示された役割を担うことができる。	役割を担うことができない。	その他 (思考力・理解・判断力・表現力)	20%
	場面に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。	場面に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。	最低限指示された役割を担うことができる。	役割を担うことができない。	課題・レポート (思考力・理解・判断力・表現力)	5%
(3) クラス担任の役割と職務内容についての基礎を理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を十分に理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎をある程度理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を最低限理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を理解していない	その他 (知識・理解・思考力・判断力・協働性)	20%
	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を十分に理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎をある程度理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を最低限理解している。	クラス担任の役割と職務内容についての基礎を理解していない	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・協働性)	5%
(4) 様々な活動の場面で積極的に幼児と関わるることができる。	様々な活動の場面で役割を十分に把握し、積極的に幼児と関わるができる。	様々な活動の場面で役割を十分に把握し、ある程度積極的に幼児と関わるができる。	様々な活動の場面で役割を十分に把握し、最低限幼児と関わるができる。	様々な活動の場面で関わるができない。	その他 (思考力・表現力・創造性・協働性・問題解決力)	20%
	様々な活動の	様々な活動の	様々な活動の	様々な活動の	課題・レポート	5%

	場面で役割を十分に把握し、積極的に幼児と関わる事ができる。	場面で役割を十分に把握し、ある程度積極的に幼児と関わる事ができる。	場面で役割を十分に把握し、最低限幼児と関わる事ができる。	場面で関わる事ができない。	(思考力・表現力・創造性・協働性・問題解決力)	
--	-------------------------------	-----------------------------------	------------------------------	---------------	-------------------------	--

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
保育・教職実践演習（幼稚園） Practice of Teaching Profession(Kindergarten)		児童教育学科 幼児教育学専攻		25ECTP2004	2 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習	2	選択	山崎 美智子			○	
実務家教員の詳細		園長としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関 係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要	教育実習と教職に関する既習の科目の知識と技術の統合をはかり、幼稚園教諭として資質能力を高めることを目的に、グループ活動やロールプレイ、地域子育て支援行事への参加などの実践を組み入れ演習形式で授業を行う。						
到達目標	(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。 (2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。 (3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション・教育実習の振り返り（自己評価）・教職履修ファイルの記入木橋		教育実習日誌をまとめる	2 時間	授業の振り返りとファイルのまとめ	2 時間
	2	1 年生に対する実習についての話（観察実習）準備① 木橋		事前配布資料を読んでくる	2 時間	模擬保育の準備	2 時間
	3	1 年生に対する実習についての話（観察実習）②		グループ企画の立案	2 時間	課題レポート	2 時間
	4	1 年生に「観察実習」のことを伝える 木橋・平田・中津		グループ企画の立案	2 時間	グループ課題	2 時間
	5	模擬保育準備①意義・目的・内容 木橋・平田・中津		グループ企画の立案と教材作成	2 時間	グループ企画の立案と確認	2 時間
	6	模擬保育準備②グループ分け ICT 機器を使用した保育についての説明 木橋・平田・中津		グループ企画の教材作成	2 時間	グループ企画の教材作成と確認	2 時間
	7	模擬保育①1 グループ目 木橋・平田・中津		模擬保育の準備	2 時間	模擬保育の準備	2 時間

	8	模擬保育②2 グループ目 木橋・平田・中津	模 擬 保 育 の 準 備	2 時 間	模 擬 保 育 の 準 備	2 時 間
	9	模擬保育③3 グループ目 木橋・平田・中津	模 擬 保 育 の 準 備	2 時 間	模 擬 保 育 の 準 備	2 時 間
	10	模擬保育④4 グループ目 木橋・平田・中津	模 擬 保 育 の 準 備	2 時 間	模 擬 保 育 の 準 備	2 時 間
	11	1 年生に対する実習について の準備（施設実習） 木橋・平田・中津	事 前 配 布 レ ポ ー ト	2 時 間	課 題 レ ポ ー ト	2 時 間
	12	1 年生に「施設実習」の事を伝 える 木橋・平田・中津	グ ル ー プ 企 画 の 立 案	2 時 間	課 題 レ ポ ー ト	2 時 間
	13	模擬保育の振り返り 教育実習評価表に基づく事後 指導と今後の課題の明確化① ドキュメンテーション制作① 木橋・平田・中津	グ ル ー プ で の 話 の ま と め	2 時 間	課 題 レ ポ ー ト	2 時 間
	14	教育実習評価表に基づく事後 指導と今後の課題の明確化② ドキュメンテーション制作② 木橋・平田・中津	事 前 配 布 資 料 を 読 む	2 時 間	各 自 の 課 題 へ の 取 り 組 み	2 時 間
	15	保育実践及び授業の振り返り 教職履修ファイル整理 木橋・平田・中津	各 自 の 課 題 へ の 確 認 と ま と め	2 時 間	課 題 レ ポ ー ト	2 時 間
成 績 評 価		課題・レポート（30%）、指導案（10%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（30%）、毎回の授業の感想・振り返り（15%）				
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法		レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振り返りに使用します。				
テキストおよび 参 考 文 献		参考文献：幼稚園教育要領				
メ ッ セ ー ジ な		幼稚園教諭二種免許：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。	幼稚園教諭としての資質・能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質・能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質・能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度・協働性・表現力）	15%
	幼稚園教諭としての資質・能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質・能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質・能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・態度・協働性・表現力）	15%
(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	30%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	10%
(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	指導案（知識・理解・技能・判断力・表現力）	10%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	発表・プレゼンテーション（知識・理解・思考力・判断力・問題解決力）	20%

学校法人 第二麻生学園

YJC 山 口 短 期 大 学

〒747-1232 山口県防府市大字台道字大繁枝 11346 番の2

TEL 0835-32-0138

FAX 0835-32-0149

URL <https://www.yamaguchi-jc.ac.jp/>

E-mail info@yamaguchi-jc.ac.jp

山口短期大学 博多キャンパス

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目 19 番 18 号

TEL 092-483-1900

FAX 092-483-1905